

第7期北塩原村障がい福祉計画及び
第3期北塩原村障がい児福祉計画策定に係る
アンケート調査

－ 調査結果報告書 －

令和6年3月

北 塩 原 村

目 次

I 調査の概要

1	調査の目的	
2	調査の対象者	
3	調査実施方法及び期間	
4	アンケート回収結果	
5	集計について	2

II 福祉に関するアンケート調査 集計結果

◇	あなた（宛名の方）の年齢・性別・障がいの状況などについて	3
◇	あなたの住まいや暮らしについて	12
◇	日中活動や就労について	18
◇	保健・医療について	26
◇	教育・就学について	28
◇	医療的ケアについて	31
◇	相談相手について	33
◇	あなたの障害福祉サービス等の利用について	36
◇	権利擁護について	45
◇	災害時の避難等について	48
◇	障がい者への理解について	51
◇	将来の暮らし方について	53

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

第7期北塩原村障がい福祉計画及び第3期北塩原村障がい児福祉計画を策定するにあたり、村民の福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向などを把握し、計画策定や施策推進に役立てることを目的にアンケート調査を実施するものです。

2 調査の対象者

①身体障害者手帳所持者	114人	計161人 (重複者を除く)
②精神障害者保健福祉手帳所持者	30人	
③療育手帳所持者	12人	
④障がい福祉サービス利用者 (重複所有者)	8人 (3人)	

3 調査実施方法及び期間

調査実施方法	郵送調査（郵送による配布・回収）
調査実施期間	令和5年9月11日（月）～9月29日（金） (令和5年10月5日（木）到着分まで集計)

4 アンケート回収結果

	発送数 (手帳所持者等)	回収数	回収率
身体障がい	114人	67人	58.8%
精神障がい	30人	15人	50.0%
知的障がい	12人	11人	91.7%
障がい福祉サービス (重複所有者)	8人 (3人)	—	—
(所有手帳無回答)	—	2人	—
合計	164人	95人	57.9%

5 集計について

- ・集計結果を百分率(%)で表す場合、小数点第2位を四捨五入し第1位までの表記とした。このため、百分率の合計が100にならない場合があります。
- ・母数(n=●と表記)は、回答者全員が答えるべき設問については回答者数、条件付き設問については、その設問に答えるべき該当者の数とします。
- ・複数回答を可とした設問で、選択肢をひとつも選択しなかった場合は「無回答」として集計します。
- ・単数回答(一つのみ選択)の設問において、複数選択した場合は、上記と同様に「無回答」として集計します。
- ・グラフ表示に際して、選択肢が多い場合などは、一部値の小さい数値の表記を省略する場合があります。
- ・クロス集計において、性別の各回答が無い対象者はグラフから除外しています。そのため、性別の各合計は全体とは一致しないことがあります。
- ・障がい別のクロス集計は、身体・療育・精神の各手帳をお持ちの方をそれぞれの対象者として集計しています(複数の手帳をお持ちの方は、それぞれの対象者として集計しています)。

Ⅱ 福祉に関するアンケート調査

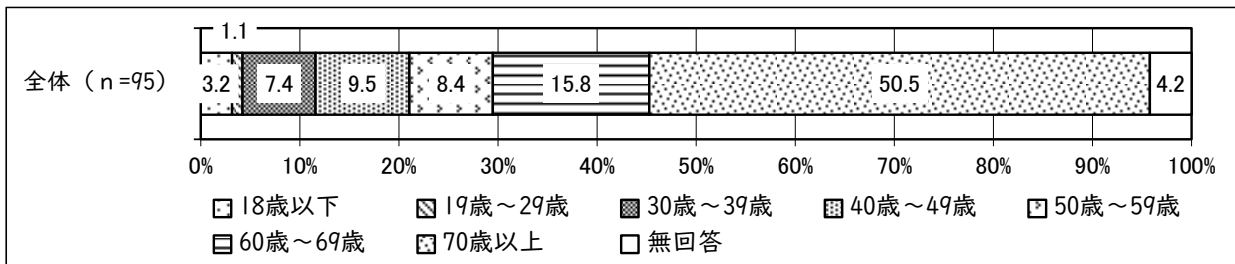
集計結果

Ⅱ 福祉に関するアンケート調査 集計結果

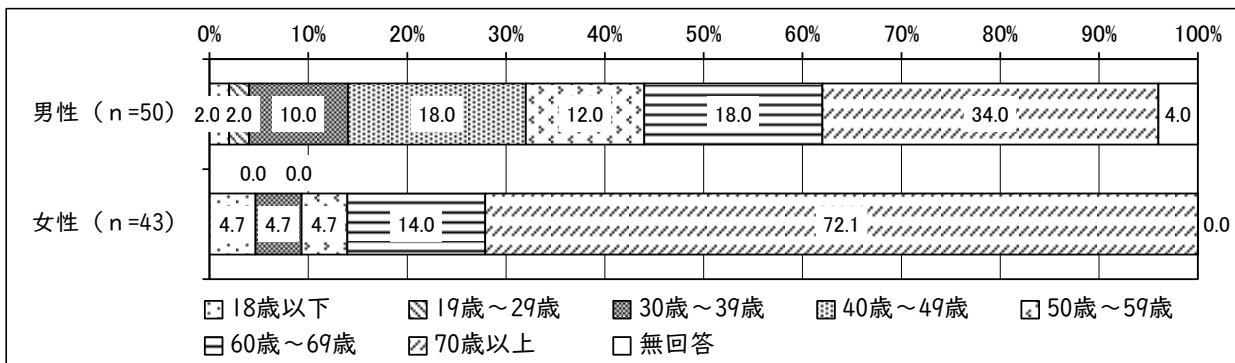
◇ あなた（宛名の方）の年齢・性別・障がいの状況などについて

問1 あなたの年齢をお答えください。（令和5年8月1日現在。）

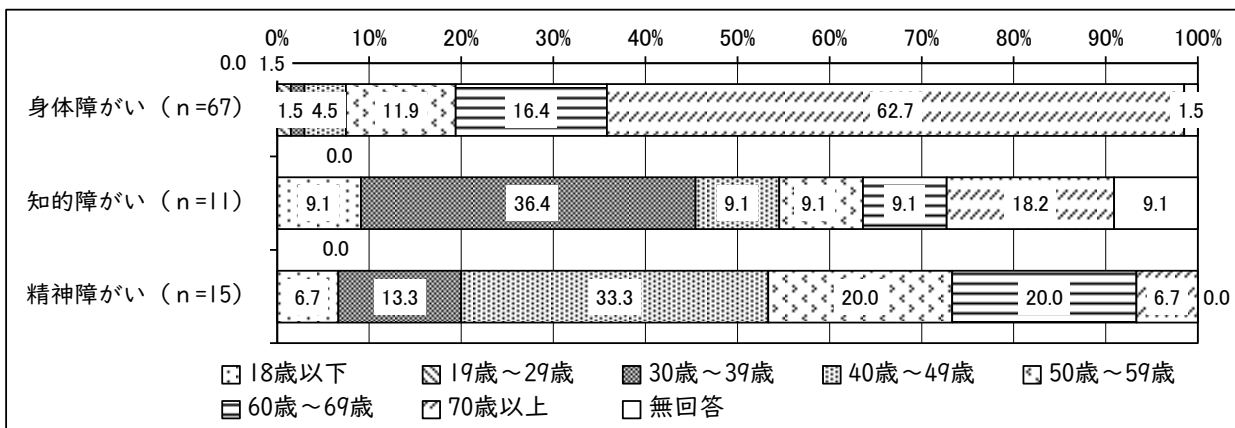
回答者の年齢は、「70歳以上」が50.5%と最も高く、以下、「60歳～69歳」（15.8%）、「40歳～49歳」（9.5%）、「30歳～39歳」（7.4%）、「18歳以下」（3.2%）、「19歳～29歳」（1.1%）となっています。



性別にみると、女性は「70歳以上」が72.1%など高齢者の比率が高いのに対し、男性は30～59歳の比率が高くなっています。

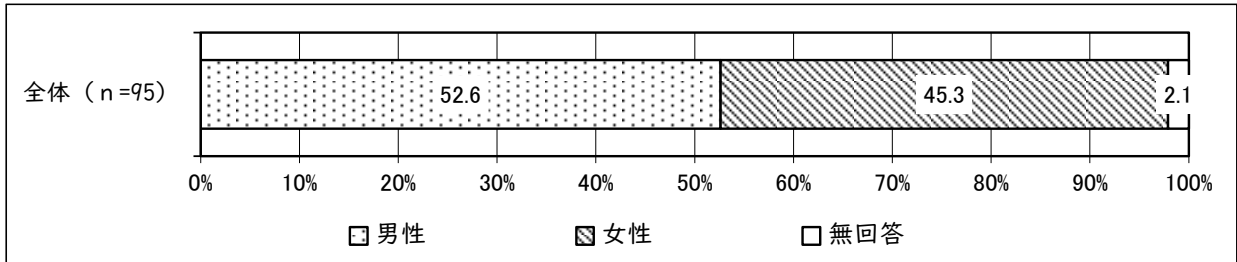


障がい別にみると、身体障がいは「70歳以上」が62.7%と、高齢者の比率が高くなっています。

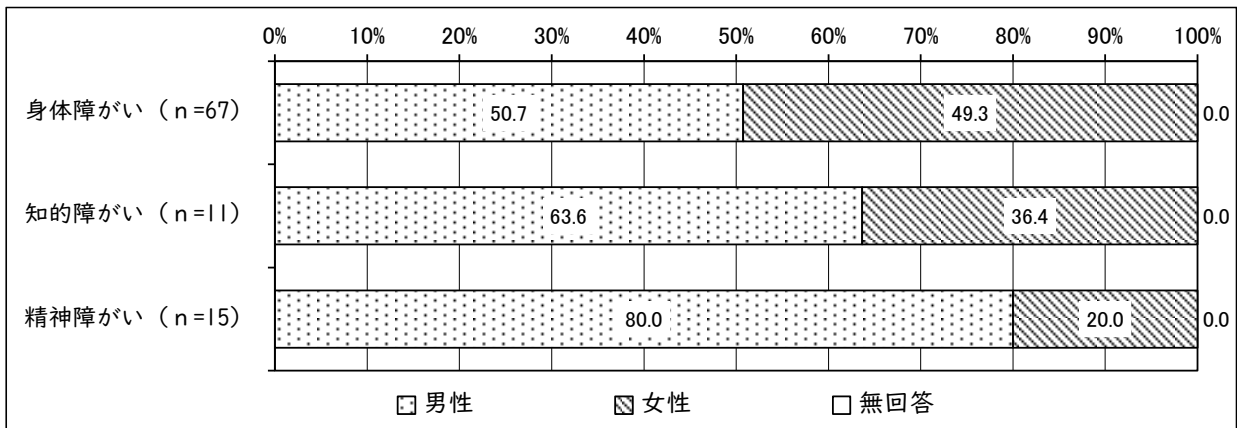


問2 あなたの性別をお答えください。

回答者の性別は、「男性」が52.6%、「女性」が45.3%と、男性の比率がやや高くなっています。

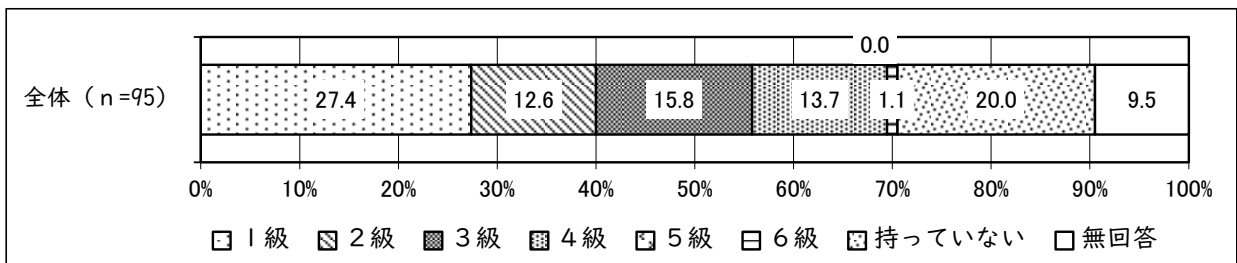


障がい別にみると、身体障がいは「女性」(49.3%)が、精神障がい及び知的障がいは「男性」(80.0%、63.6%)の比率が高くなっています。



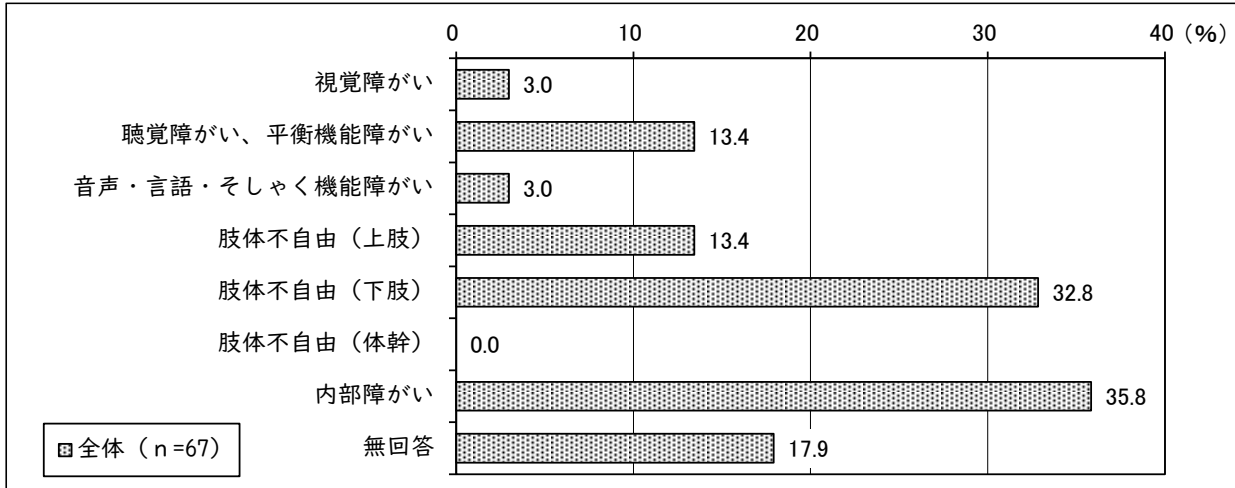
問3 あなたは身体障がい者手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)

身体障害者手帳の所有状況は、「1級」が27.4%、「3級」が15.8%、「4級」が13.7%、「2級」が12.6%、「6級」が1.1%であり、「持っていない」は20.0%、「無回答」は9.5%となっています。



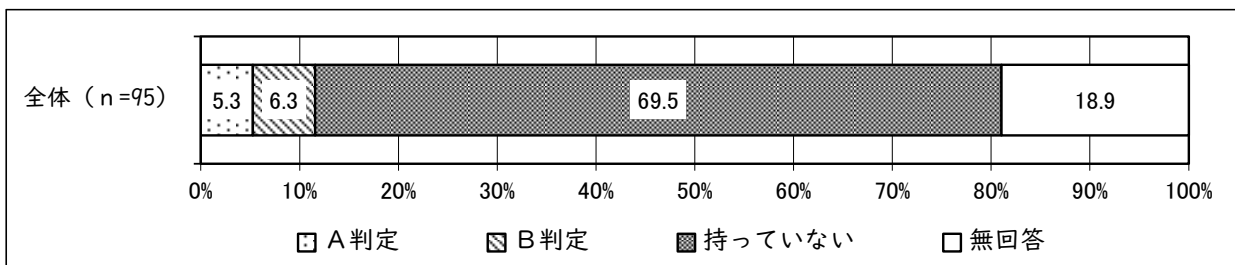
問4 身体障がい者手帳をお持ちの場合、障がいの区分はどれですか。（当てはまるすべての障がいの番号に○）

障がいの種類は、「内部障がい」が35.8%と最も高く、以下、「肢体不自由（下肢）」（32.8%）、「聴覚障がい、平衡機能障がい」及び「肢体不自由（上肢）」（ともに13.4%）と続いています。



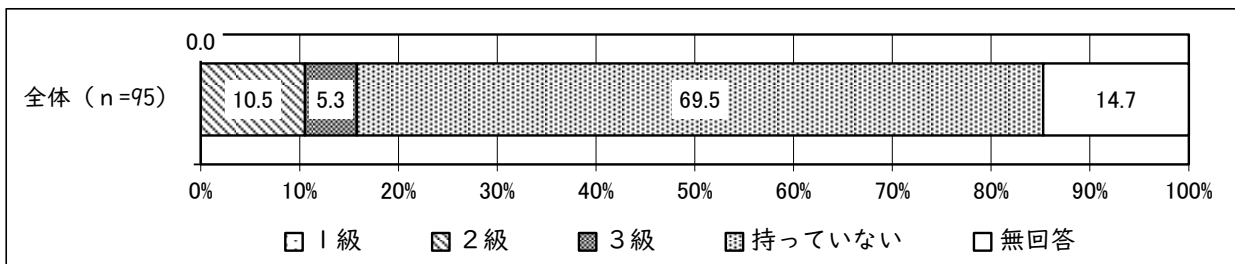
問5 療育手帳をお持ちですか。

療育手帳の所有状況は、「B判定」が6.3%、「A判定」が5.3%であり、「持っていない」は69.5%、「無回答」は18.9%となっています。



問6 精神障がい者保健福祉手帳をお持ちですか。

精神障害者保健福祉手帳の所有状況は、「2級」が10.5%、「3級」が5.3%であり、「持っていない」は69.5%、「無回答」は14.7%となっています。

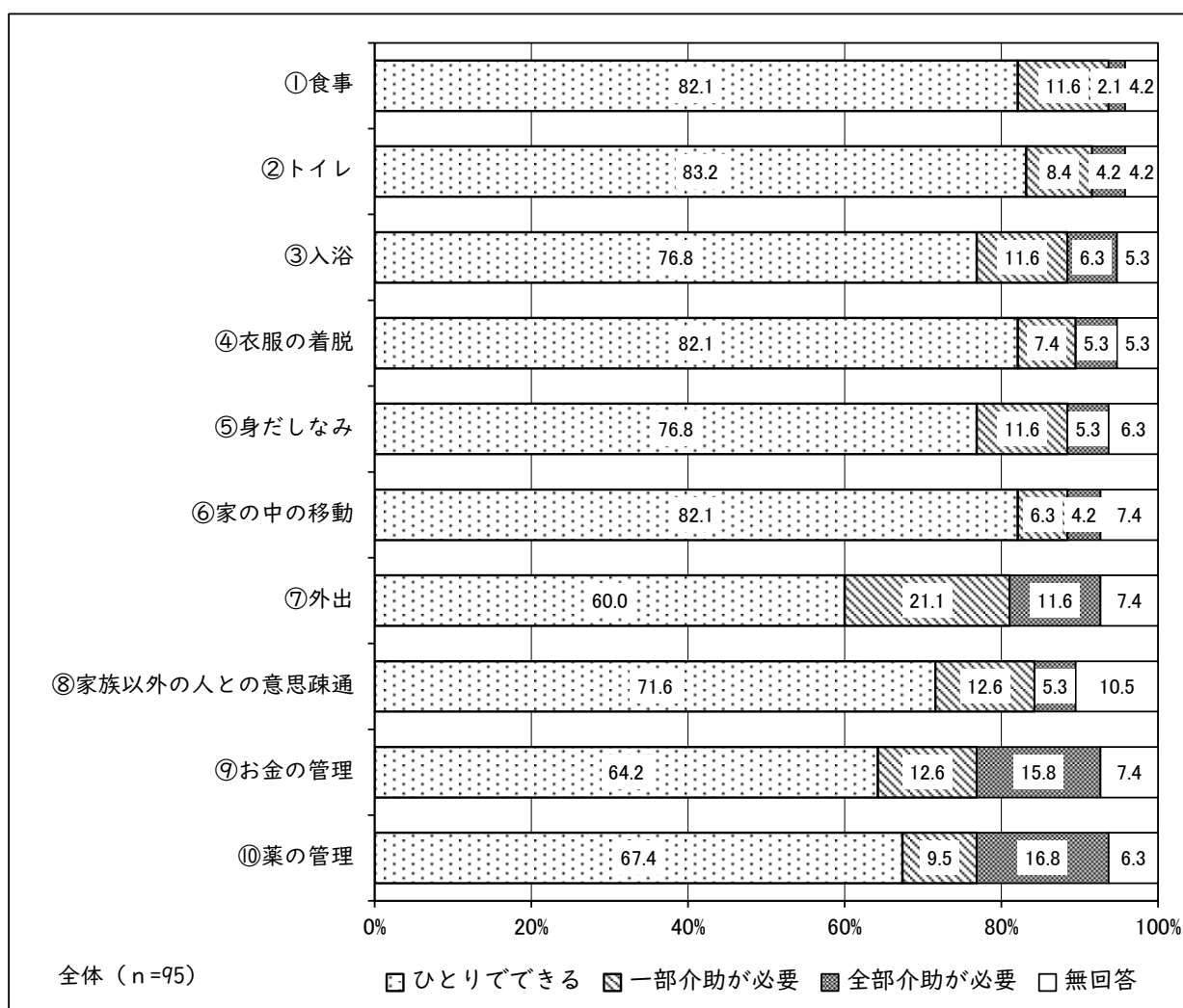


問7 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。①から⑩のそれぞれにお答えください。（①から⑩それぞれに○を1つ）

日常生活について、「ひとりでできる」の回答をみると、「②トイレ」が83.2%と最も高く、以下、「①食事」、「④衣服の着脱」、「⑥家の中の移動」（それぞれ82.1%）、「③入浴」及び「⑤身だしなみ」（ともに76.8%）、「⑧家族以外の人との意思疎通」（71.6%）、「⑩薬の管理」（67.4%）、「⑨お金の管理」（64.2%）、「⑦外出」（60.0%）となっています。

一方、「全部介助が必要」は、「⑩薬の管理」（16.8%）や「⑨お金の管理」（15.8%）、「⑦外出」（11.6%）などが高くなっています。

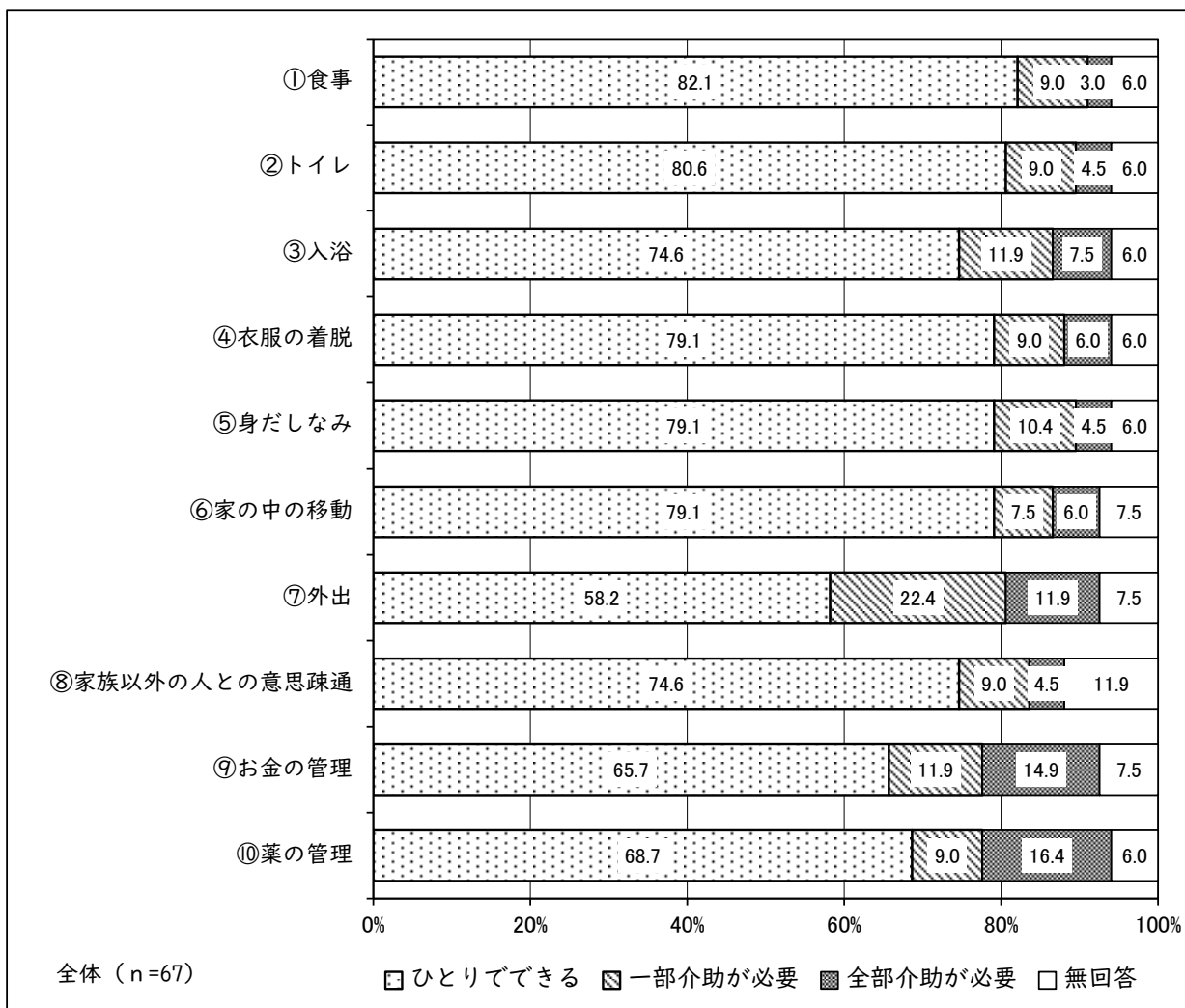
◇全体



身体障がいでは、「ひとりでできる」は、「①食事」(82.1%)や「②トイレ」(80.6%)などが高い比率となっています。

一方、「全部介助が必要」は、「⑩薬の管理」(16.4%)や「⑨お金の管理」(14.9%)、「⑦外出」(11.9%)などが高くなっています。

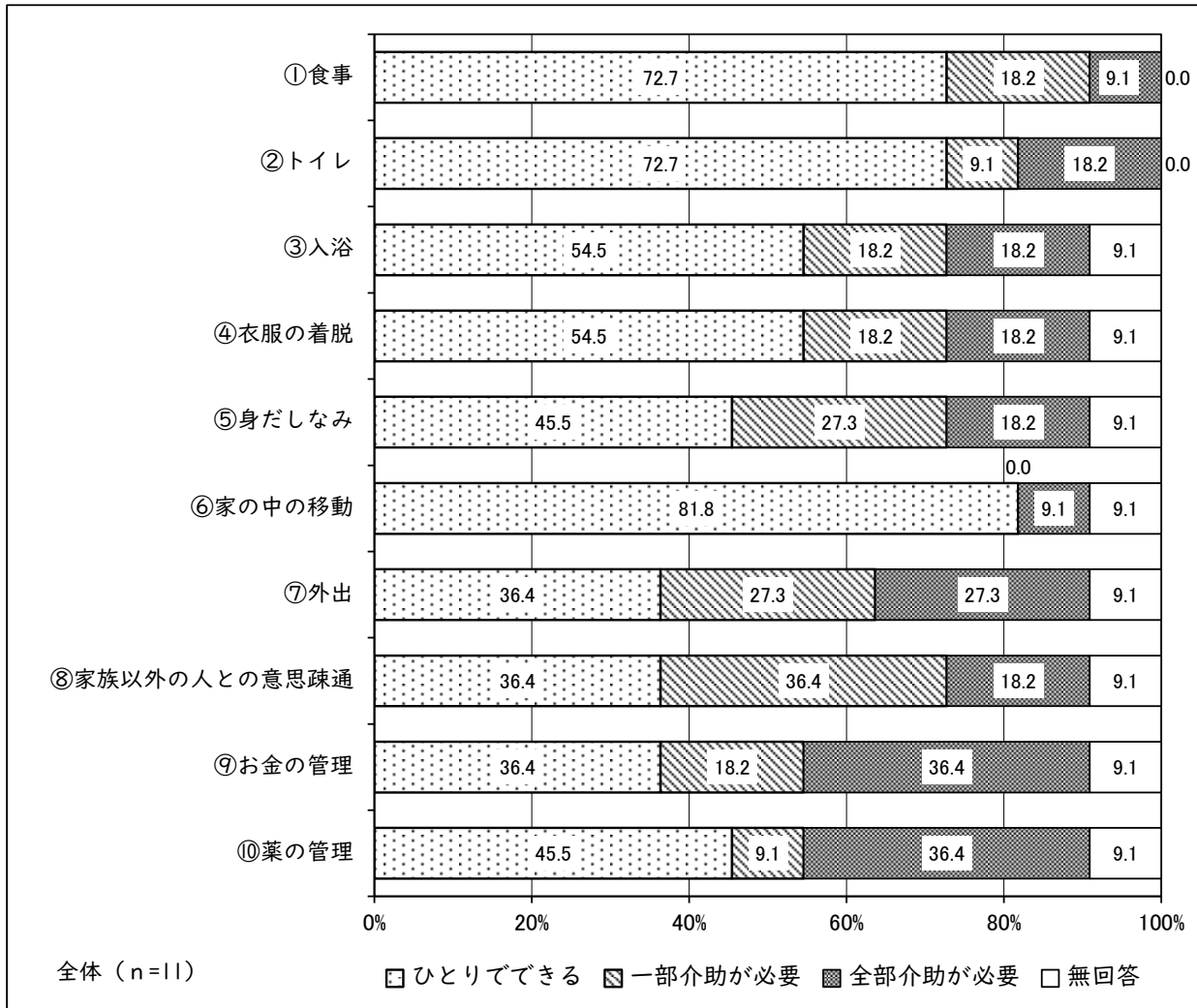
◇身体障がい



知的障がいでは、「ひとりでできる」は、「⑥家の中の移動」(81.8%)や「①食事」及び「②トイレ」(ともに72.7%)などが高い比率となっています。

一方、「全部介助が必要」は、「⑨お金の管理」及び「⑩薬の管理」(ともに36.4%)や「⑦外出」(27.3%)などが高くなっています。

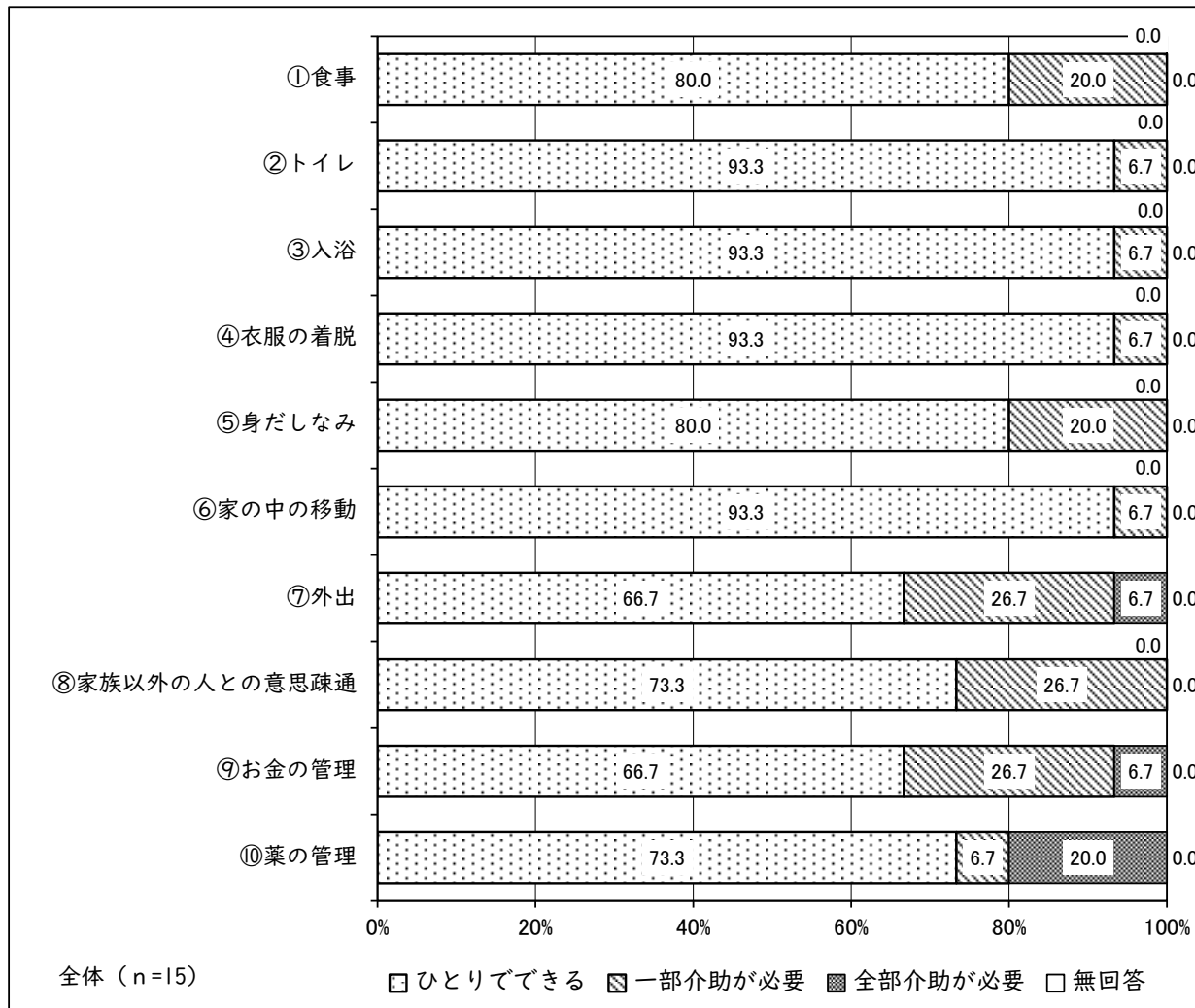
◇知的障がい



精神障がいでは、「ひとりでできる」は、「②トイレ」、「③入浴」、「④衣服の着脱」、「⑥家の中の移動」がそれぞれ93.3%と高い比率となっています。

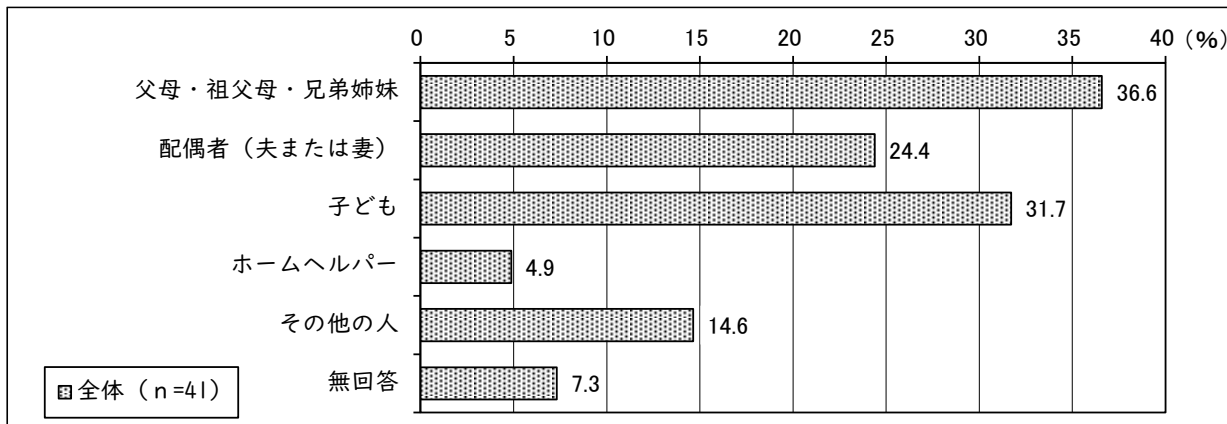
一方、「全部介助が必要」は、「⑩薬の管理」(20.0%)が高い比率となっています。

◇精神障がい

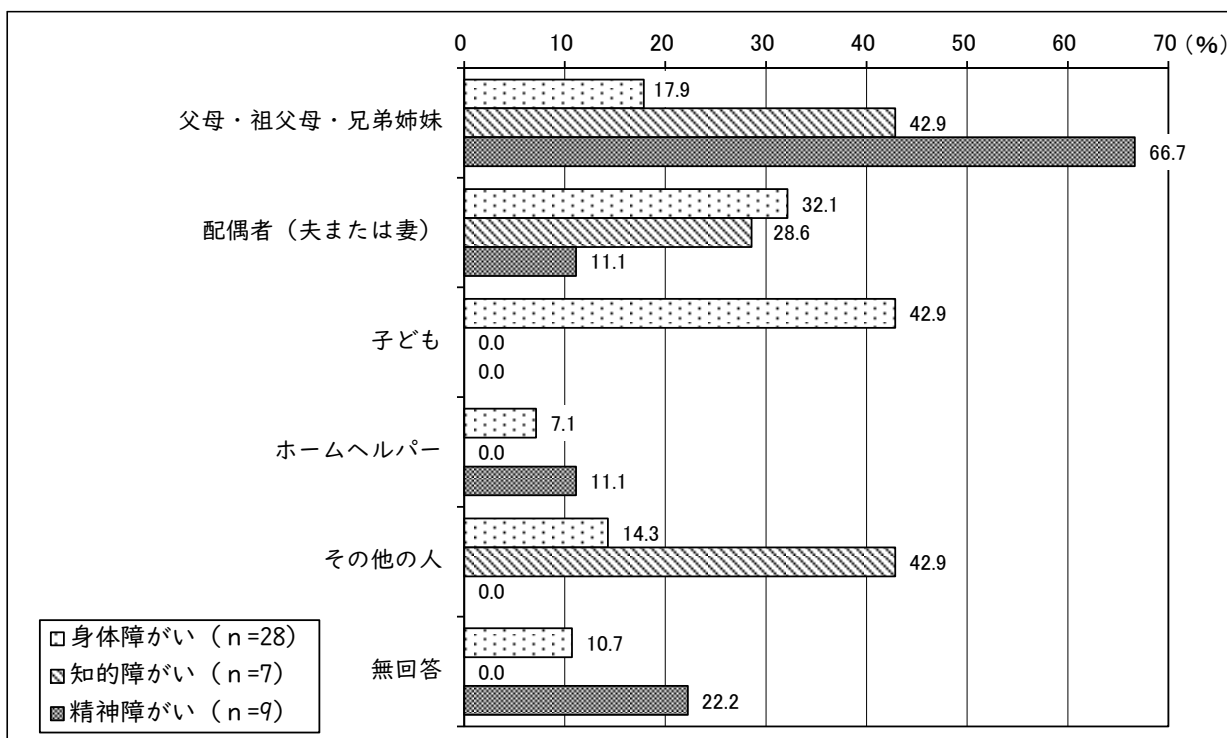


【※問8は、問7で「一部介助が必要」又は「全部介助が必要」と答えた方にお伺いします】
 問8 あなたを介助してくれる方は主に誰ですか。（あてはまるものにすべてに○）

介助者は、「父母・祖父母・兄弟姉妹」が36.6%と最も高く、以下、「子ども」(31.7%)、「配偶者(夫または妻)」(24.4%)、「ホームヘルパー」(4.9%)となっています。



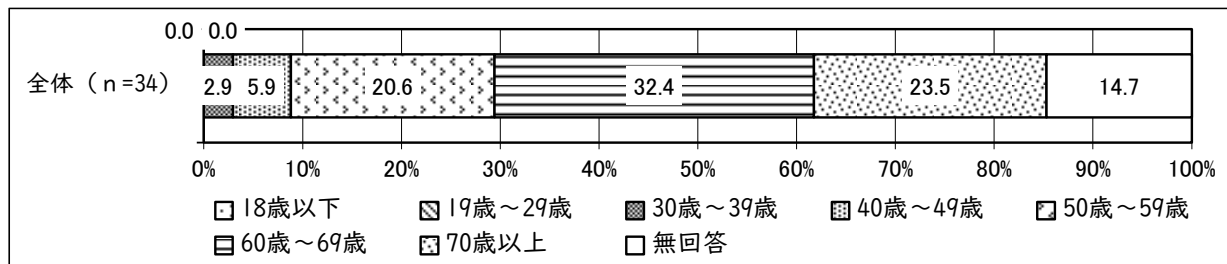
障がい別にみると、身体障がいは「子ども」(42.9%)や「配偶者(夫または妻)」(32.1%)が、知的障がいは「その他の人」(42.9%)が、精神障がいは「父母・祖父母・兄弟姉妹」(66.7%)が、それぞれ他障がいより比率が高くなっています。



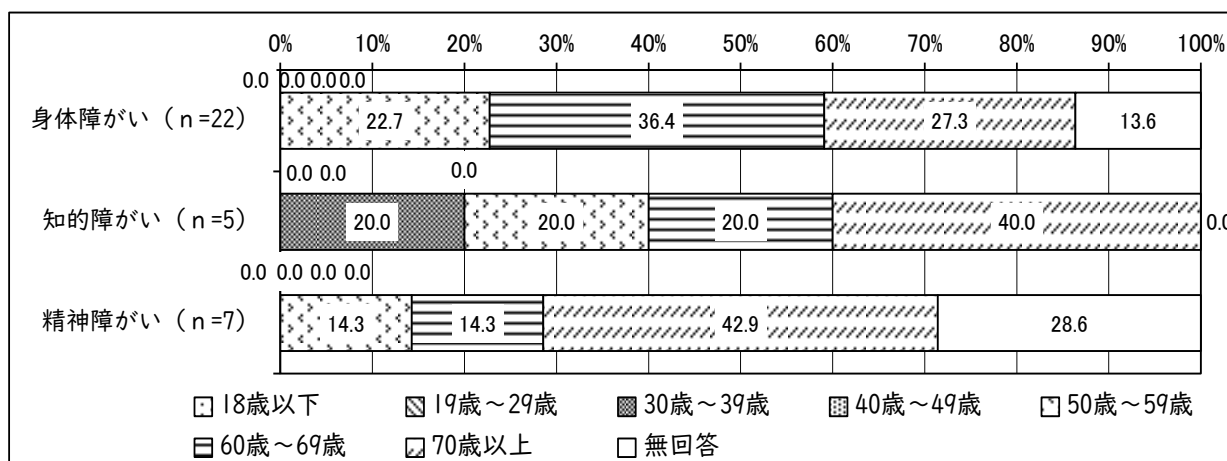
【※問8-1は、問8で「父母・祖父母・兄弟姉妹」、「配偶者（夫または妻）」、「子ども」と答えた方にお伺いします】

問8-1 あなたを介助している家族で特に中心となっている方の年齢をお答えください。（令和5年8月1日現在。）

介助している家族の年齢は、「60歳～69歳」が32.4%と最も高く、以下、「70歳以上」(23.5%)、「50歳～59歳」(20.6%)、「40歳～49歳」(5.9%)、「30歳～39歳」(2.9%)となっています。



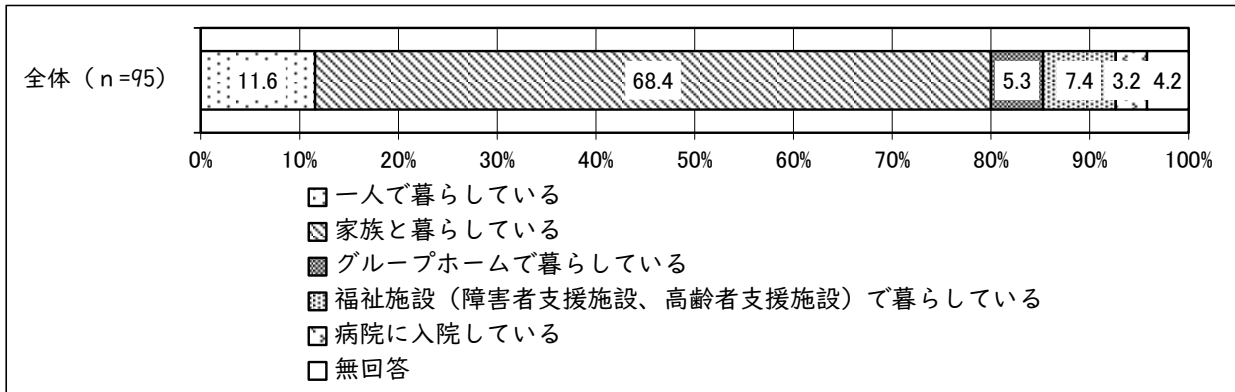
障がい別にみると、身体障がいは「60歳～69歳」(36.4%)が、精神障がい及び知的障がいは「70歳以上」(それぞれ42.9%、40.0%)が最も比率が高くなっています。



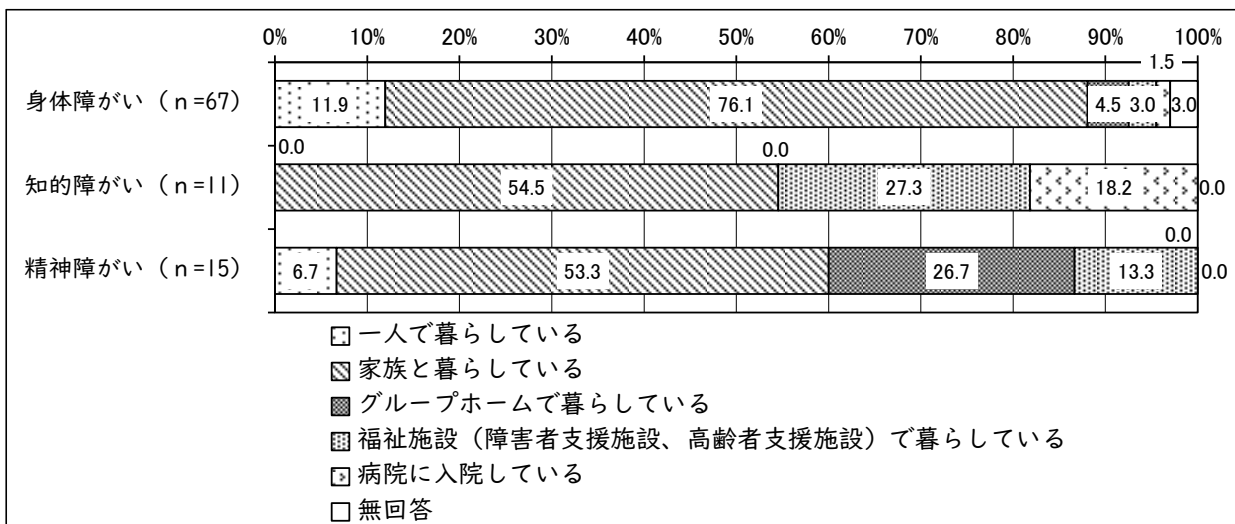
◇ あなたの住まいや暮らしについて

問9 あなたは現在、どのように暮らしていますか。(○は1つだけ)

現在の住まいは、「家族と暮らしている」が68.4%と多数を占め、以下、「一人で暮らしている」が11.6%、「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしている」が7.4%、「グループホームで暮らしている」が5.3%、「病院に入院している」が3.2%となっています。

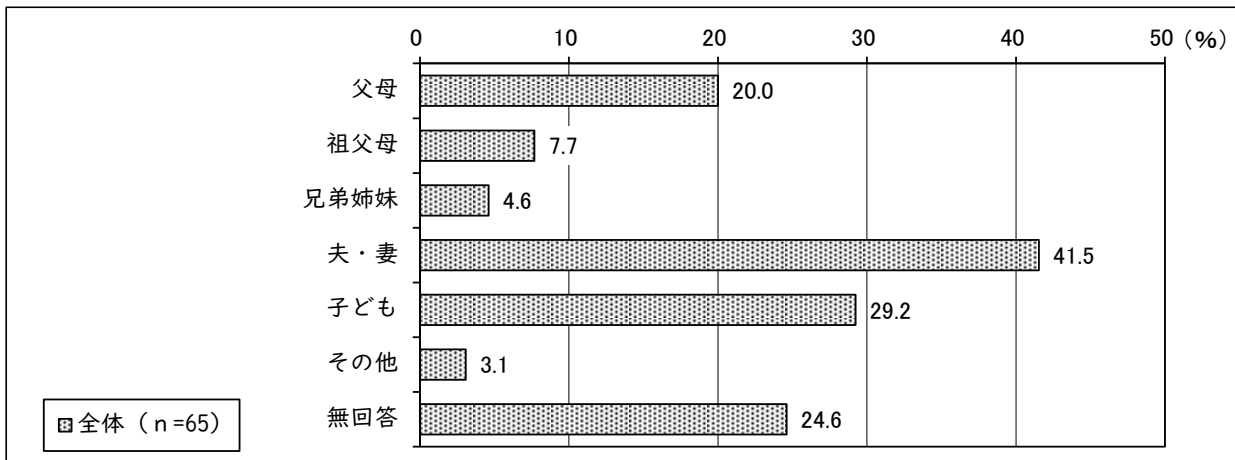


いずれの障がいも「家族と暮らしている」の比率が最も高くなっていますが、知的障がいでは「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしている」(27.3%)、精神障がいでは「グループホームで暮らしている」(26.7%)の比率も高くなっています。

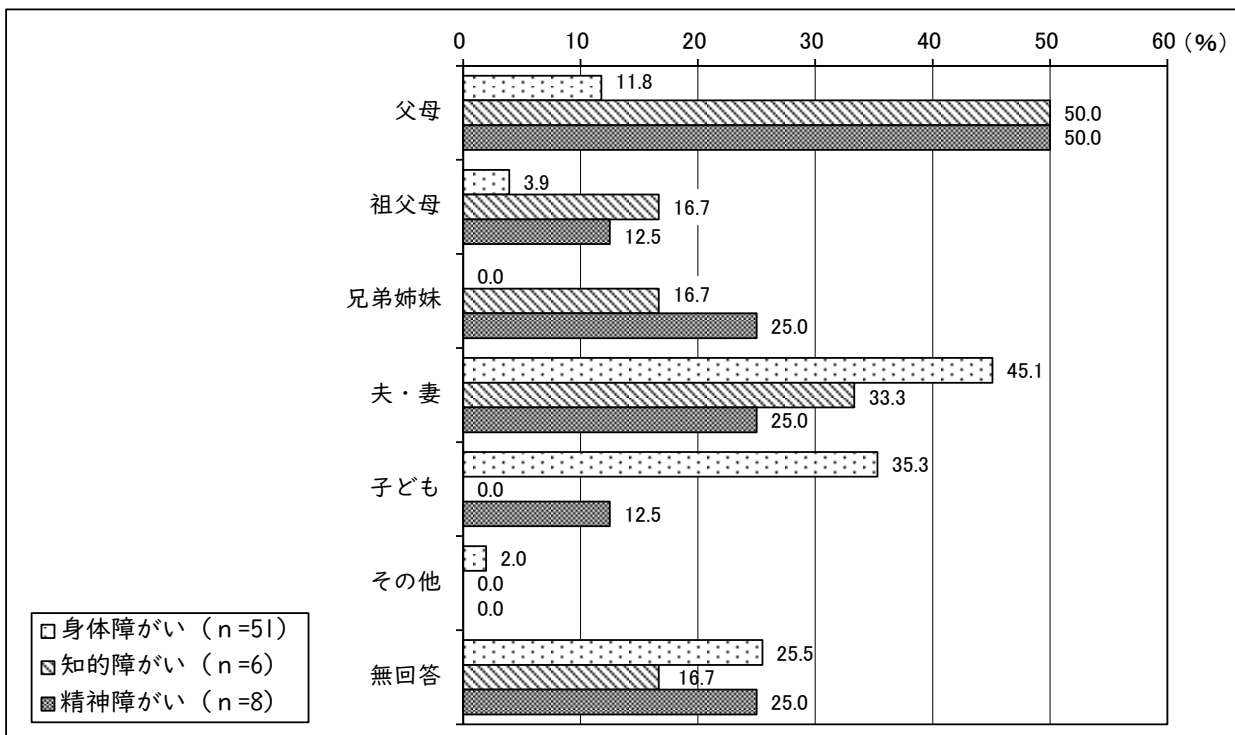


「家族と暮らしている」（あてはまるものすべてに○）

同居している家族は、「夫・妻」が41.5%と最も高く、以下、「子ども」が29.2%、「父母」が20.0%となっています。

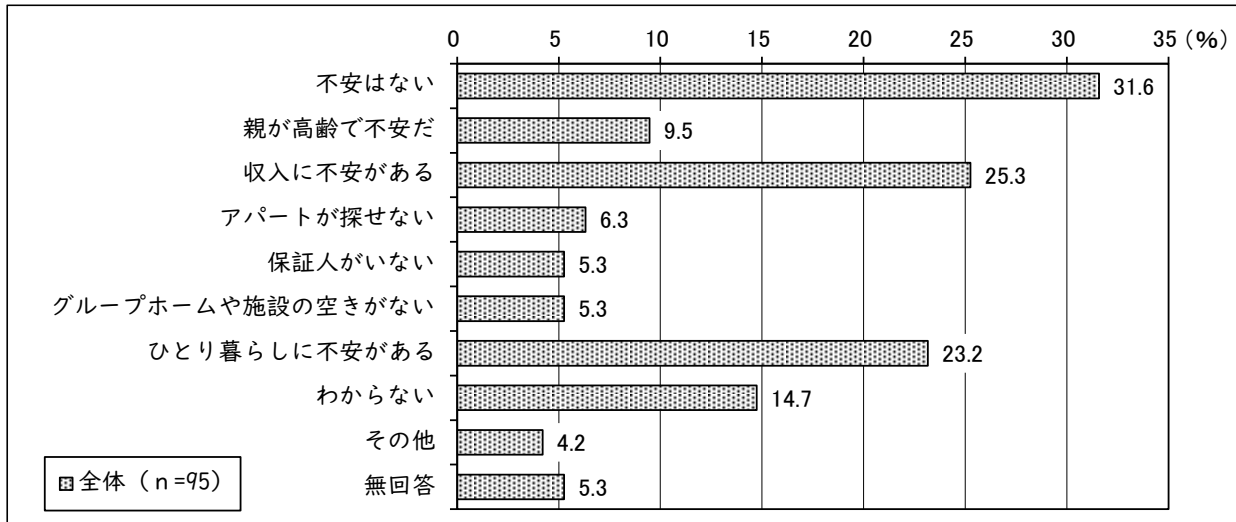


身体障がい者は「夫・妻」(45.1%)や「子ども」(35.3%)の比率が高く、精神障がい及び知的障がい者は「父母」(ともに50.0%)や「兄弟姉妹」(それぞれ25.0%、16.7%)の比率が高くなっています。

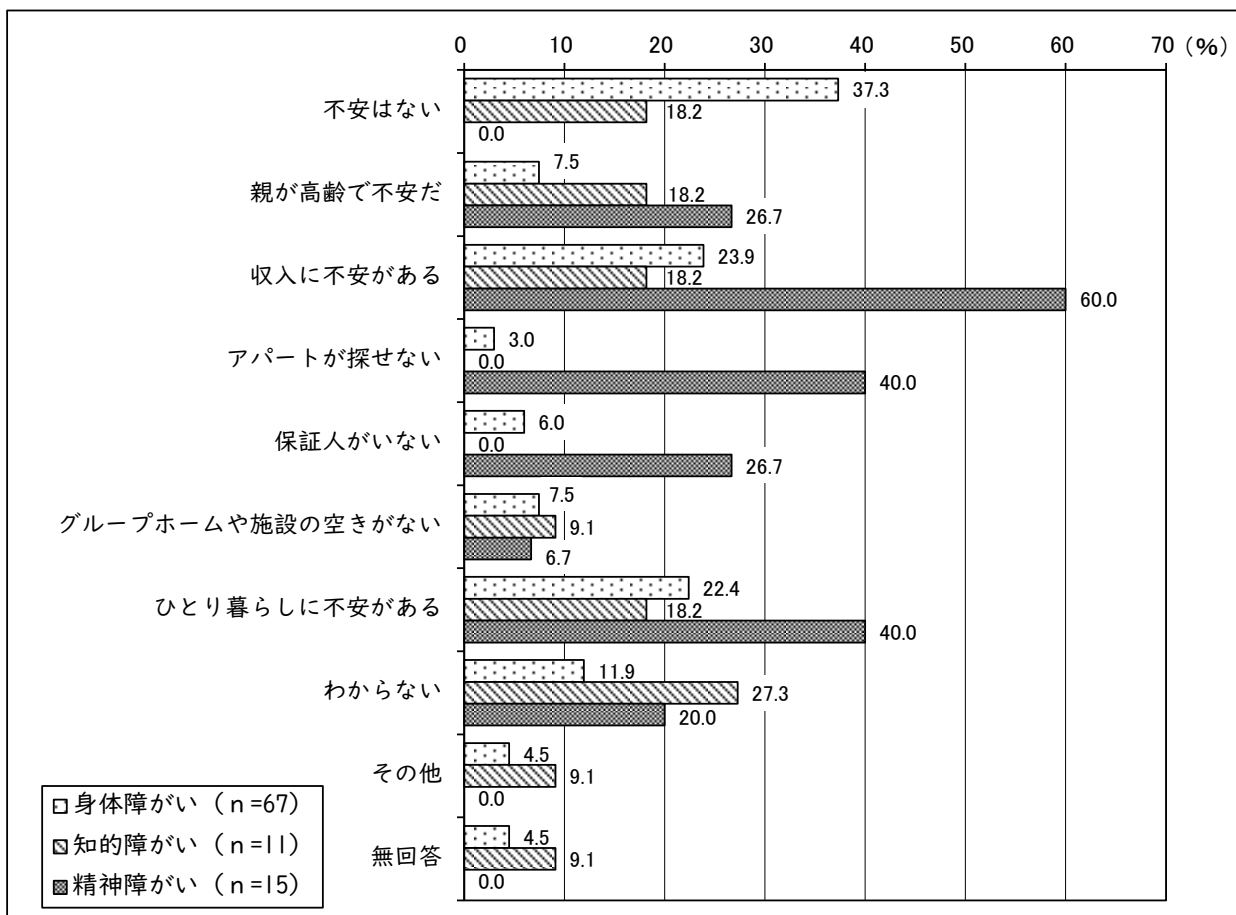


問10 将来、住まいについての不安はありますか。(〇はいくつでも)

将来、住まいについての不安があるかについては、「不安はない」が31.6%と最も高くなっており、以下、「収入に不安がある」(25.3%)、「ひとり暮らしに不安がある」(23.2%)、「わからない」(14.7%) などとなっています。

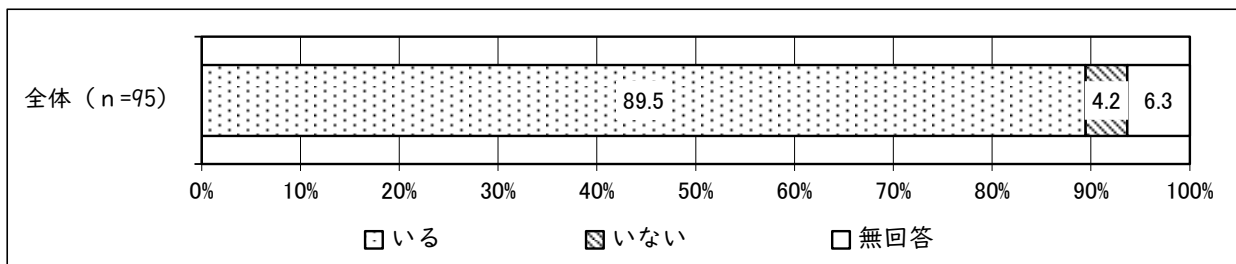


障がい別にみると、身体障がいは「不安はない」(37.3%)が最も高くなっていますが、精神障がいでは「収入に不安がある」(60.0%)や「アパートが探せない」及び「ひとり暮らしに不安がある」(ともに40.0%)が他を大きく上回っています。

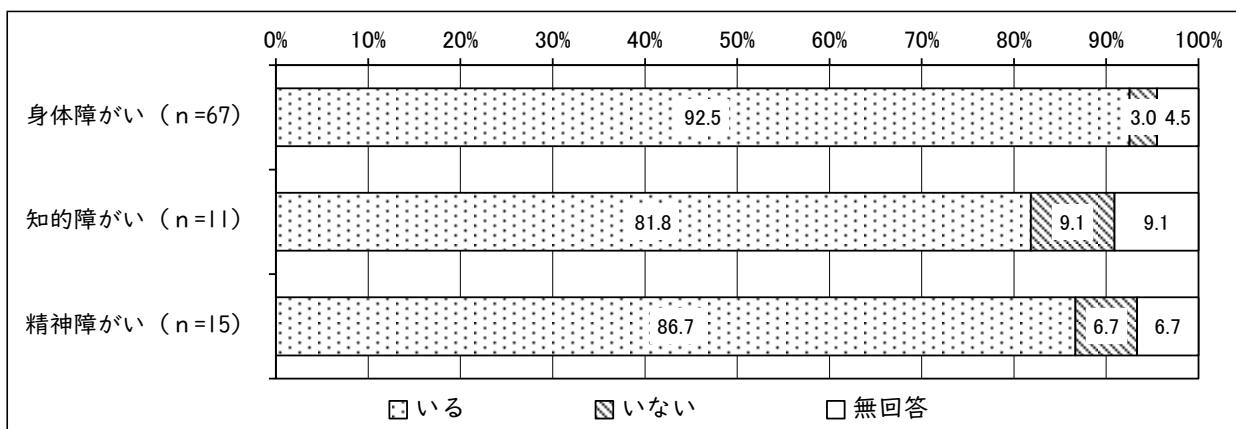


問11 緊急時に支援をしてくれる人はいますか。(どちらかに○)

緊急時に支援をしてくれる人がいるかは、「いる」が89.5%と多数を占め、「いない」は4.2%となっています。

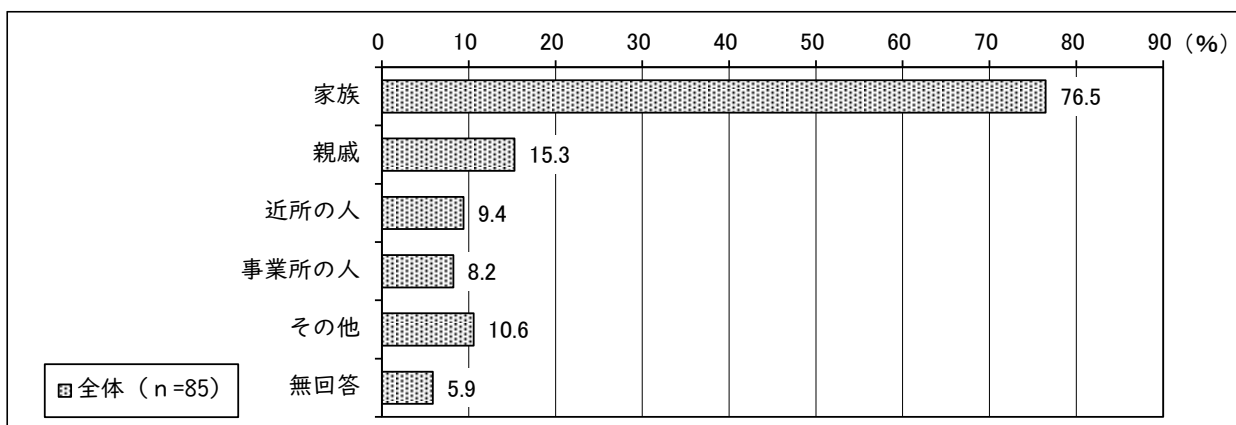


障がい別にみると、知的障がいでは「いない」が9.1%と、他障がいよりやや高くなっています。

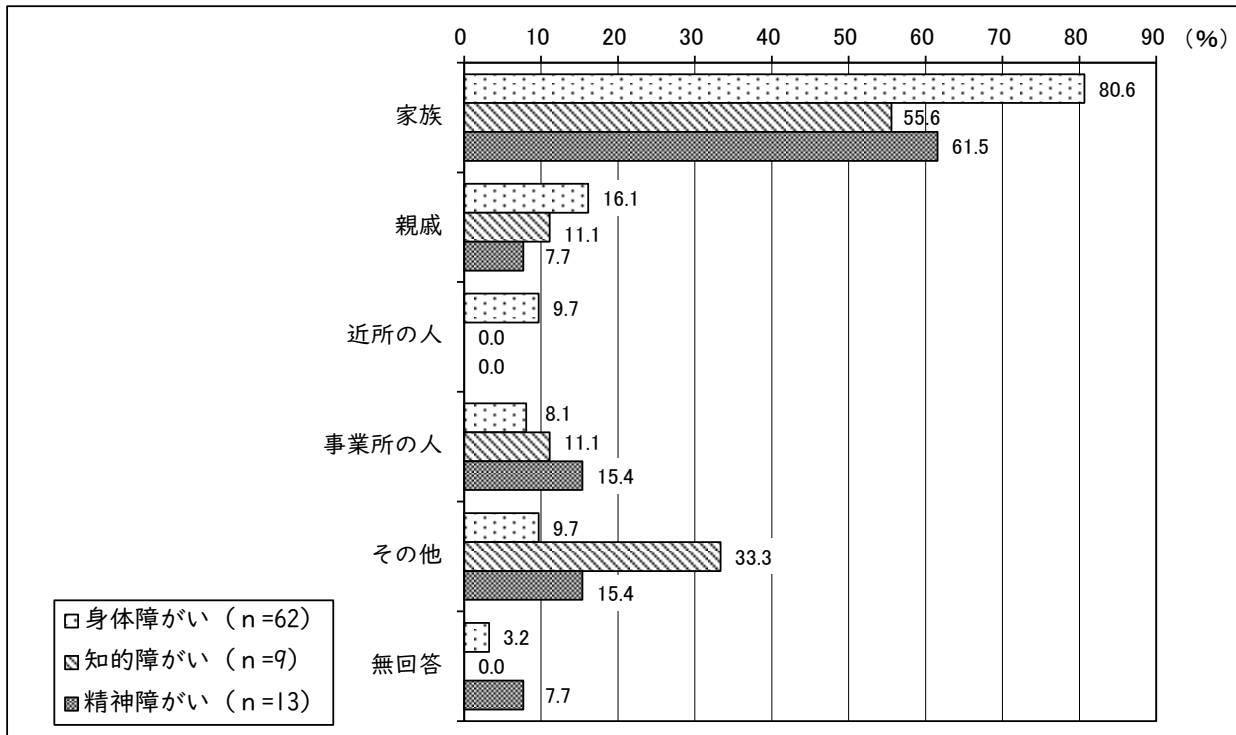


「いる」(あてはまるものすべてに○)

支援してくれる人は、「家族」が76.5%と多数を占め、以下、「親戚」(15.3%)、「近所の人」(9.4%)、「事業所の人」(8.2%)となっています。

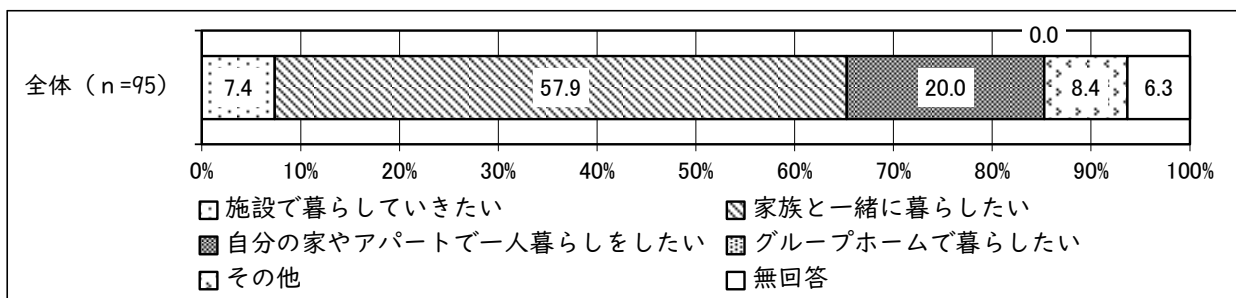


障がい別にみると、いずれの障がいも「家族」が最も高く、身体障がいは80.6%、知的障がいは55.6%、精神障がいは61.5%となっています。また、知的障がいや精神障がいにおいて福祉施設で暮らしている人などは「事業所の人」との回答（それぞれ11.1%、15.4%）の比率が高くなっています。

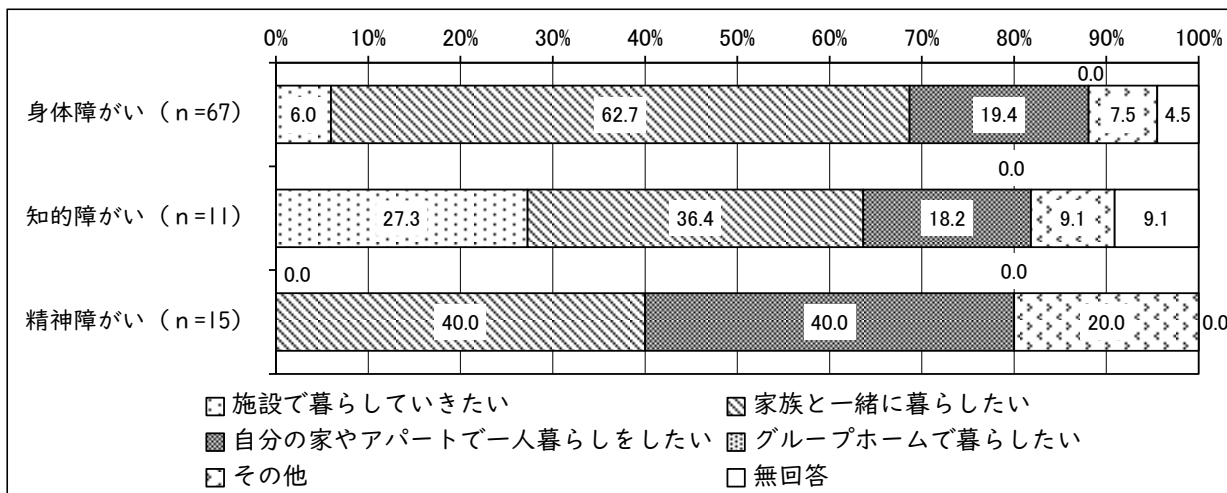


問12 あなたは今後、どのように暮らしていきたいですか。（○は1つだけ）

今後、どのように暮らしたいかは、「家族と一緒に暮らしたい」が57.9%と最も高く、以下、「自分の家やアパートで一人暮らしをしたい」(20.0%)、「施設で暮らしていきたい」(7.4%)となっています。

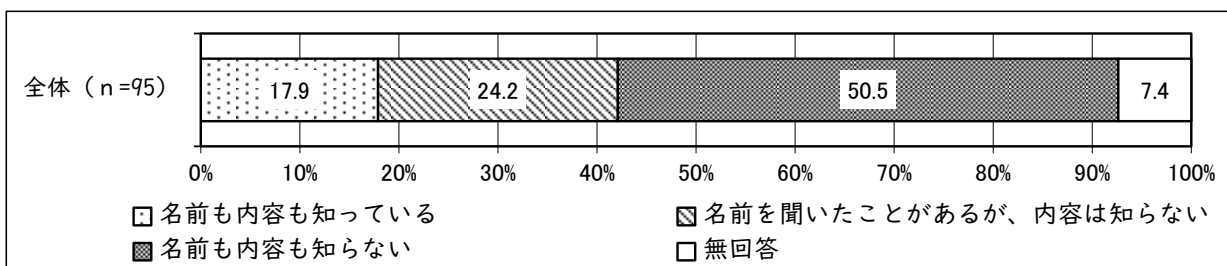


障がい別にみると、いずれの障がいも「家族と一緒に暮らしたい」が高くなっていますが、精神障がいは「自分の家やアパートで一人暮らしをしたい」が40.0%と、他障がいを上回っています。

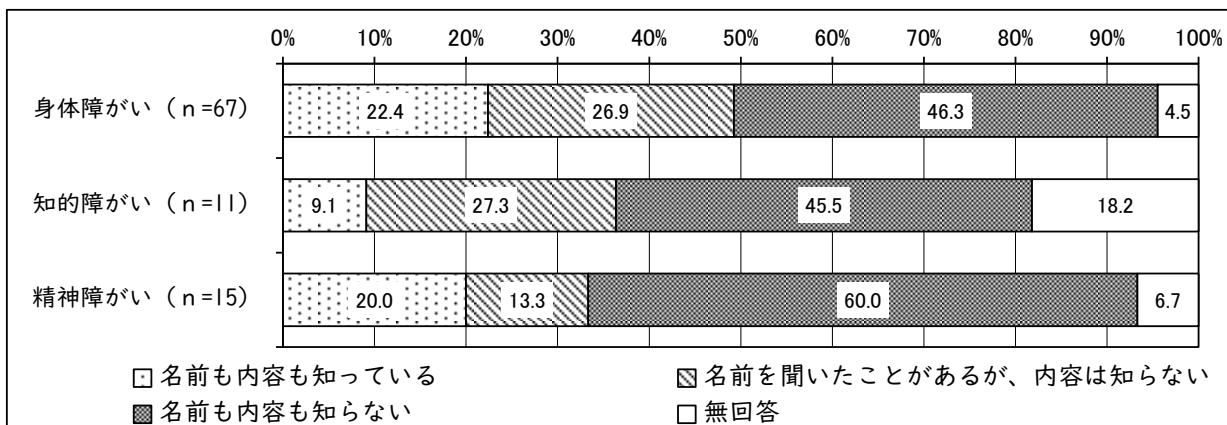


問13 地域生活支援拠点等整備事業をご存じですか。(○は1つだけ)

地域生活支援拠点等整備事業を知っているかについては、「名前も内容も知らない」が50.5%と過半数を占め、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」は24.2%、「名前も内容も知っている」は17.9%となっています。

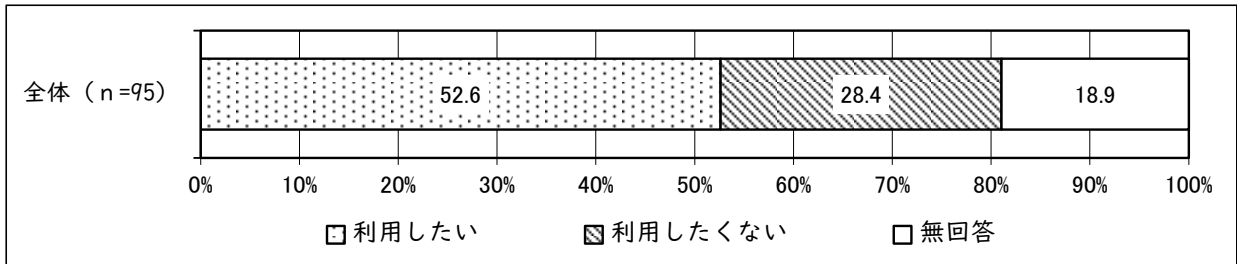


障がい別にみると、いずれの障がいも「名前も内容も知らない」が高くなっており、特に精神障がいは60.0%と多数を占めています。

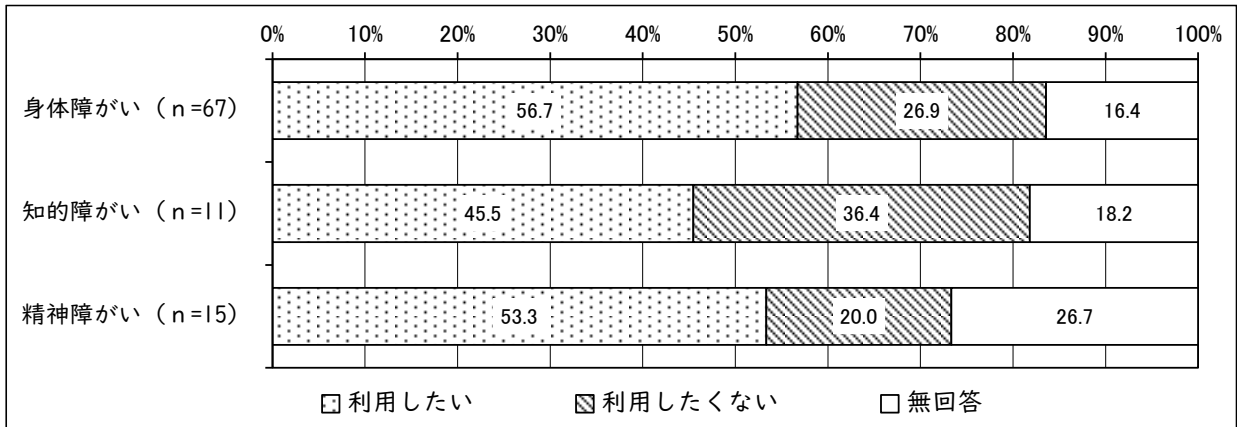


問14 地域生活支援拠点等整備事業を今後利用したいと思いますか。（○は1つだけ）

地域生活支援拠点等整備事業を今後利用したいと思うかについては、「利用したい」が52.6%、「利用したくない」が28.4%となっています。



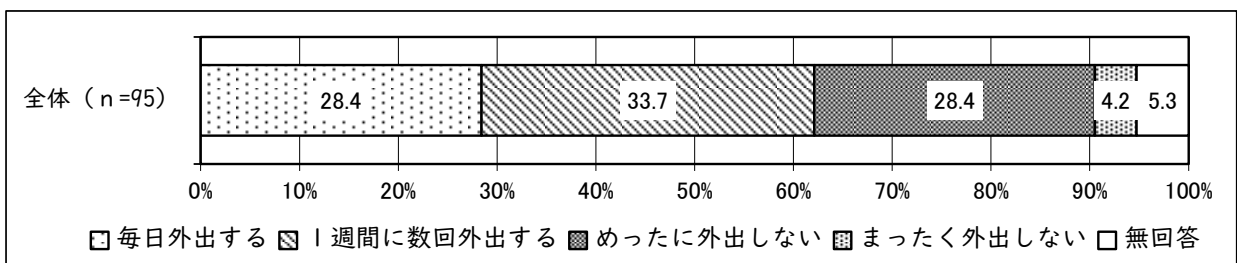
障がい別にみると、いずれの障がいも「利用したい」が高くなっていますが、知的障がいは「利用したくない」が36.4%と、他障がいより高くなっています。



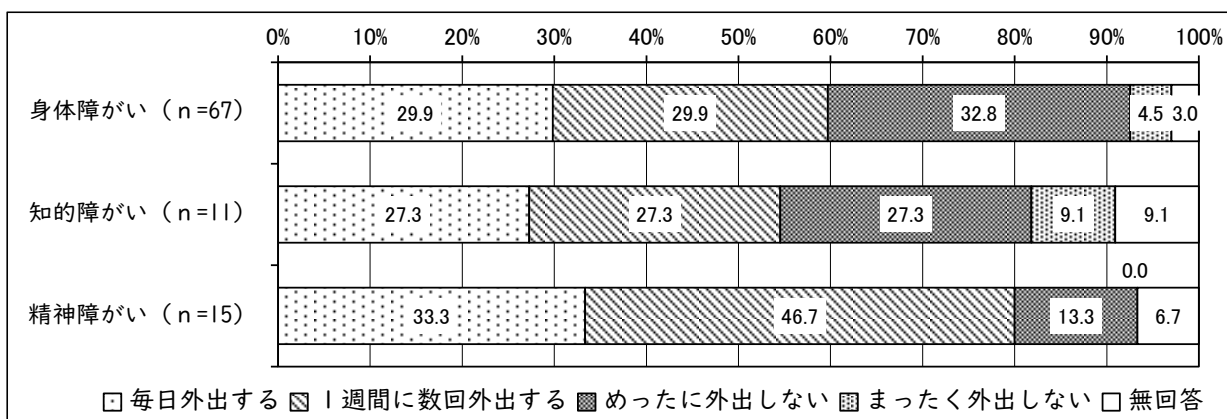
◇ 日中活動や就労について

問15 あなたは、1週間にどの程度外出しますか。（○は1つだけ）

外出の頻度は、「1週間に数回外出する」が33.7%と最も高く、以下、「毎日外出する」及び「めったに外出しない」がともに28.4%、「まったく外出しない」が4.2%となっています。



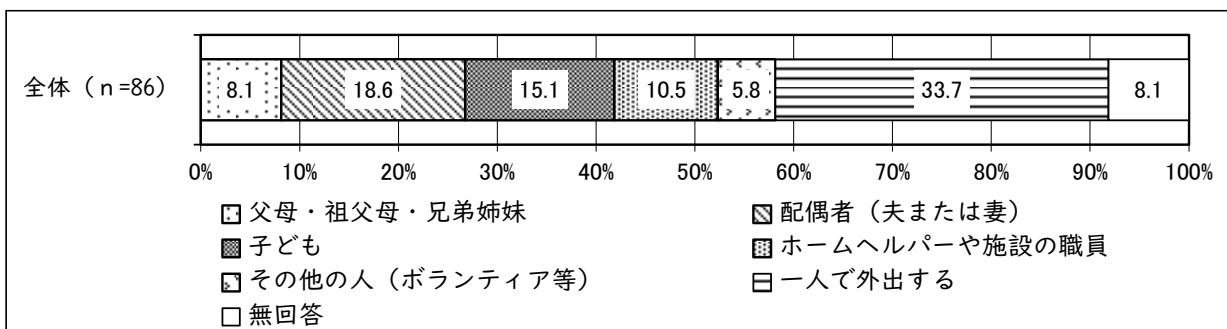
障がい別にみると、身体障がいは「めったに外出しない」(32.8%)が、精神障がいは「1週間に数回外出する」(46.7%)が、それぞれ最も高くなっています。



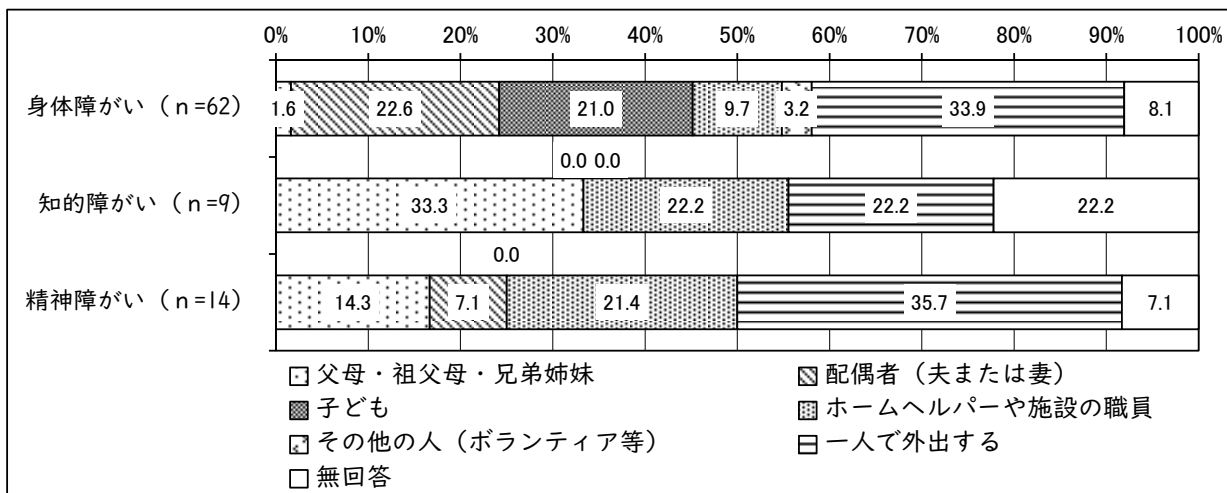
【※問16から18は、問15で4以外を選択した場合にお伺いします】

問16 あなたが外出する際、誰と外出しますか。(○は1つだけ)

外出時の同伴者は、「配偶者(夫または妻)」が18.6%、「子ども」が15.1%、「ホームヘルパーや施設の職員」が10.5%、「父母・祖父母・兄弟姉妹」が8.1%となっています。なお、「一人で外出する」が33.7%と最も高くなっています。

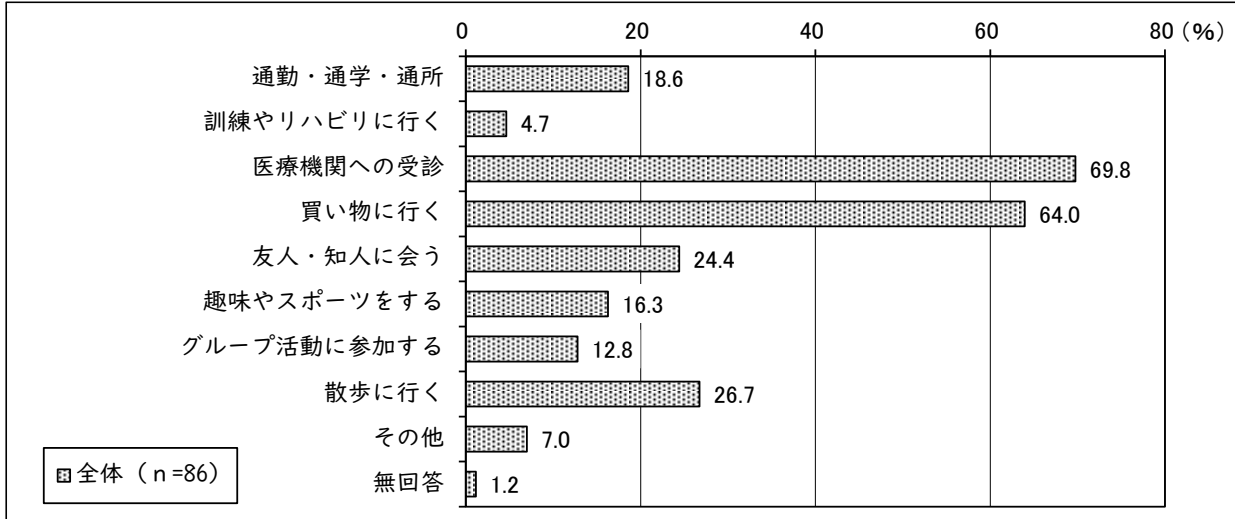


障がい別にみると、精神障がい及び身体障がいで「一人で外出する」(35.7%、33.9%)が、知的障がいで「父母・祖父母・兄弟姉妹」(33.3%)が、それぞれ最も高くなっています。

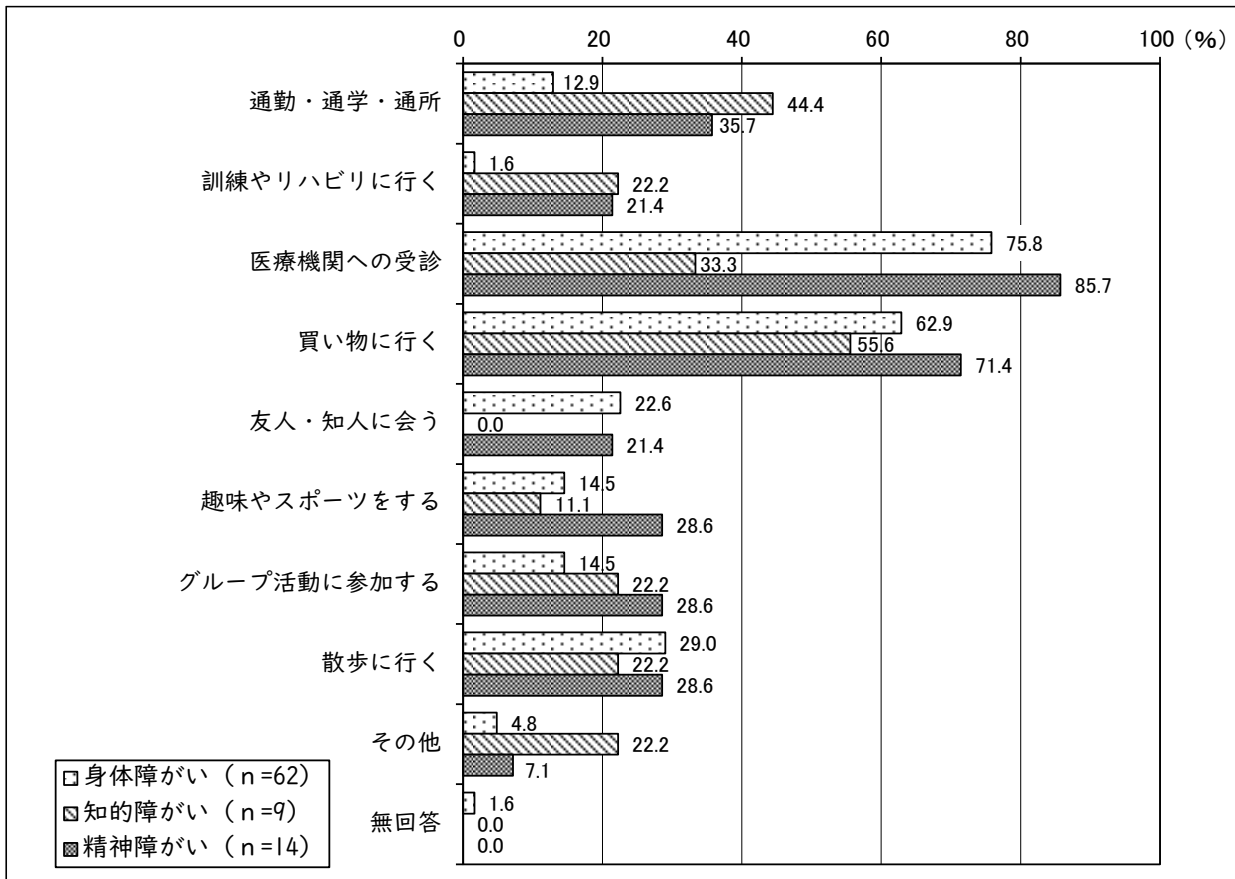


問17 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。（あてはまるものすべてに○）

外出の目的は、「医療機関への受診」が69.8%と最も高く、以下、「買い物に行く」(64.0%)「散歩に行く」(26.7%)、「友人・知人に会う」(24.4%)、「通勤・通学・通所」(18.6%)と続いています。

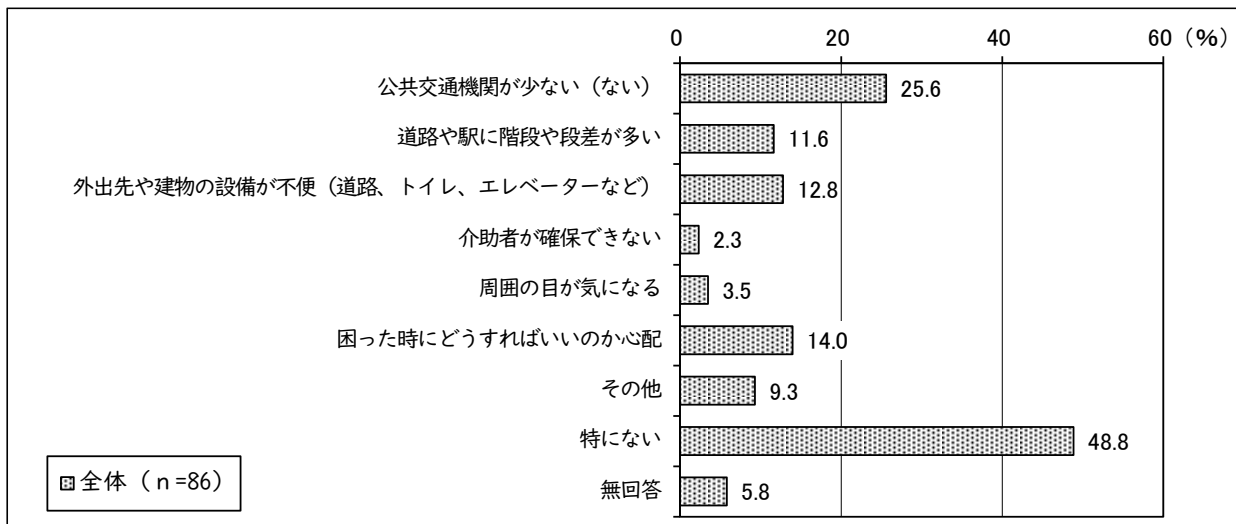


障がい別にみると、精神障がい及び身体障がいは「医療機関への受診」(85.7%、75.8%)や「買い物に行く」(71.4%、62.9%)が、知的障がいは「買い物に行く」(55.6%)や「通勤・通学・通所」(44.4%)が、それぞれ他障がいより比率が高くなっています。

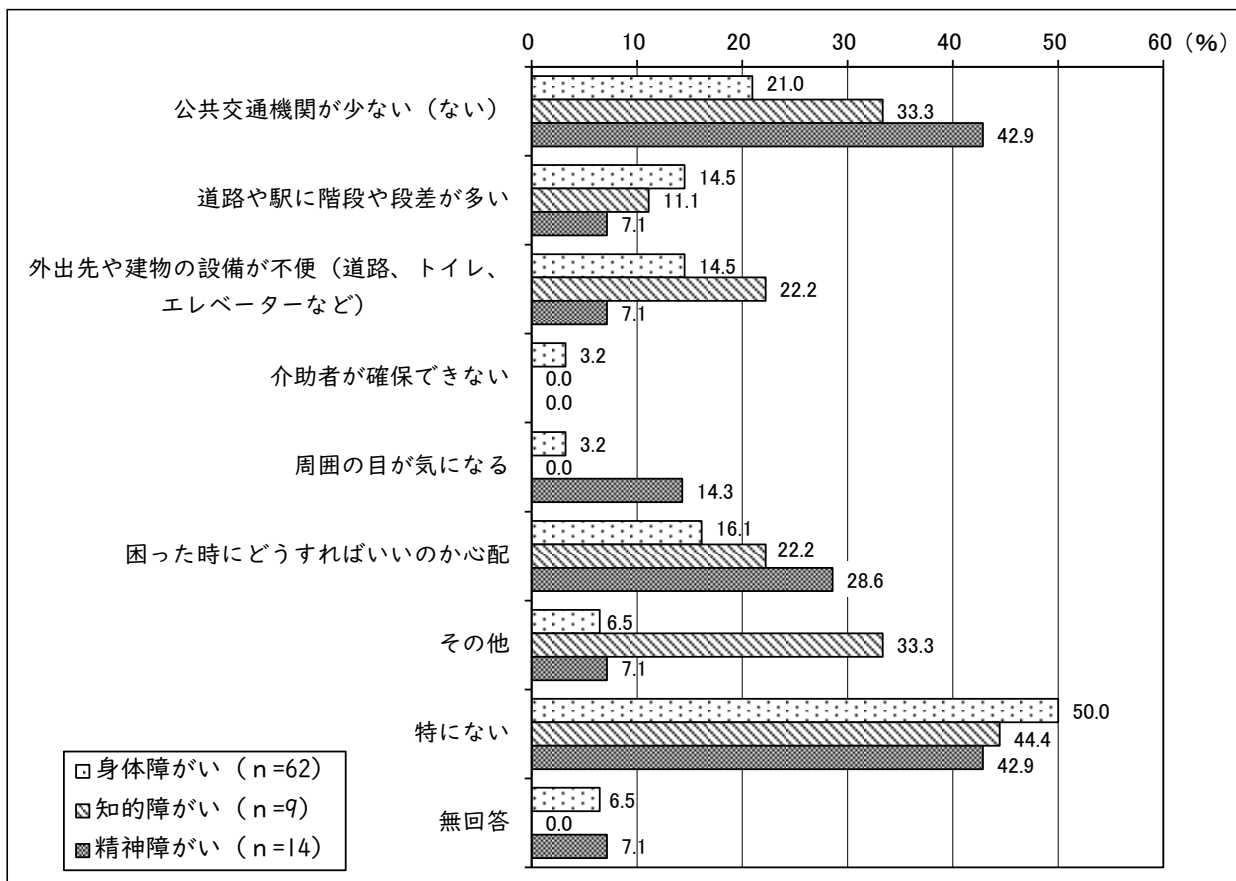


問18 外出するときに困ることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

外出時に困ることは、「公共交通機関が少ない（ない）」(25.6%)や「困った時にどうすればいいのかわかり」(14.0%)、「外出先や建物の設備が不便（道路、トイレ、エレベーターなど）」(12.8%)、「道路や駅に階段や段差が多い」(11.6%)などが上位となっています。なお、「特になし」が48.8%で最も高くなっています。

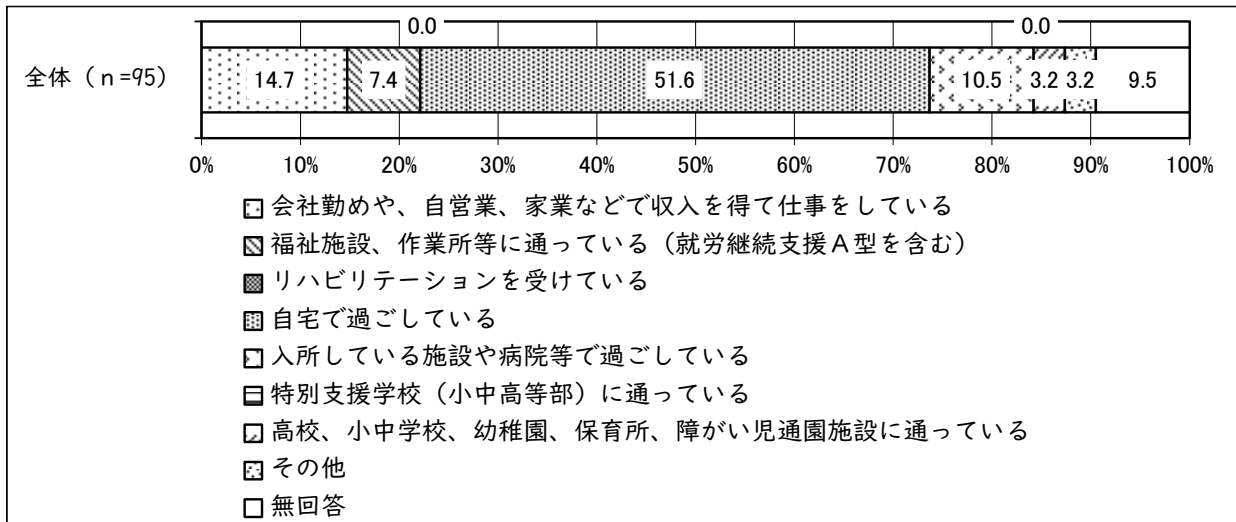


障がい別にみると、精神障がい及び知的障がいで「公共交通機関が少ない（ない）」(42.9%、33.3%)の比率が高くなっています。一方、身体障がいは「道路や駅に階段や段差が多い」(14.5%)が、他障がいより比率が高くなっています。

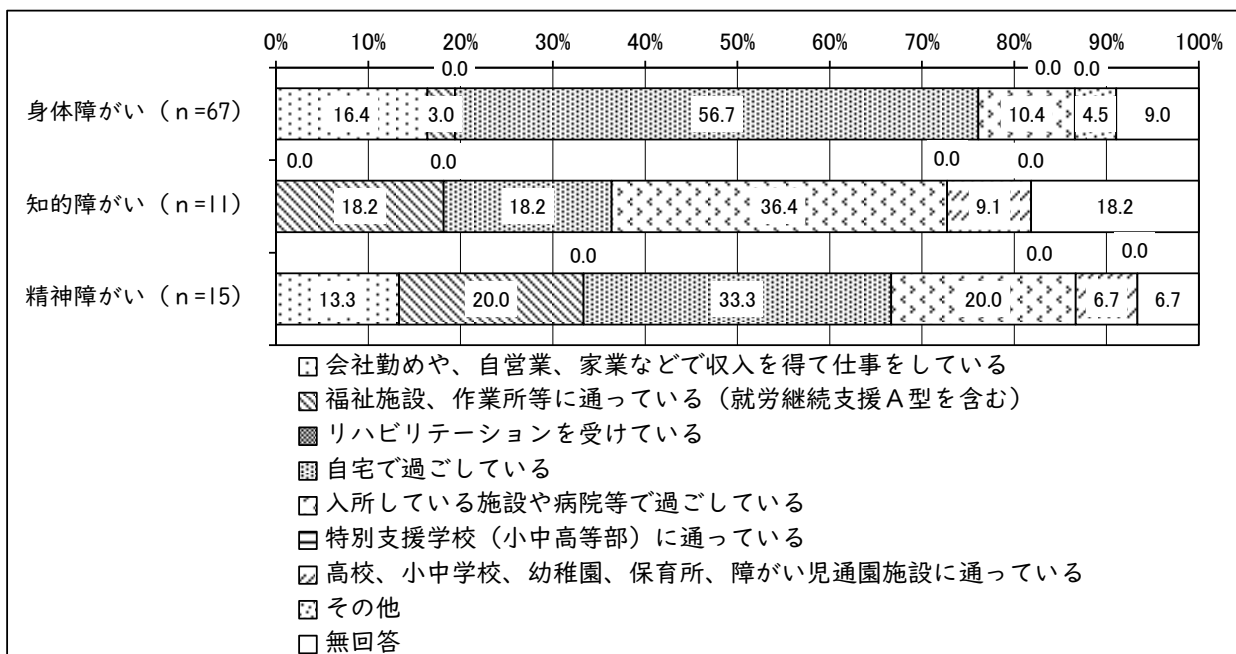


問19 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。（○は1つだけ）

平日の日中の過ごし方は、「自宅で過ごしている」が51.6%と最も高く、以下、「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」(14.7%)、「入所している施設や病院等で過ごしている」(10.5%) などとなっています。



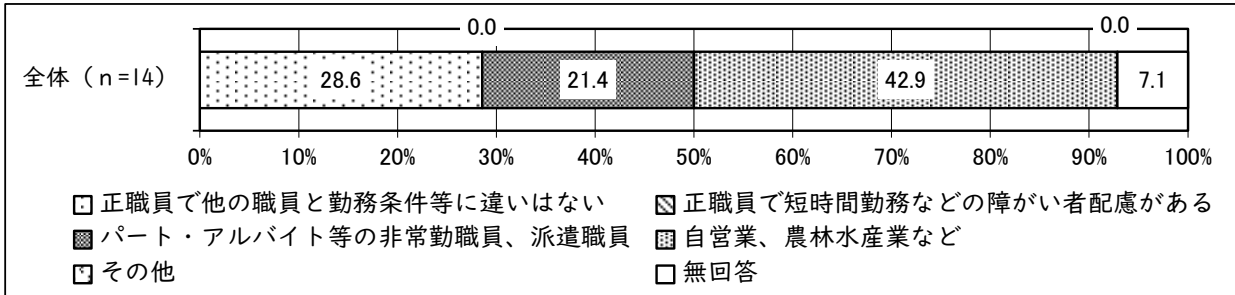
障がい別にみると、身体障がい及び精神障がいは「自宅で過ごしている」が最も高く、以下、身体障がいで「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」(16.4%)が、精神障がいで「福祉施設、作業所等に通っている (就労継続支援A型を含む)」及び「入所している施設や病院等で過ごしている」(ともに20.0%)が高くなっています。知的障がいで「入所している施設や病院等で過ごしている」(36.4%)の比率が高くなっています。



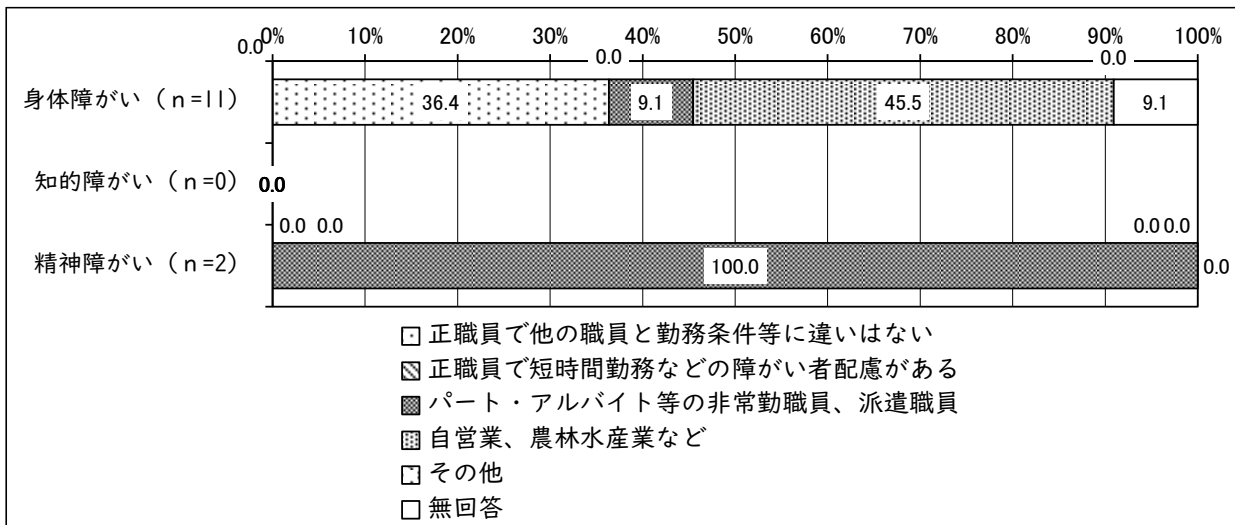
【※問20は、問19で1を選択した場合にお伺いします】

問20 どのような勤務形態で働いていますか。（○は1つだけ）

勤務形態は、「自営業、農林水産業など」が42.9%と最も高く、以下、「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」（28.6%）、「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」（21.4%）となっています。



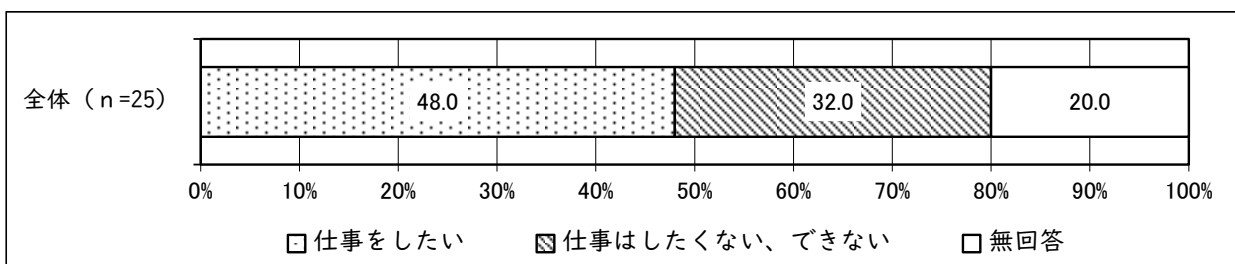
障がい別にみると、身体障がいは「自営業、農林水産業など」が45.5%、「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」が36.4%、「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」が9.1%となっています。なお、精神障がいは回答者が2人で「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」との回答となっており、知的障がいは回答対象者は0人でした。



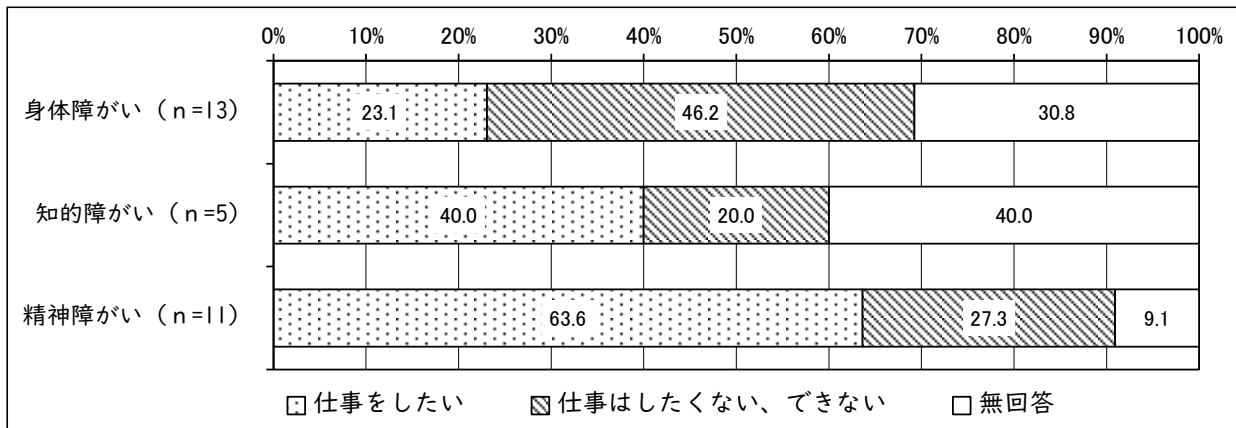
【※問21から問23は、問19で2～8を選択した18～64歳の方にお伺いします】

問21 あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。（○は1つだけ）

今後、収入を得る仕事をしたいかは、「仕事をしたい」が48.0%、「仕事はしたくない、できない」が32.0%となっています。

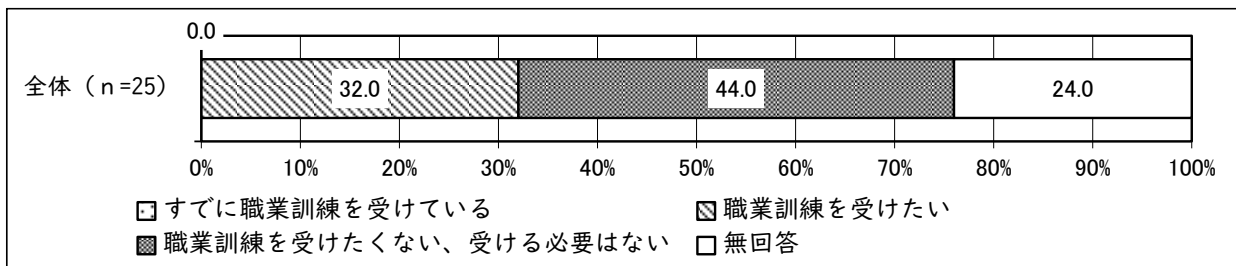


障がい別にみると、精神障がい及び知的障がいは「仕事をしたい」(63.6%、40.0%)が、身体障がいでは「仕事はしたくない、できない」(46.2%)が、それぞれ高くなっています。

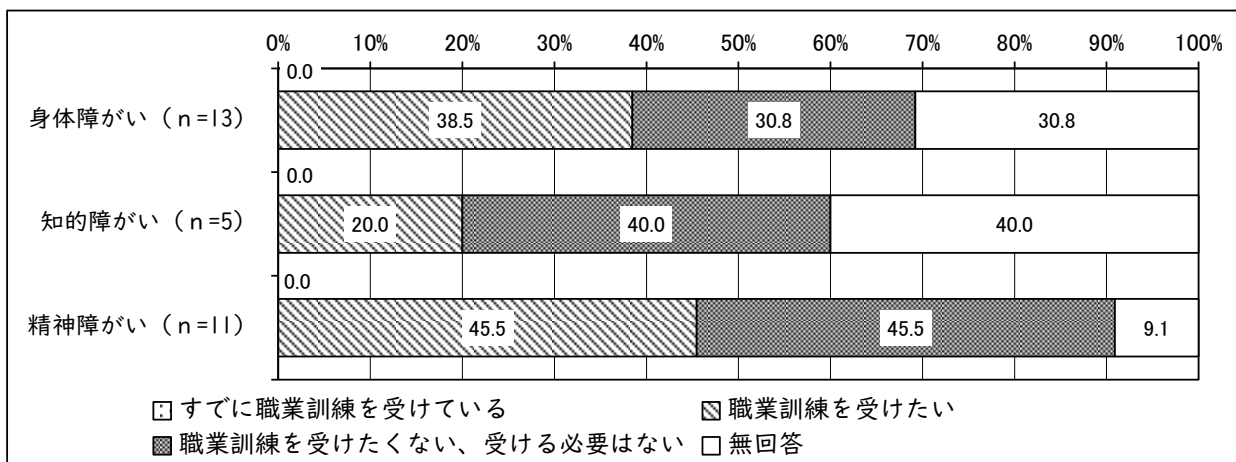


問22 収入や仕事を得るために、職業訓練などを受けたいと思いますか (○は1つだけ)

収入や仕事を得るために職業訓練などを受けたいかについては、「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が44.0%、「職業訓練を受けたい」が32.0%となっています。

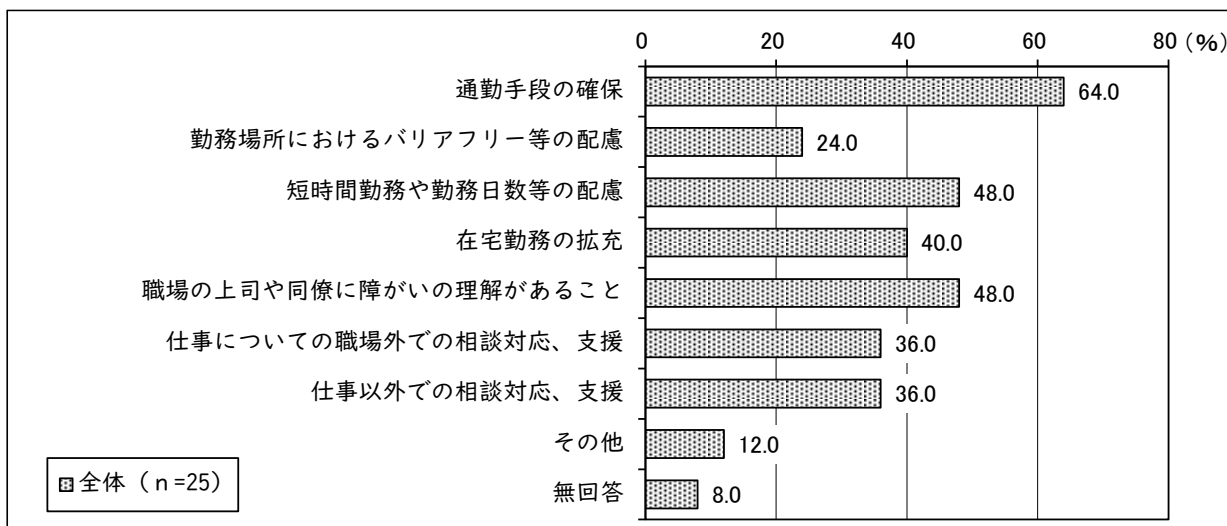


障がい別にみると、精神障がいで「職業訓練を受けたい」が45.5%と高くなっています。

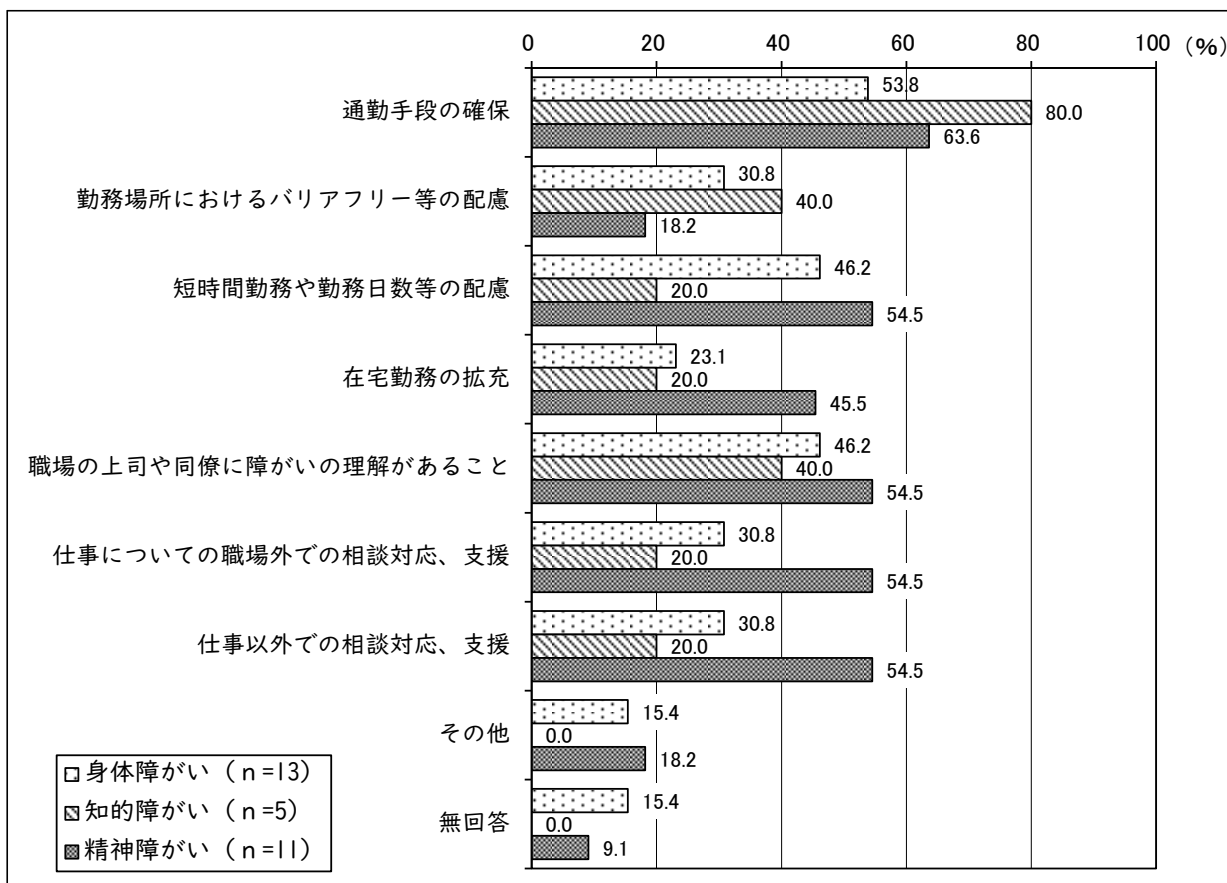


問23 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○)

障がい者の就労支援として必要なことは、「通勤手段の確保」が64.0%と最も高く、以下、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」及び「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」(ともに48.0%)、「在宅勤務の拡充」(40.0%)などとなっています。



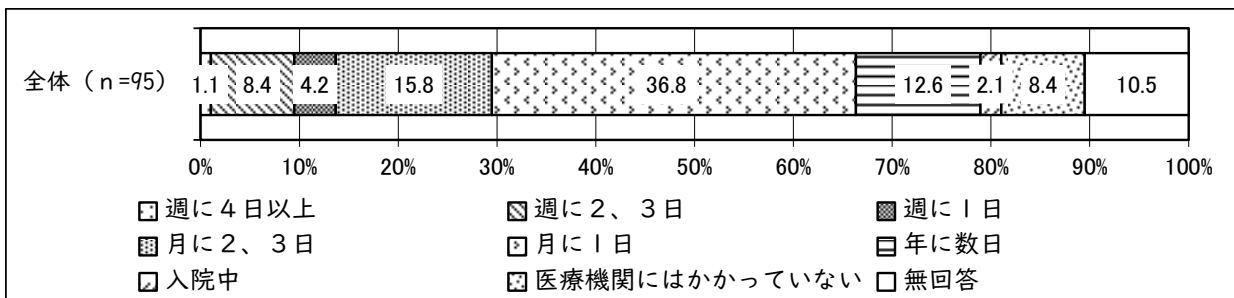
障がい別にみると、いずれの障がいも「通勤手段の確保」がそれぞれ高くなっていますが、精神障がいでは「短時間勤務や勤務日数等の配慮」、「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」、「仕事についての職場外での相談対応、支援」、「仕事以外での相談対応、支援」も半数を超える高い比率となっています。



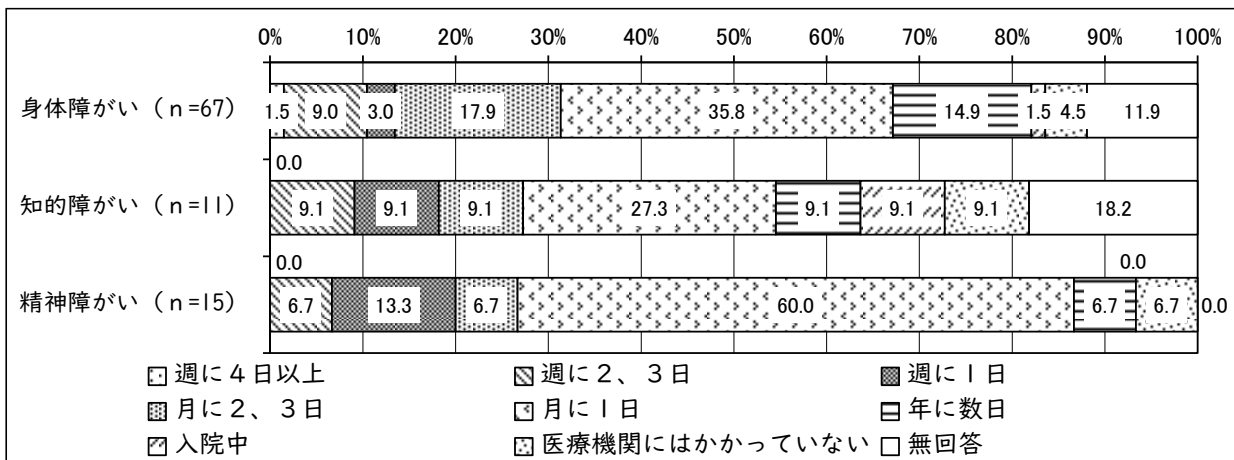
◇ 保健・医療について

問24 あなたの現在の通院状況（リハビリを含む）は次のうち、どれですか。（○は1つだけ）

現在の通院状況は、「月に1日」が36.8%と最も高く、以下、「月に2、3日」が15.8%、「年に数日」が12.6%と続きます。なお、「医療機関にはかかっていない」は8.4%となっています。

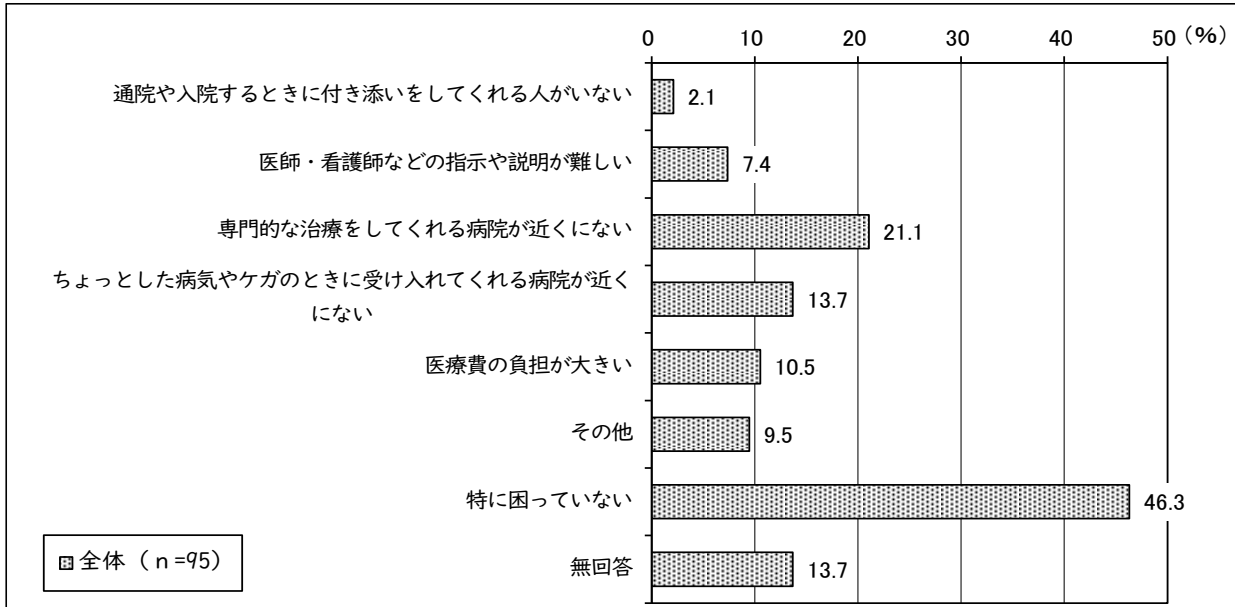


障がい別にみると、いずれの障がいも「月に1日」が最も高くなっていますが、身体障がいでは「月に2、3日」(17.9%)や「年に数日」(14.9%)が、精神障がいでは「週に1日」(13.3%)が、それぞれ他障がいより高くなっています。

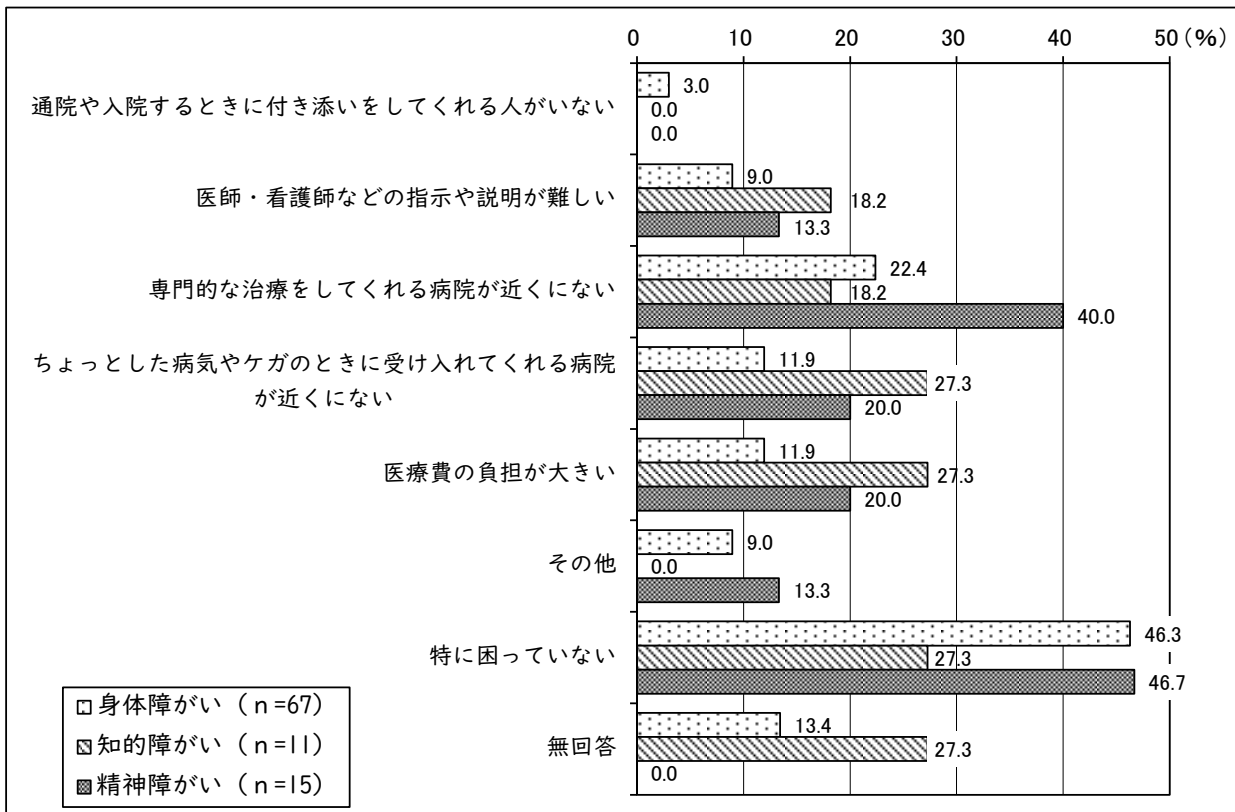


問25 医療を受ける上で、困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

医療を受ける上で、困っていることは、「専門的な治療をしてくれる病院が近くにない」(21.1%)、「ちょっとした病気やケガのときに受け入れてくれる病院が近くにない」(13.7%)、「医療費の負担が大きい」(10.5%)などとなっています。なお、「特に困っていない」が46.3%と最も高くなっています。



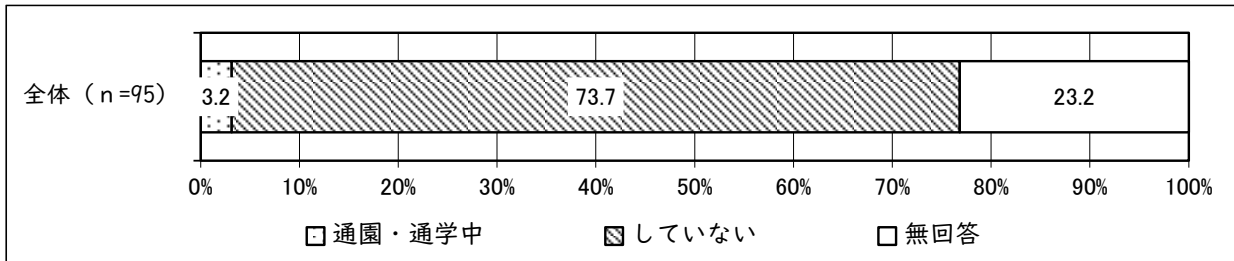
障がい別にみると、身体障がいは「専門的な治療をしてくれる病院が近くにない」(22.4%)が、知的障がいは「ちょっとした病気やケガのときに受け入れてくれる病院が近くにない」及び「医療費の負担が大きい」(ともに 27.3%)が、精神障がいは「専門的な治療をしてくれる病院が近くにない」(40.0%)が、それぞれ最も高くなっています。



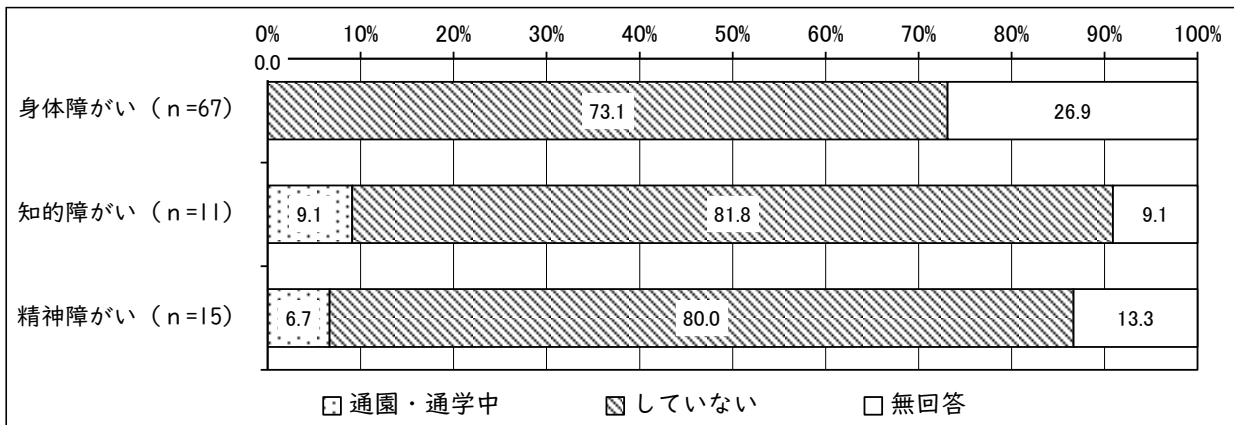
◇ 教育・就学について

問26 あなたは、現在、通園・通学をしていますか。（○は1つだけ）

現在、通園・通学をしているかについては、「していない」が73.7%と多数を占め、「通園・通学中」が3.2%となっています。



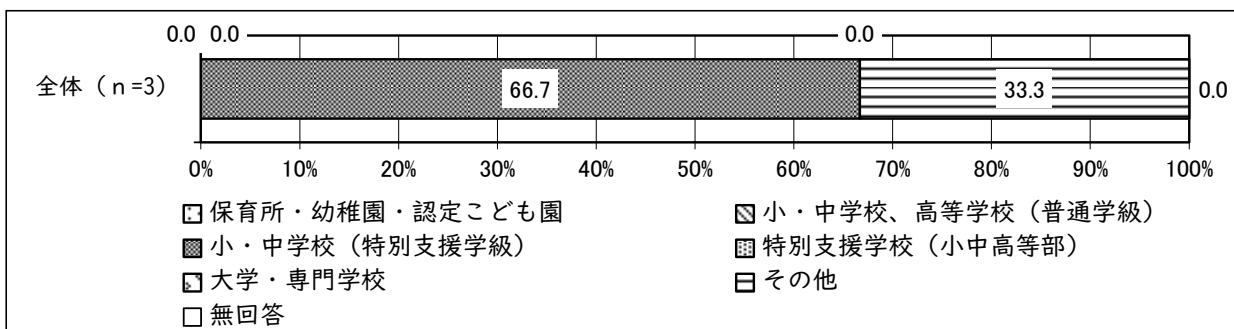
障がい別にみると、「通園・通学中」は知的障がい及び精神障がいで1人となっています。



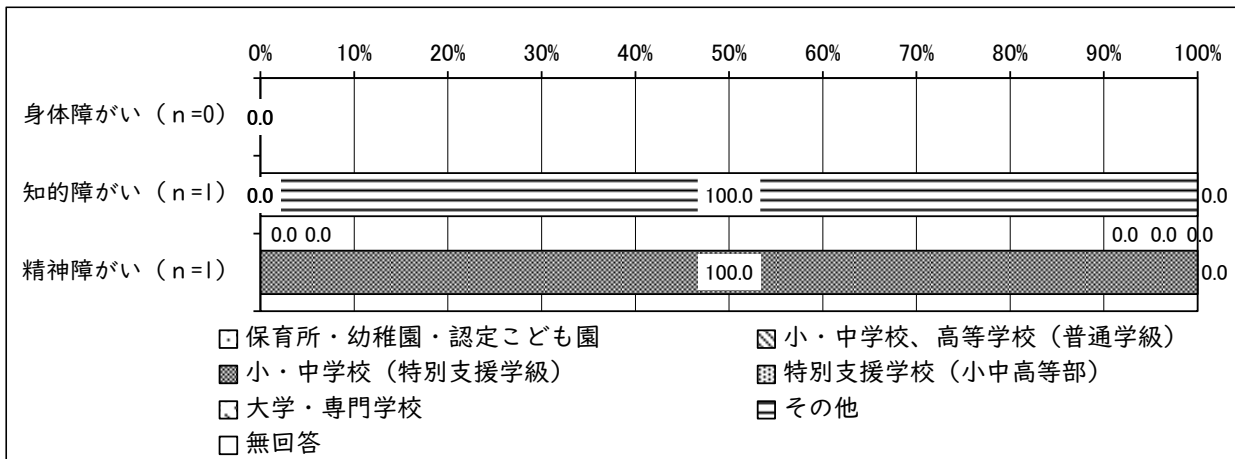
【※問27から問29までは、問26で「通園・通学中」を選択した場合にお伺いします】

問27 通園・通学しているところは、次のうちどこですか。（○は1つだけ）

通園・通学しているところは、「小・中学校（特別支援学級）」が2人、「その他」が1人となっています。

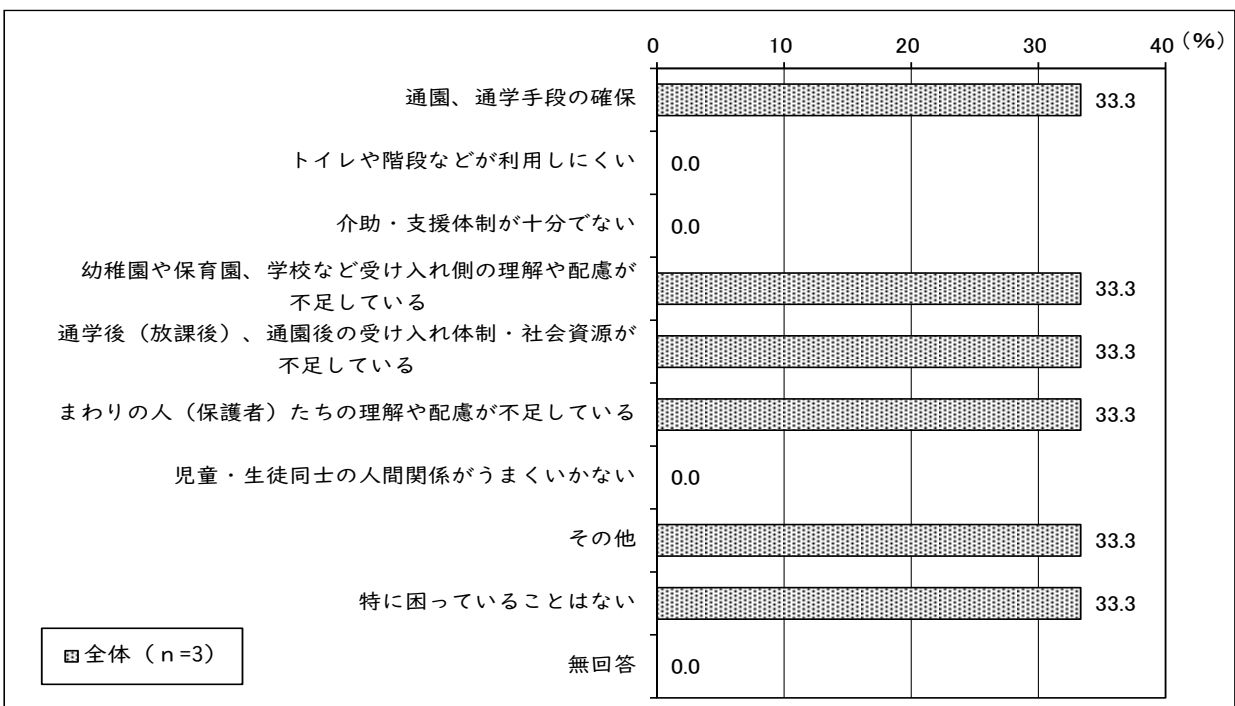


障がい別にみると、知的障がい（1人）は「その他」、精神障がい（1人）は「小・中学校（特別支援学級）」と回答しています。

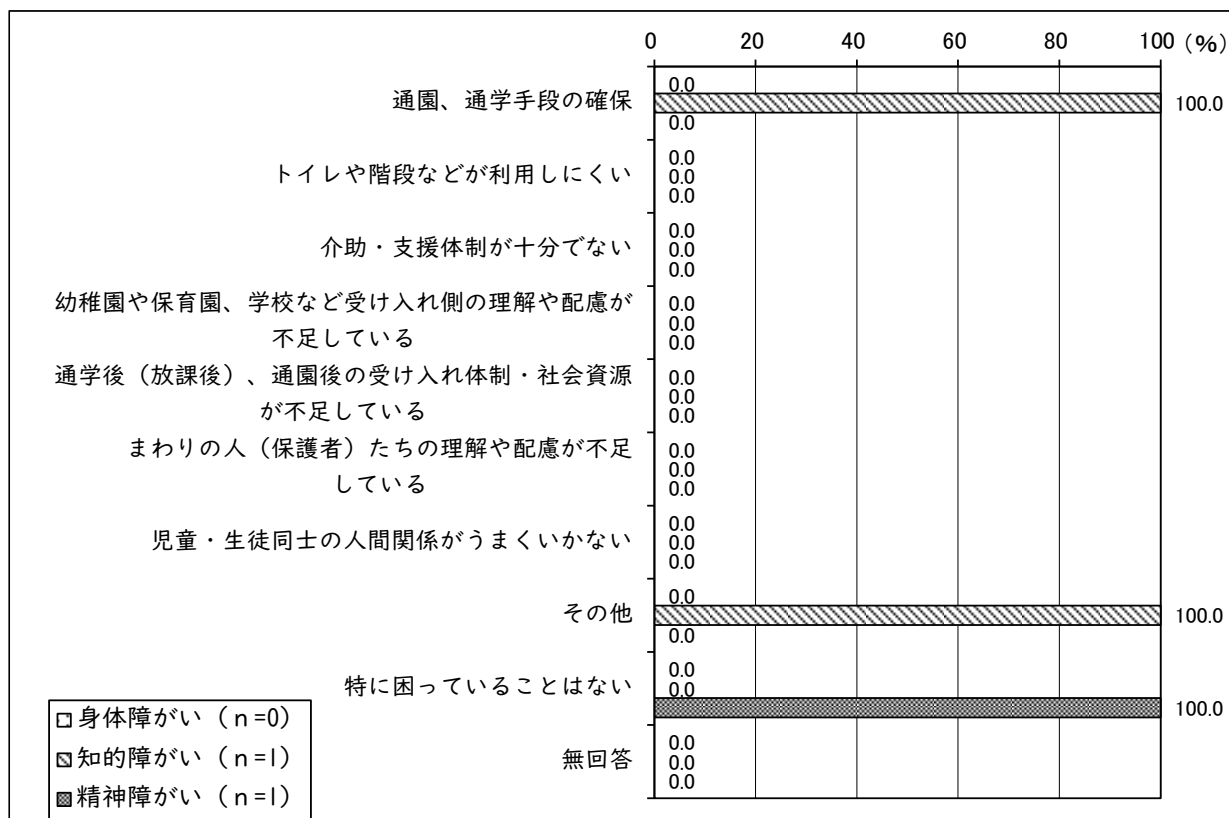


問28 通園・通学で困っていることはありますか。（〇はいくつでも）

通園・通学で困っていることは、「幼稚園や保育園、学校など受け入れ側の理解や配慮が不足している」、「通学後（放課後）、通園後の受け入れ体制・社会資源が不足している」、「まわりの人（保護者）たちの理解や配慮が不足している」が1人、「通園・通学手段の確保」及び「その他」（村内の学校に入学させてもらえない）が1人、「特に困っていることはない」が1人となっています。

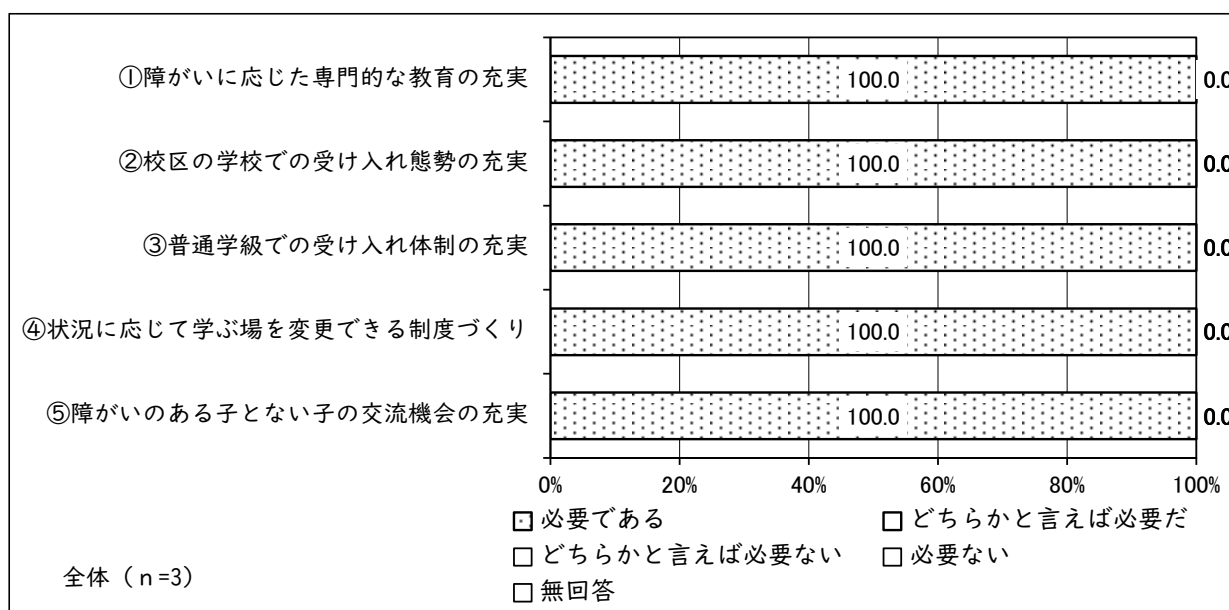


障がい別にみると、知的障がい（1人）は「通園、通学手段の確保」及び「その他」、精神障がい（1人）は「特に困っていることはない」と回答しています。



問29 次の①から⑤のそれぞれの項目について、あなたのお気持ちにもっとも近いものをお答えください。（○は1つ）

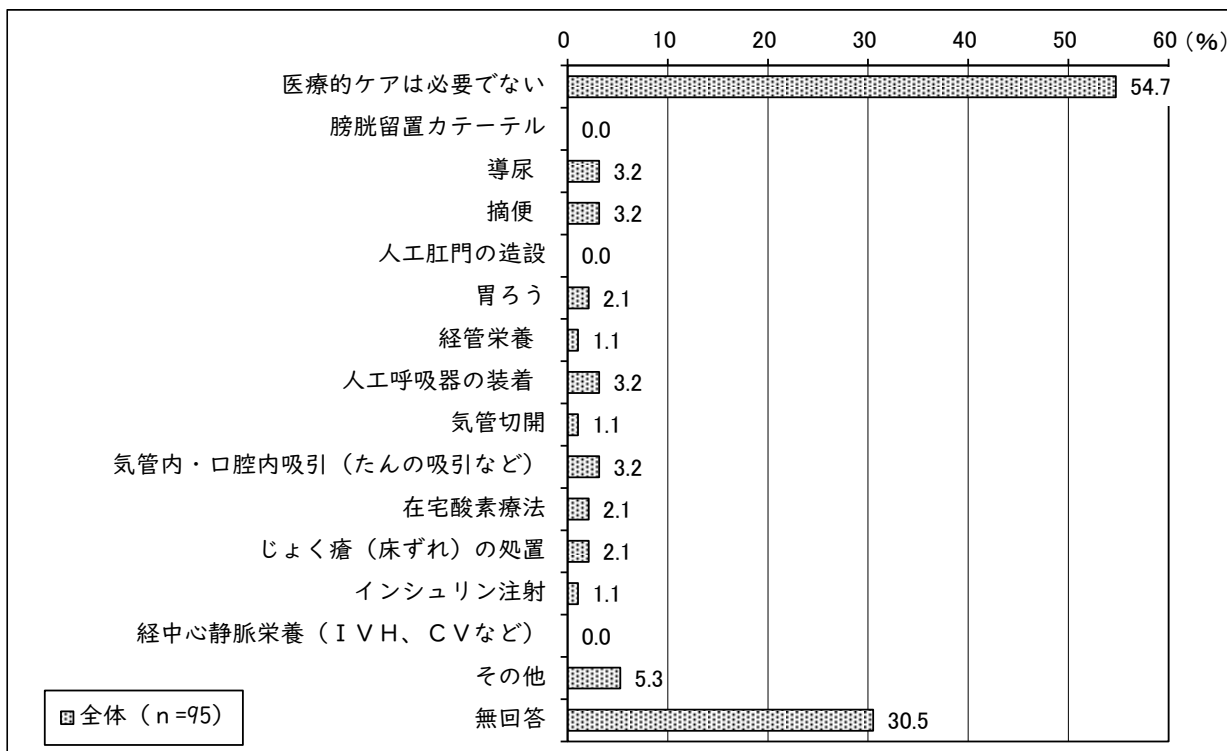
すべての項目で「必要である」との回答となっています。



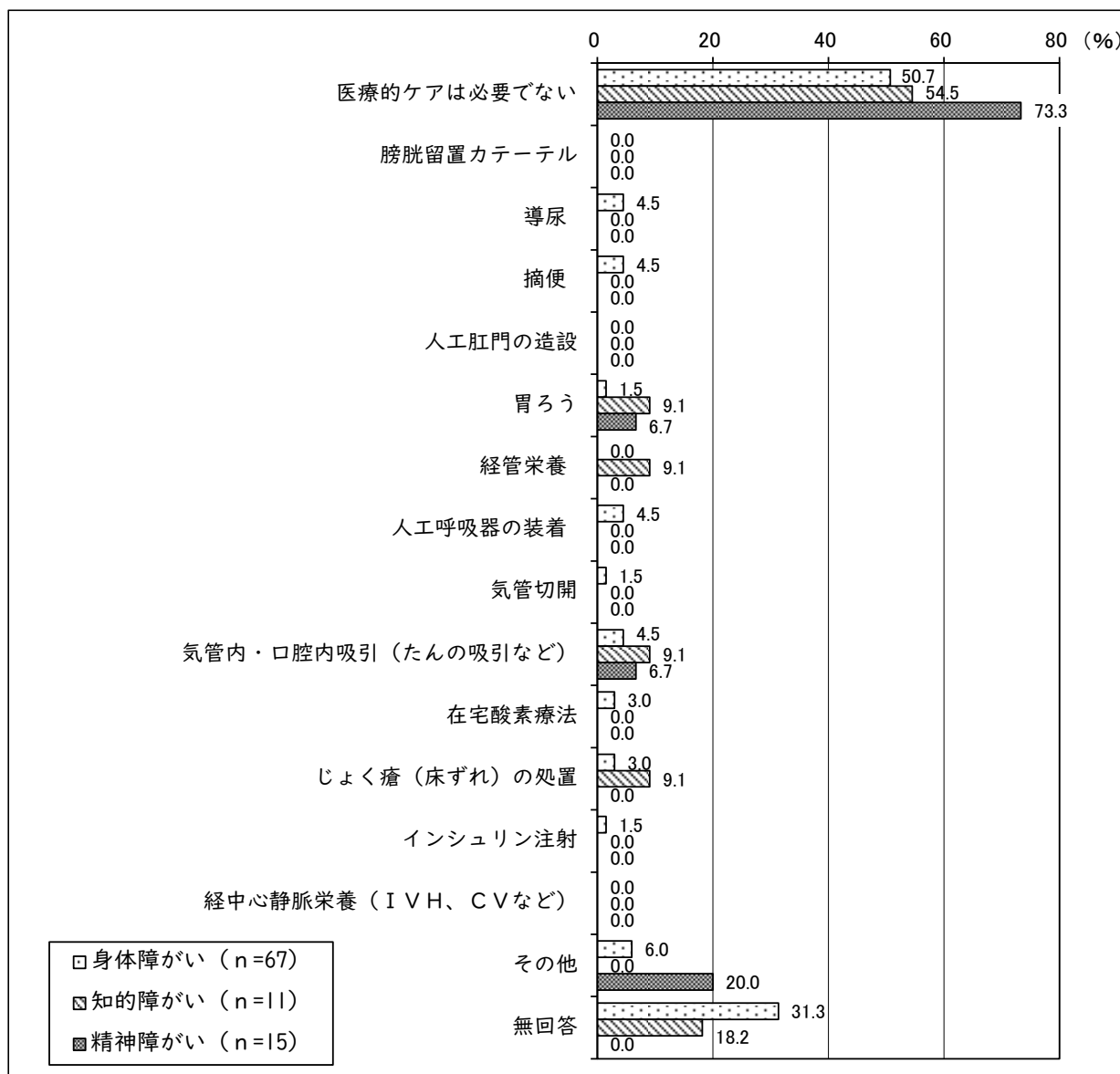
◇ 医療的ケアについて

問30 あなたは、どのような医療的ケア（服薬や通院を除く）が必要ですか。（あてはまるものすべてに○）

必要な医療的ケアについては、「医療的ケアは必要でない」が54.7%と最も高くなっています。なお、必要だと思うケアは「導尿」、「摘便」、「人工呼吸器の装着」、「気管内・口腔内吸引（たんの吸引など）」がそれぞれ3.2%となっています。



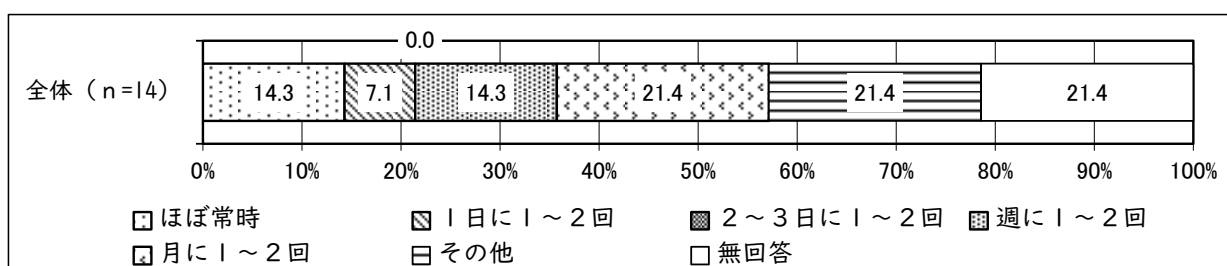
障がい別にみると、いずれの障がいも「医療的ケアは必要でない」が最も高くなっていますが、身体障がいは「導尿」や「排便」、「人工呼吸器の装着」（それぞれ4.5%）が、知的障がいは「胃ろう」、「経管栄養」、「気管内・口腔内吸引（たんの吸引など）」、「じょく瘡（床ずれ）の処置」（それぞれ9.1%）が他障がいより高くなっています。



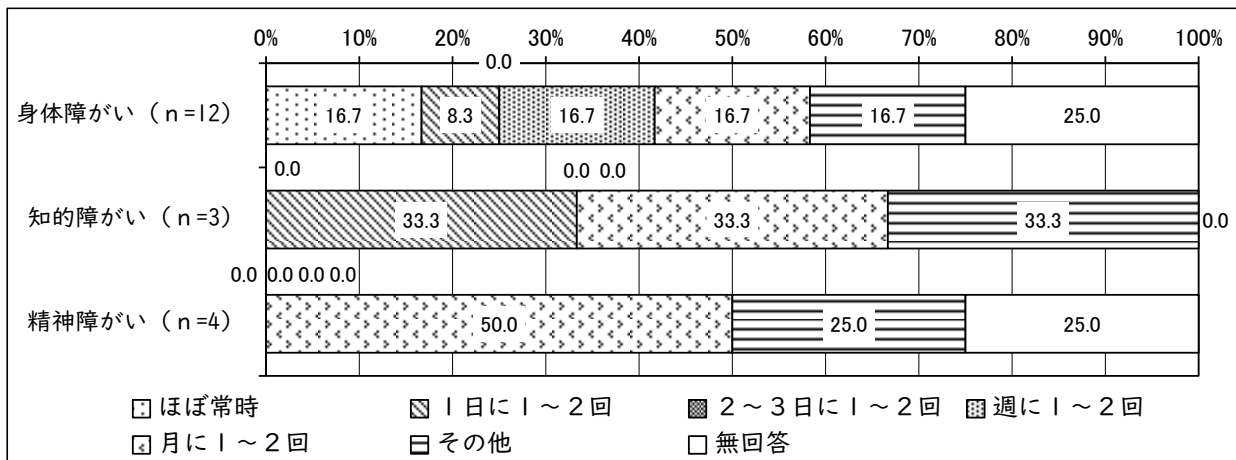
●問30で「1. 医療的ケアは必要でない」以外に○をつけた方にお聞きします。

問31 医療的ケアは、どのくらいの頻度で必要ですか。（○は1つだけ）

医療的ケアはどのくらいの頻度で必要かについては、「月に1～2回」が21.4%と最も高く、以下、「ほぼ常時」及び「週に1～2回」がともに14.3%、「1日に1～2回」が7.1%となっています。



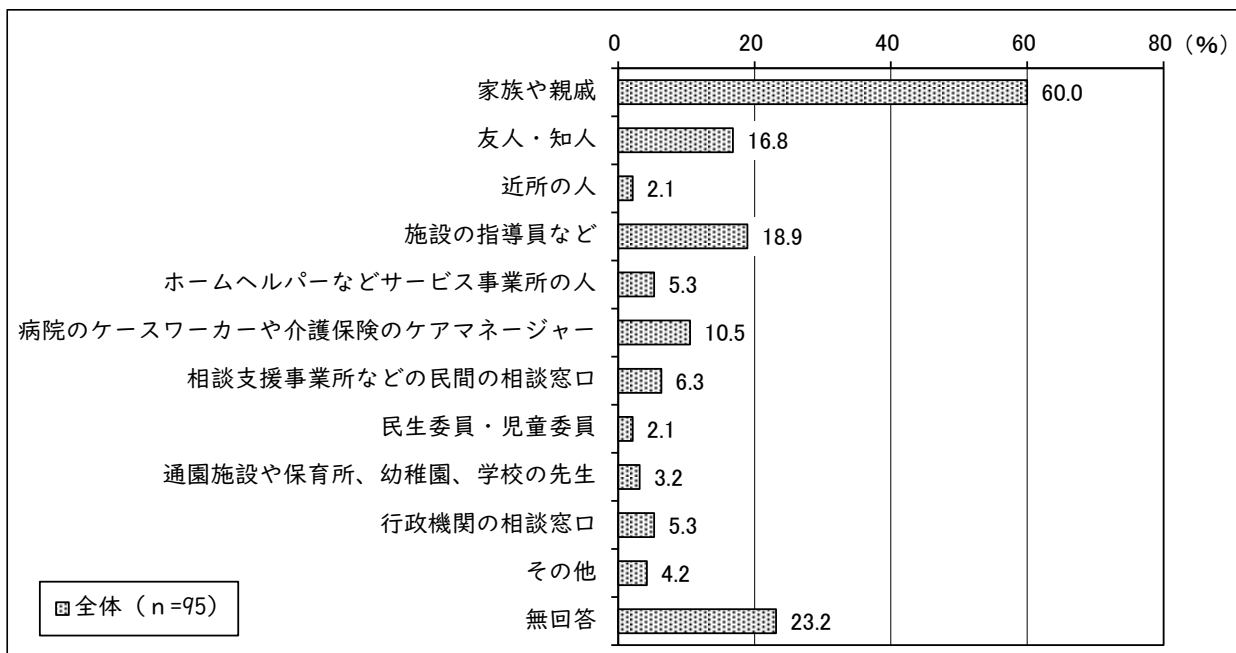
障がい別にみると、身体障がいは「ほぼ常時」、「週に1～2回」、「月に1～2回」が16.7%（各2人）、知的障がいは「1日に1～2回」及び「月に1～2回」が33.3%（各1人）、精神障がいは「月に1～2回」が50.0%（2人）となっています。



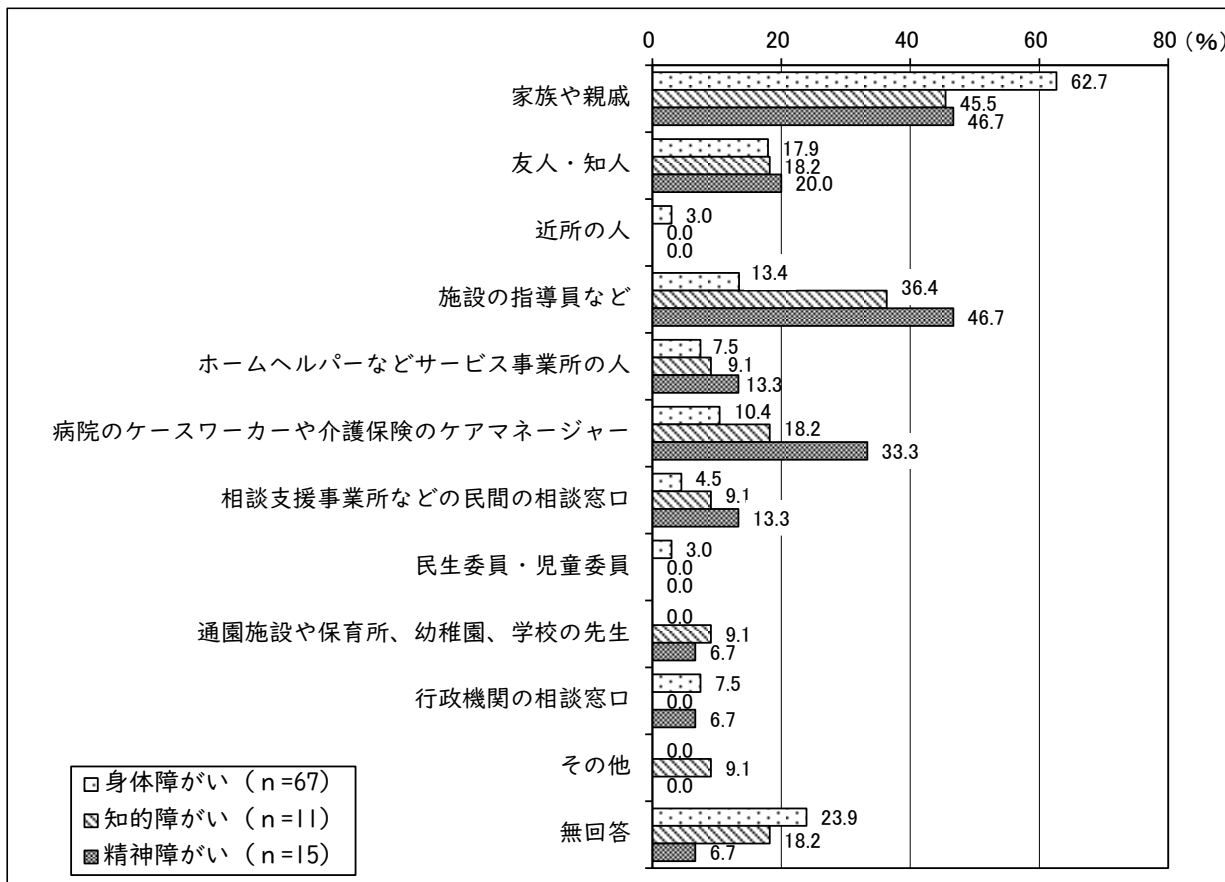
◇ 相談相手について

問32 あなたは、普段、悩みや困ったことなどをどなたに相談しますか。（あてはまるものすべてに○）

悩みや困ったことの相談相手は、「家族や親戚」が60.0%と突出しており、以下、「施設の指導員など」が18.9%、「友人・知人」が16.8%、「病院のケースワーカーや介護保険のケアマネージャー」が10.5%となっています。

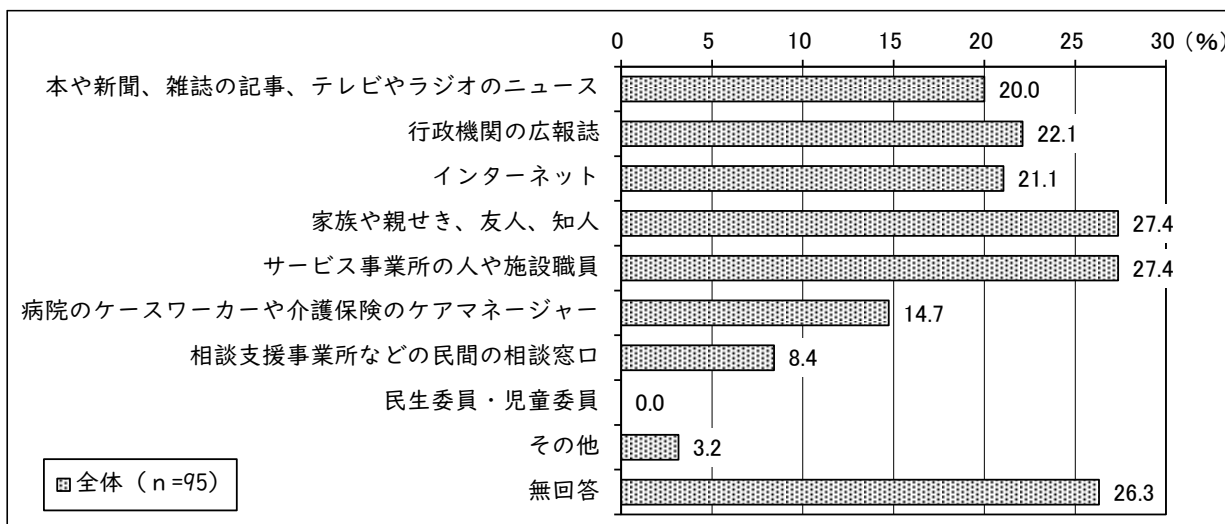


障がい別にみると、身体障がいでは「家族や親戚」(62.7%)が、知的障がいでは「施設の指導員など」(36.4%)が、精神障がいでは「施設の指導員など」(46.7%)や「病院のケースワーカーや介護保険のケアマネージャー」(33.3%)が、それぞれ高い比率となっています。

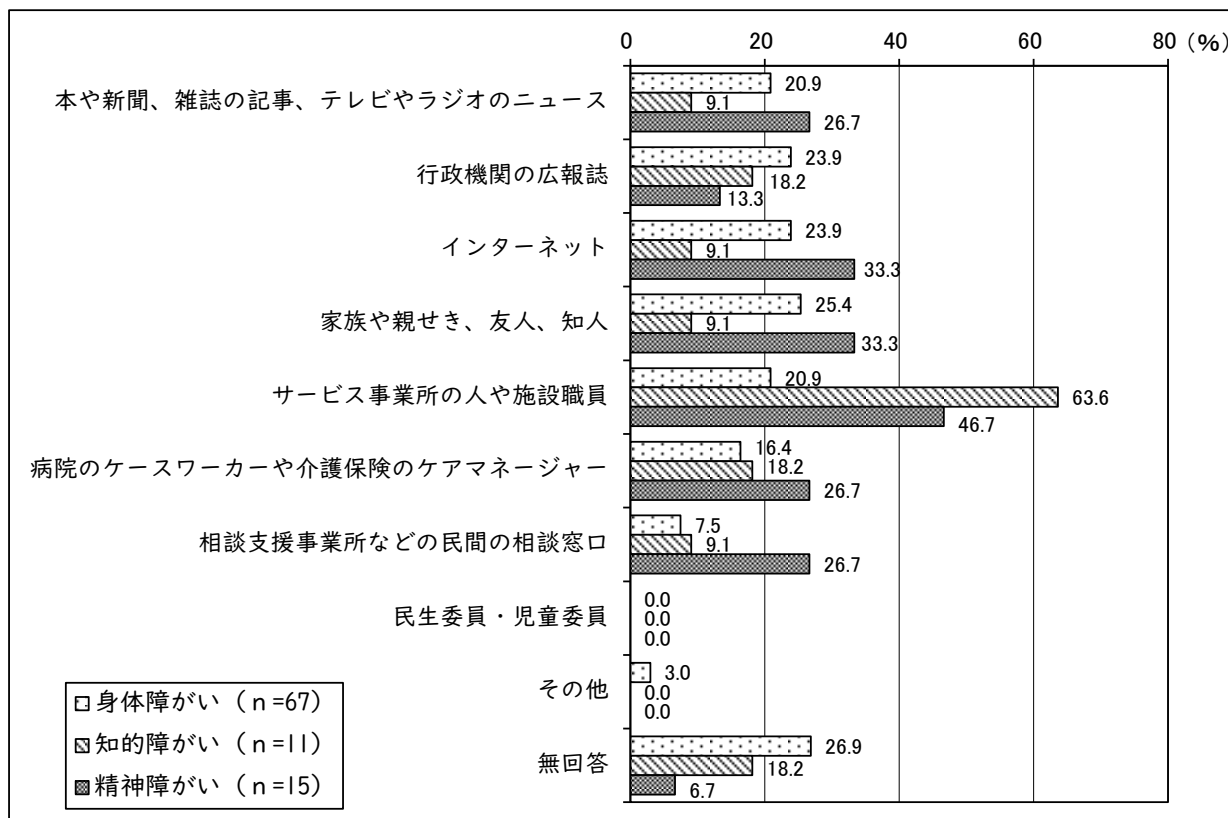


問33 あなたの障がいのことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

福祉サービスなどに関する情報の入手先については、「家族や親せき、友人、知人」及び「サービス事業所の人や施設職員」がともに27.4%と最も高く、以下、「行政機関の広報誌」(22.1%)、「インターネット」(21.1%)、「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」(20.0%)などとなっています。



障がい別にみると、身体障がいは「行政機関の広報誌」(23.9%)が、知的障がいは「サービス事業所の人や施設職員」(63.6%)が、精神障がいは「インターネット」及び「家族や親せき、友人、知人」(ともに33.3%)、「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」、「病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー」、「相談支援事業所などの民間の相談窓口」(それぞれ26.7%)が、他障がいより高くなっています。



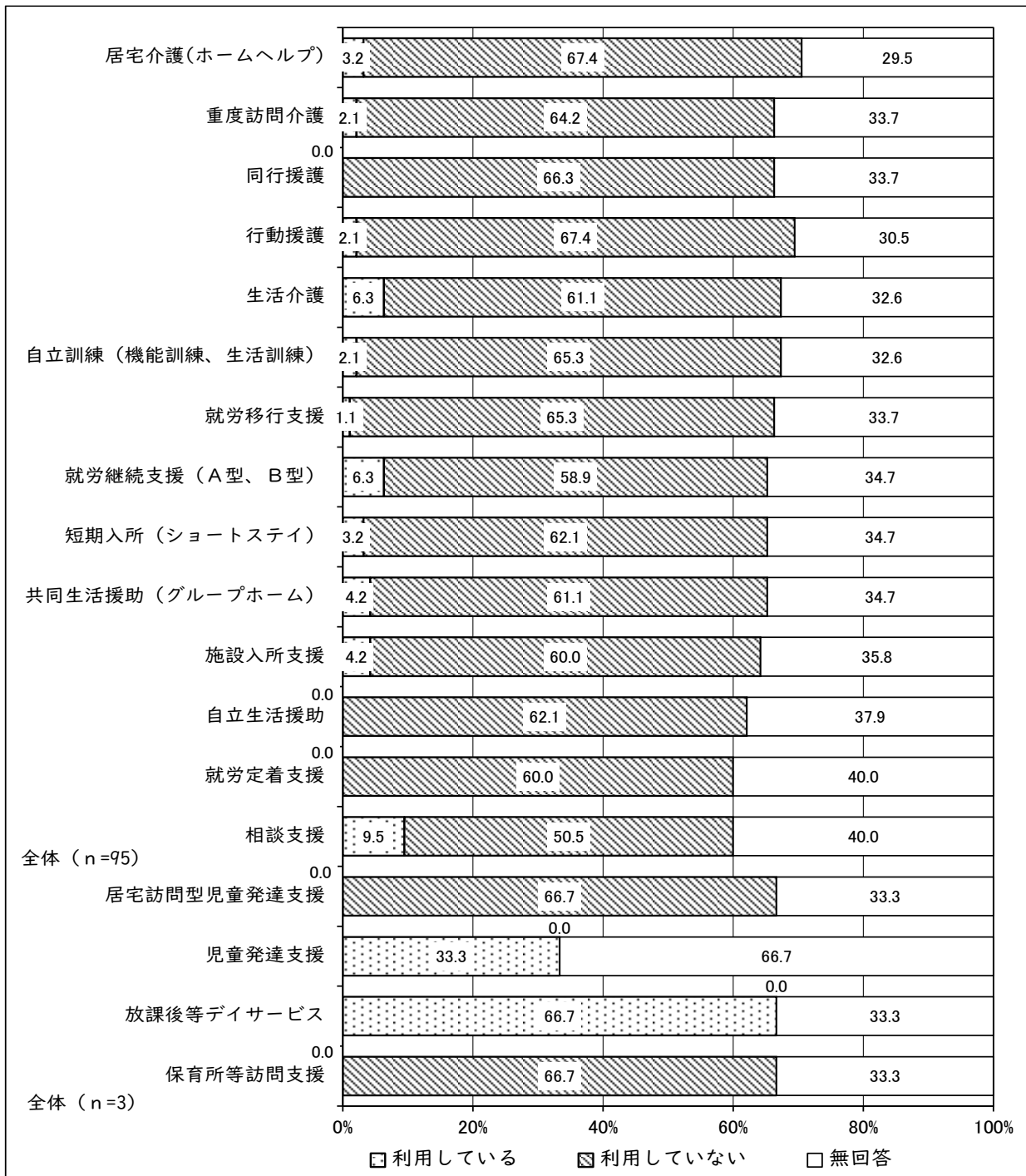
◇ あなたの障害福祉サービス等の利用について

問34 あなたは次のサービスを利用していますか。また、今後利用したいと考えますか。

現在、利用しているサービスは、「相談支援」が9.5%と最も高く、以下、「生活介護」及び「就労継続支援（A型、B型）」（ともに6.3%）、「共同生活援助（グループホーム）」及び「施設入所支援」（ともに4.2%）と続きます。

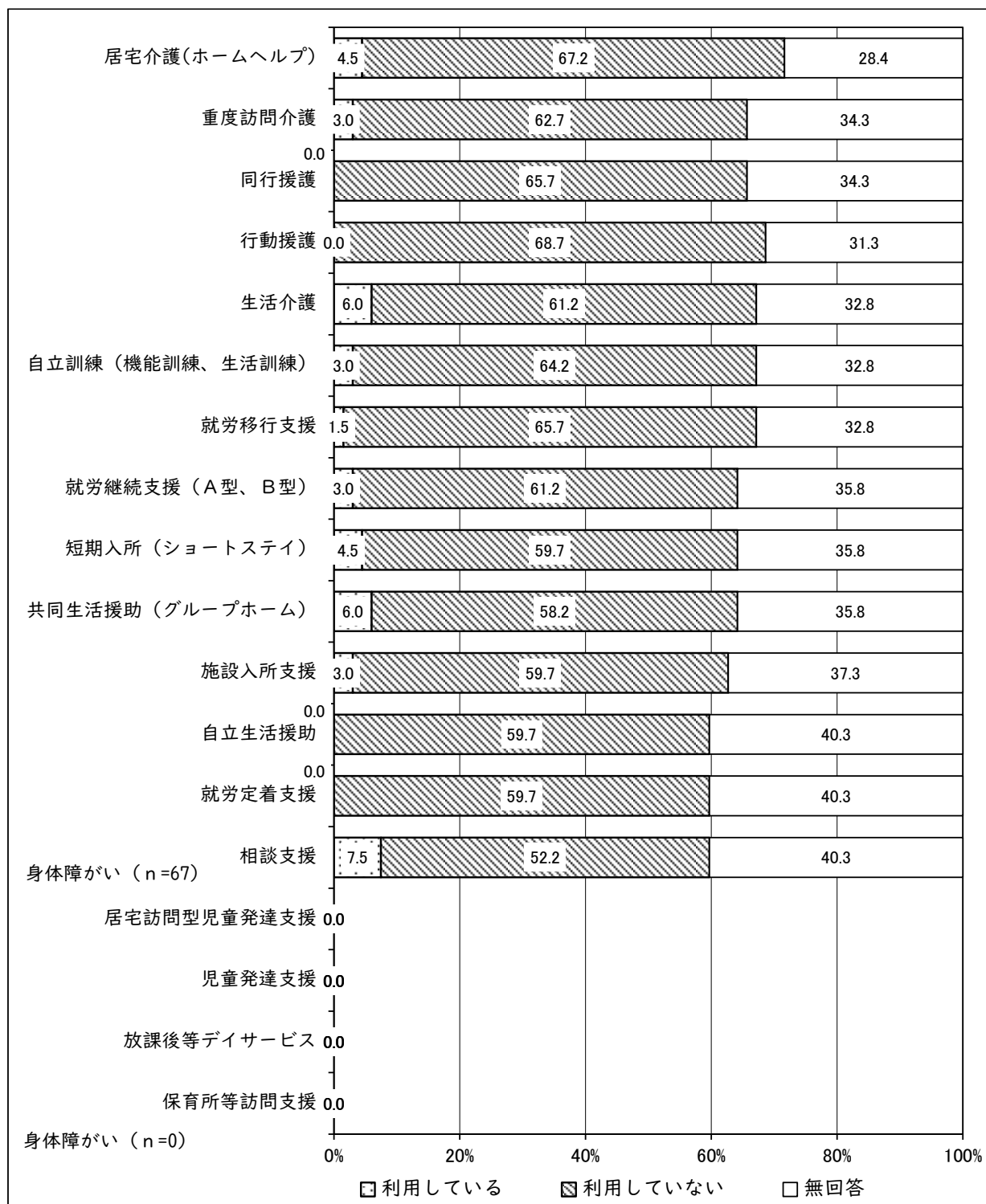
障がい児を対象とする「居宅訪問型児童発達支援」以下4サービスについて「利用している」は、「放課後等デイサービス」が66.7%（2人）、「児童発達支援」が33.3%（1人）となっています。

◇全体



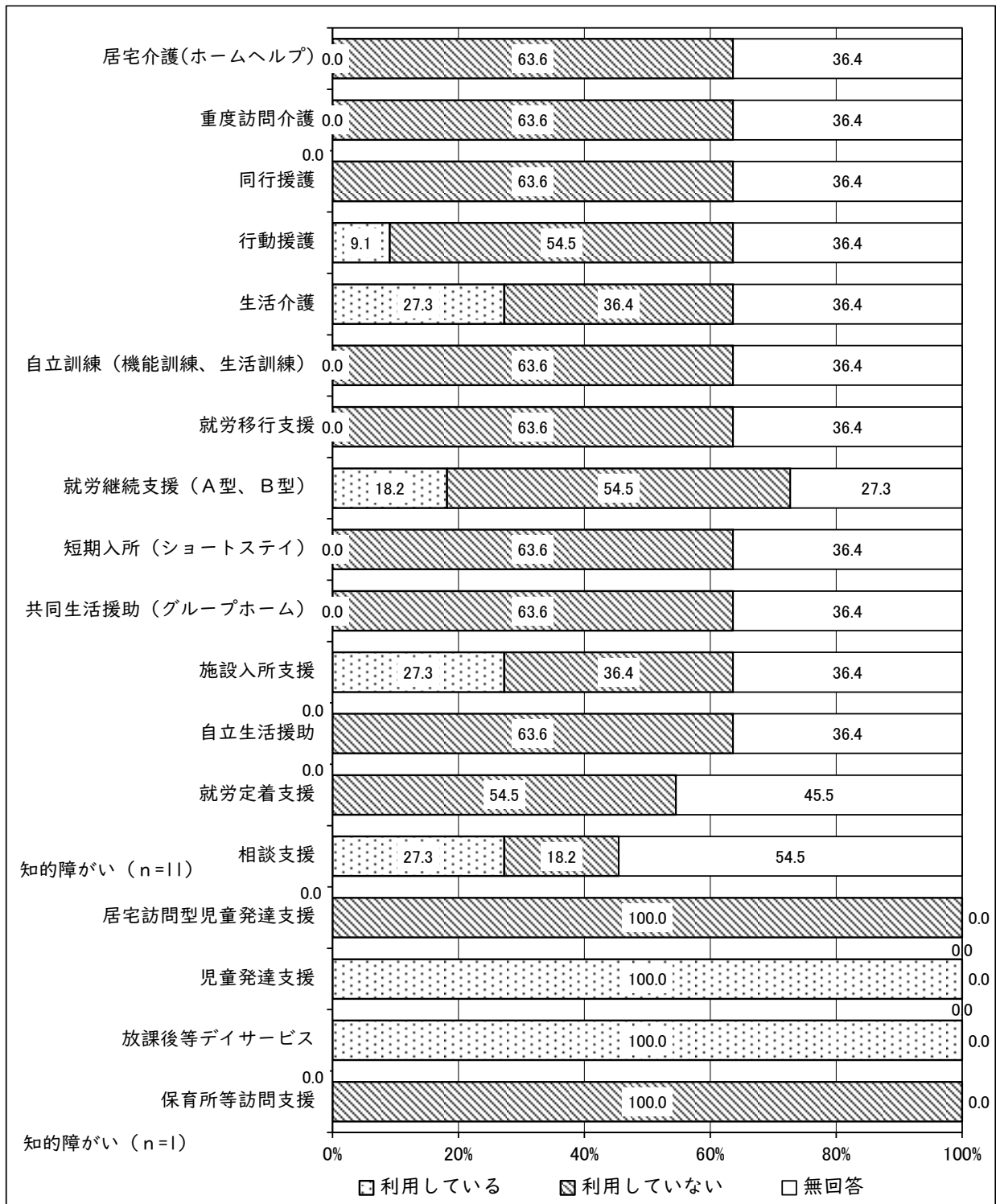
身体障がい者で現在、利用しているサービスは、「相談支援」(7.5%)や「生活介護」及び「共同生活援助(グループホーム)」(ともに6.0%)などが高くなっています。

◇身体障がい



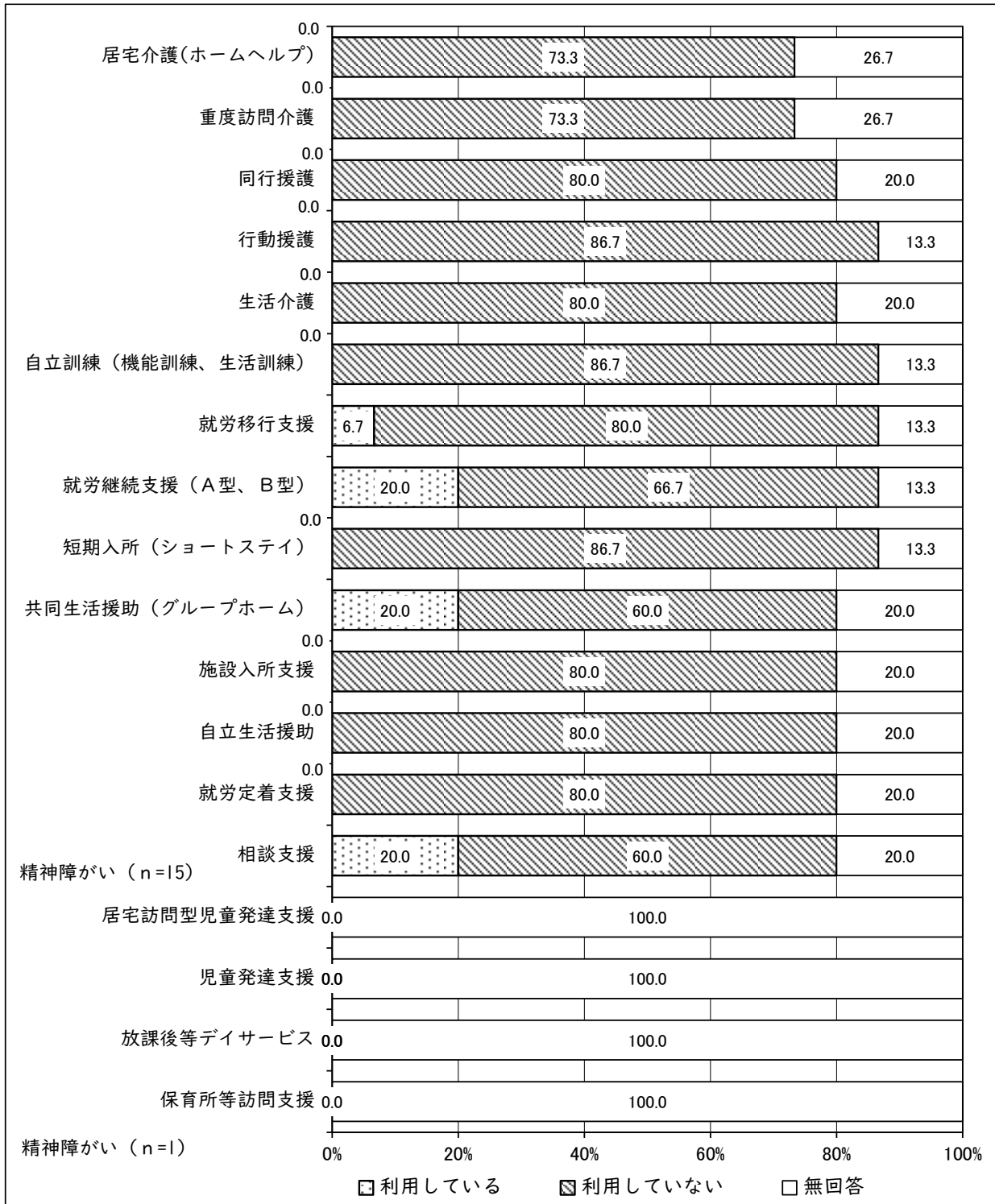
知的障がい者で現在、利用しているサービスは、「生活介護」、「施設入所支援」、「相談支援」がそれぞれ27.3%と高くなっています。

◇知的障がい



精神障がい者で現在、利用しているサービスは、「就労継続支援（A型、B型）」、「共同生活援助（グループホーム）」、「相談支援」（それぞれ20.0%）が高くなっています。

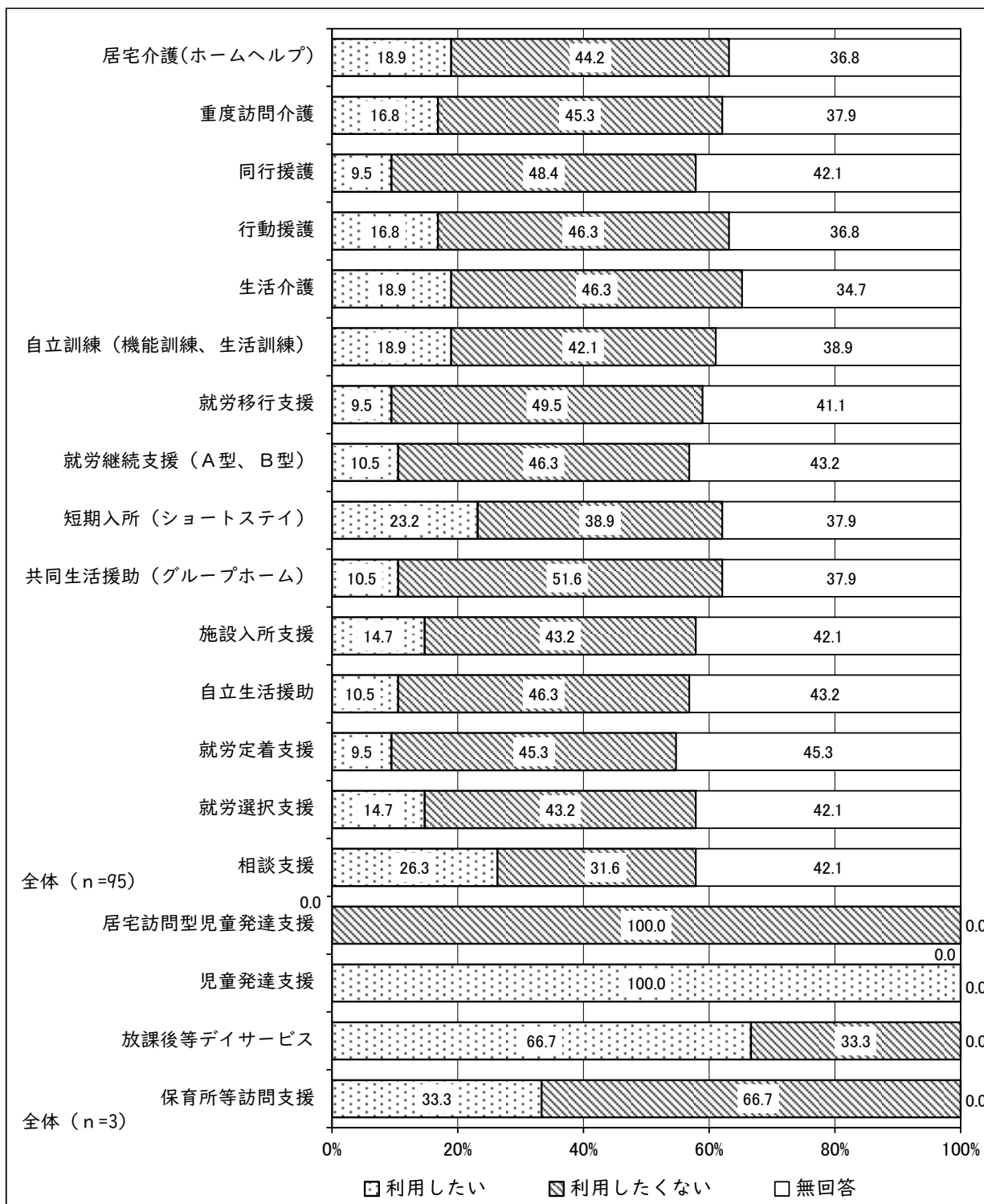
◇精神障がい



今後、利用したいサービスは、「相談支援」が26.3%と最も高く、以下、「短期入所（ショートステイ）」(23.2%)、「居宅介護(ホームヘルプ)」、「生活介護」、「自立訓練（機能訓練、生活訓練）」(それぞれ18.9%)と続きます。

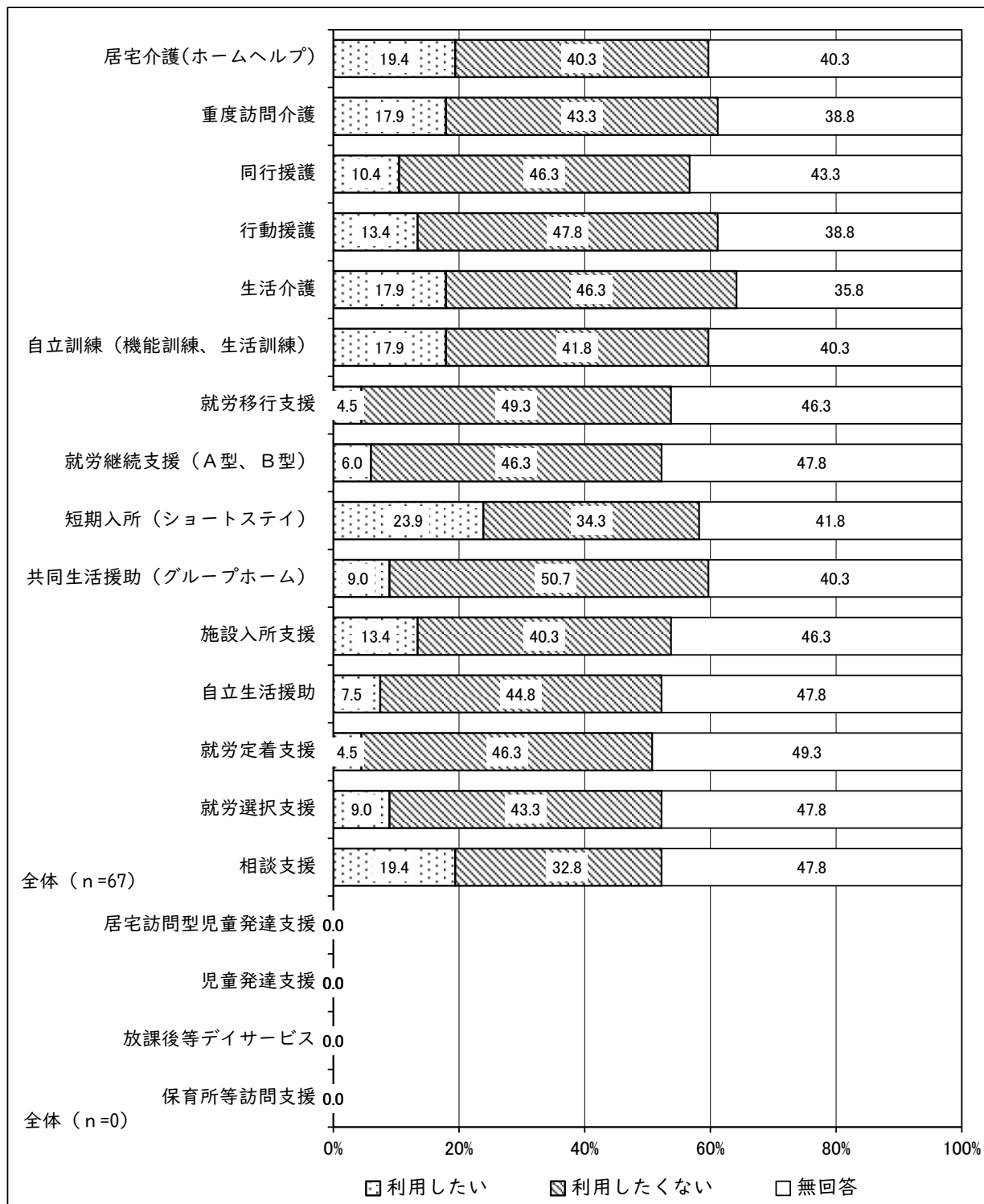
障がい児を対象とする「居宅訪問型児童発達支援」以下4サービスについて「利用している」は、「児童発達支援」が100.0%（3人）、「放課後等デイサービス」が66.7%（2人）、「保育所等訪問」が33.3%（1人）となっています。

◇全体



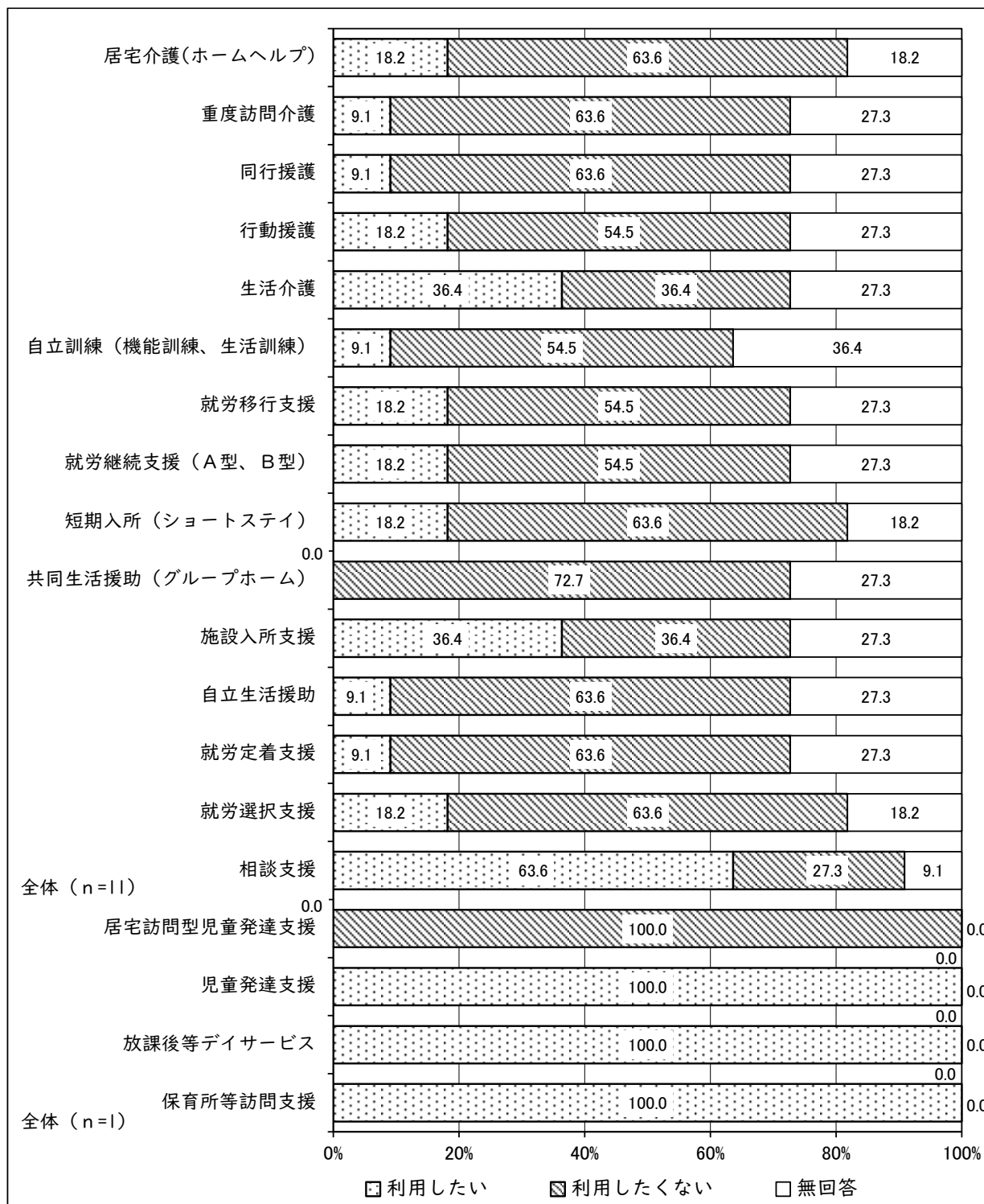
身体障がい者で今後、利用したいサービスは、「短期入所（ショートステイ）」（23.9%）や「居宅介護（ホームヘルプ）」及び「相談支援」（ともに19.4%）、「重度訪問介護」、「生活介護」、「自立訓練（機能訓練、生活訓練）」（それぞれ17.9%）などが高くなっています。

◇身体障がい



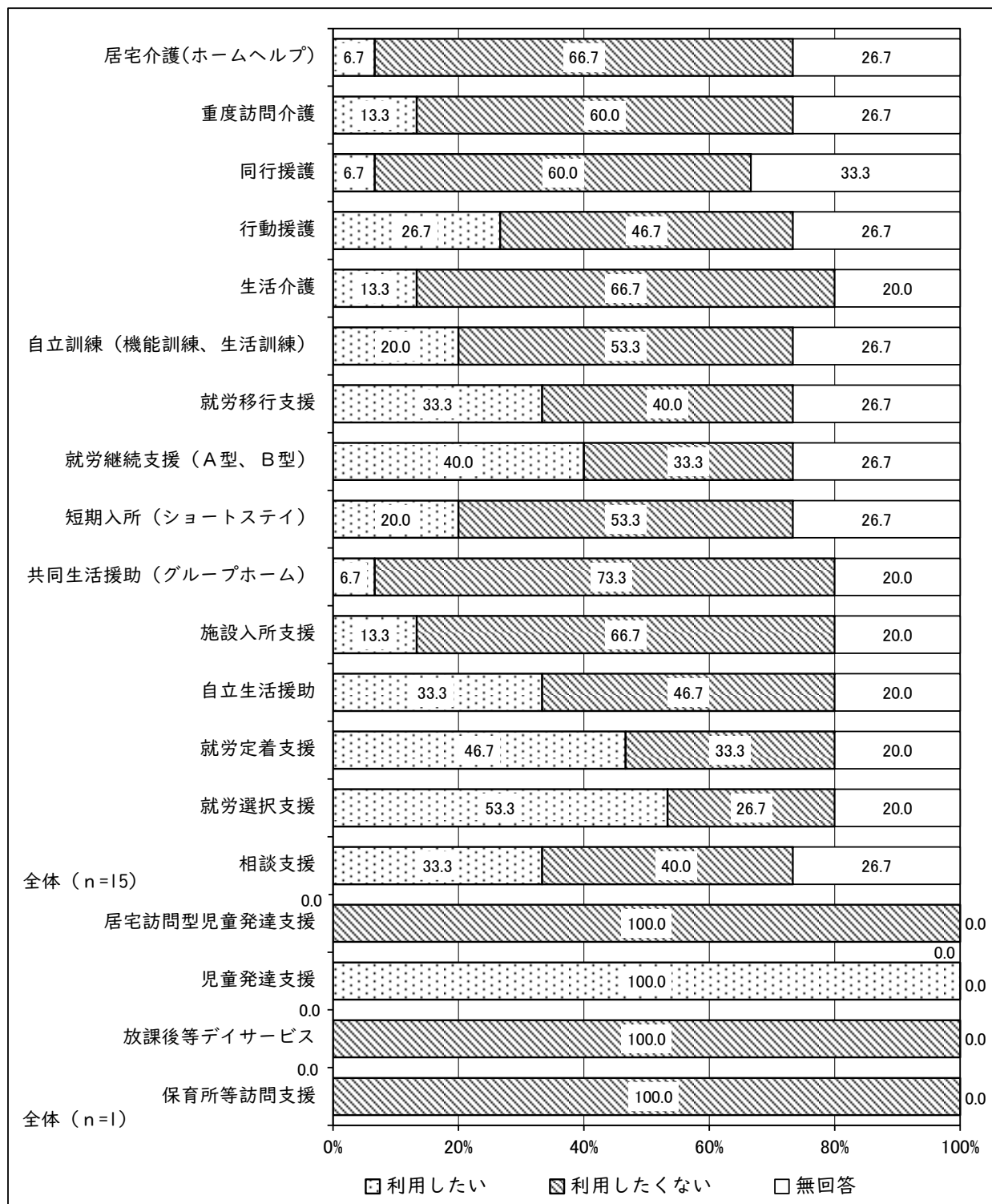
知的障がい者で今後、利用したいサービスは、「相談支援」(63.6%)や「生活介護」及び「施設入所支援」(ともに36.4%)などが高くなっています。

◇知的障がい



精神障がい者で今後、利用したいサービスは、「就労選択支援」(53.3%)や「就労定着支援」(46.7%)、「就労継続支援（A型、B型）」(40.0%)、「就労移行支援」「自立生活援助」、「相談支援」（それぞれ33.3%)、「行動援護」(26.7%)などが高くなっています。

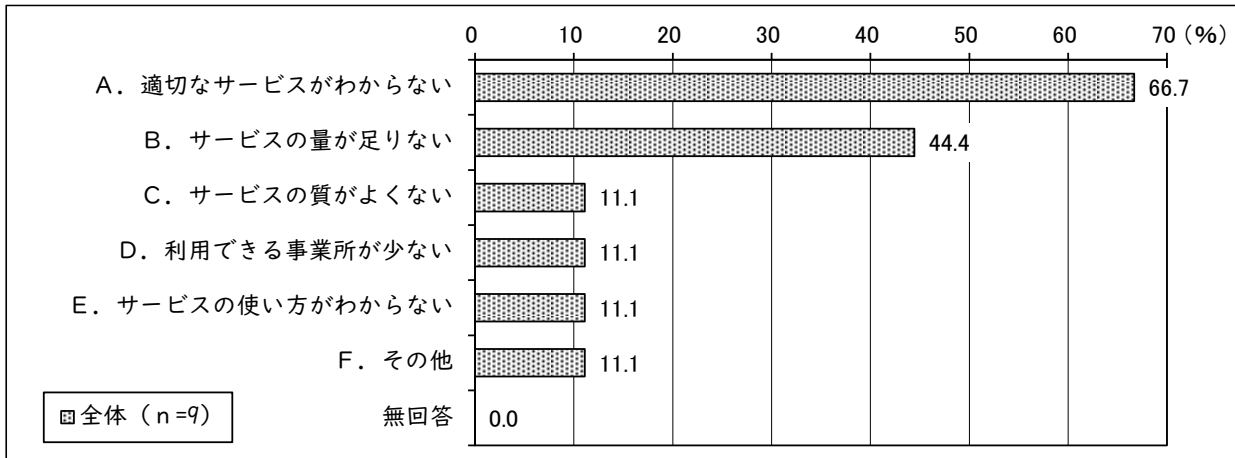
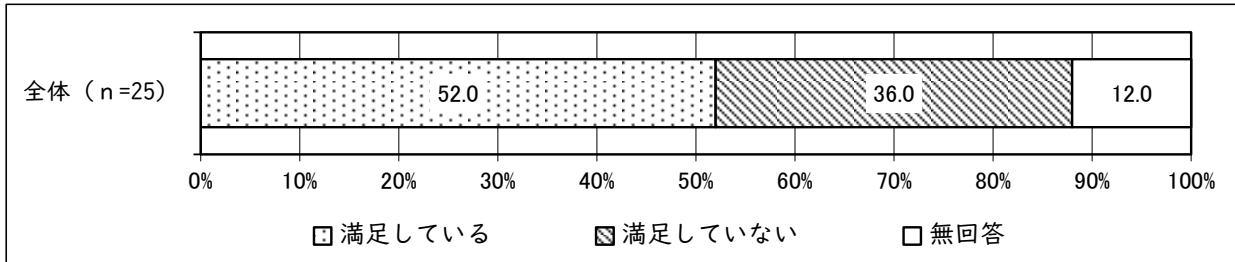
◇精神障がい



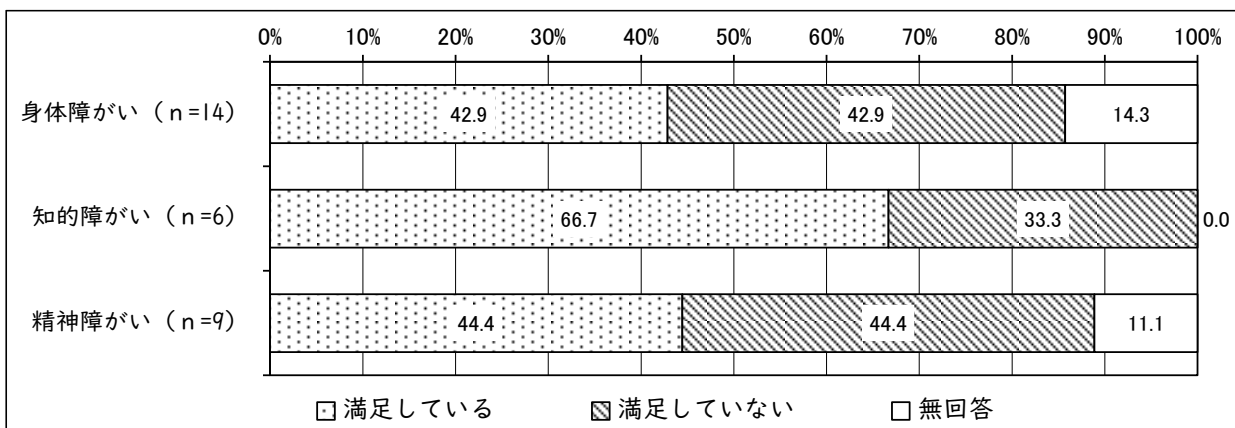
問35 いま利用している福祉サービスに満足していますか。（どちらかに○）

いま利用している福祉サービスに満足しているかについては、「満足している」が52.0%、「満足していない」が36.0%となっています。

満足していない理由は、「A. 適切なサービスがわからない」が66.7%、「B. サービスの量が足りない」が44.4%、「C. サービスの質がよくない」、「D. 利用できる事業所が少ない」、「E. サービスの使い方がわからない」がそれぞれ11.1%となっています。



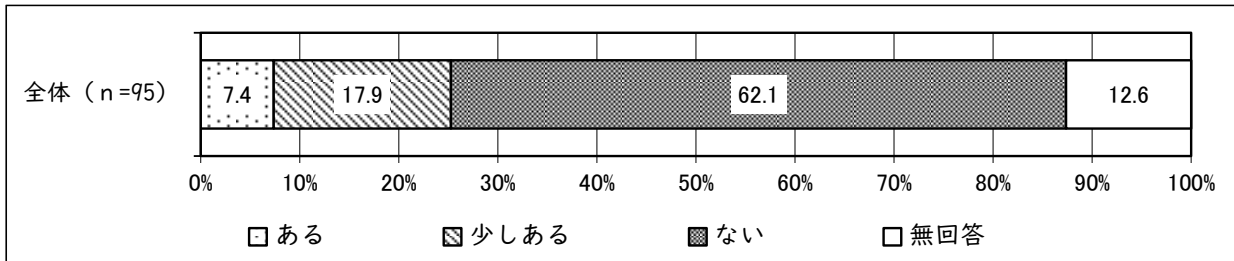
障がい別にみると、知的障がいでは「満足している」が66.7%と、他障がいより高くなっています。



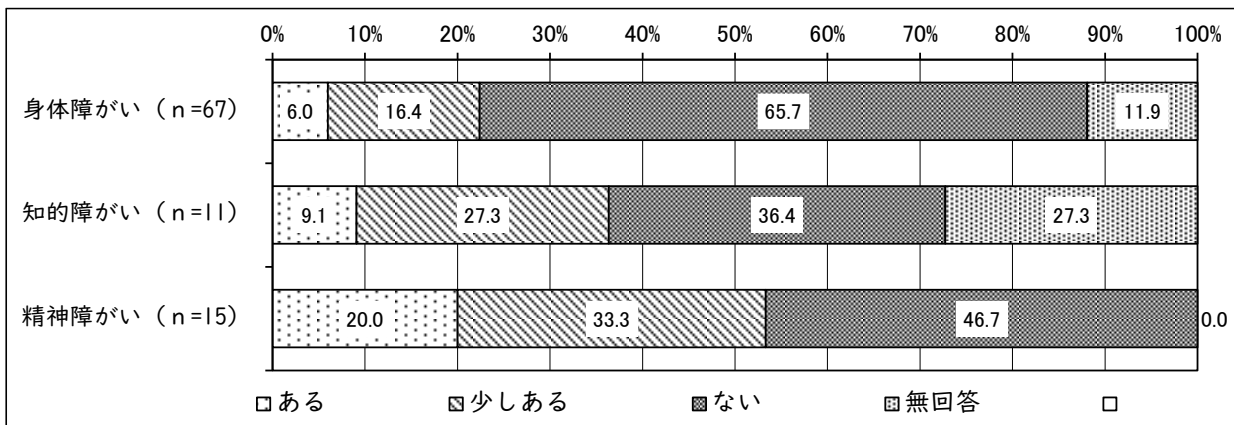
◇ 権利擁護について

問36 日常生活や社会生活において、障がいがあることによって差別や偏見を感じることはありませんか。(○は1つだけ)

差別や偏見を感じることはあるかは、「ない」が62.1%と最も高く、「少しある」は17.9%、「ある」は7.4%となっています。



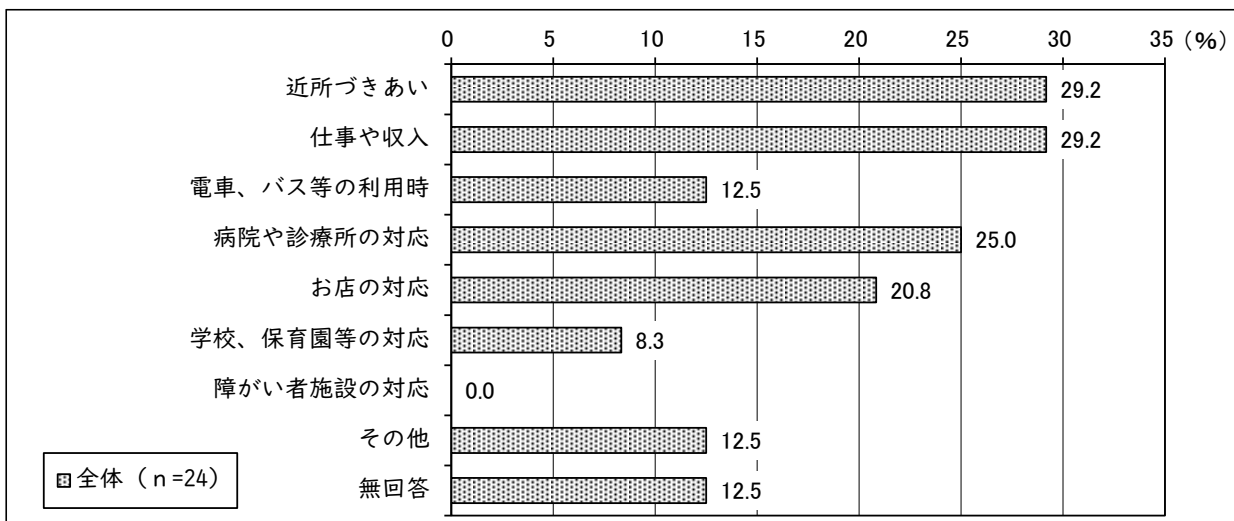
障がい別にみると、精神障がいは「ある」が20.0%と、他障がいより高くなっています。



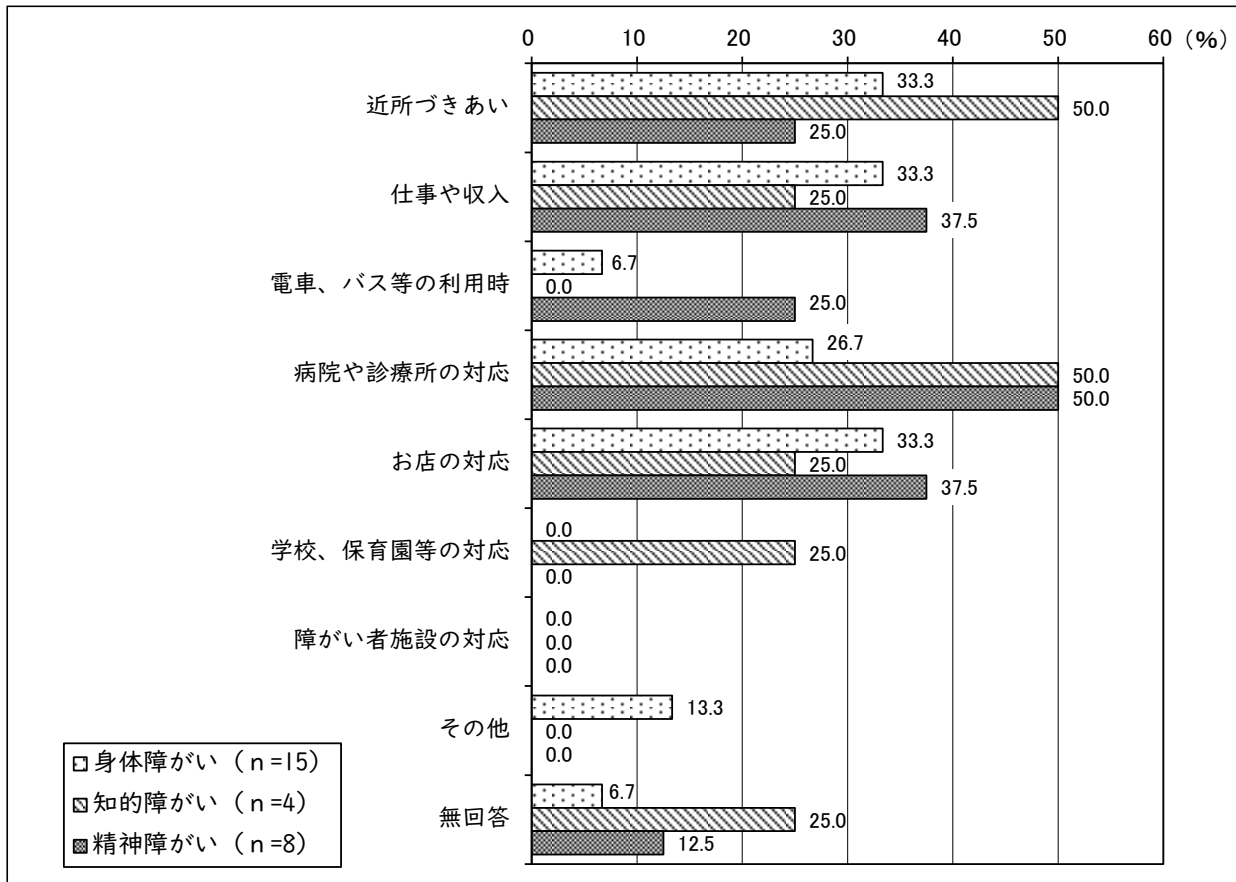
【※問37は、問36で「1」又は「2」と回答された方にお伺いします】

問37 障がい者に対する差別や偏見を感じるのは、どのような場面ですか。(○はいくつでも)

差別や偏見を感じる場面については、「近所づきあい」及び「仕事や収入」(ともに29.2%)や「病院や診療所の対応」(25.0%)、「お店の対応」(20.8%)の比率が高くなっています。

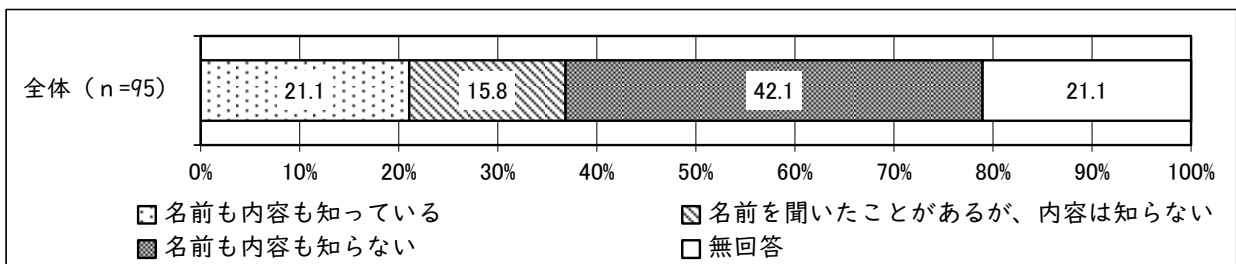


障がい別にみると、知的障がいでは「近所づきあい」(50.0%)や「学校、保育園等の対応」(25.0%)が、精神障がいでは「電車、バス等の利用時」(25.0%)が、それぞれ他障がいを大きく上回っています。

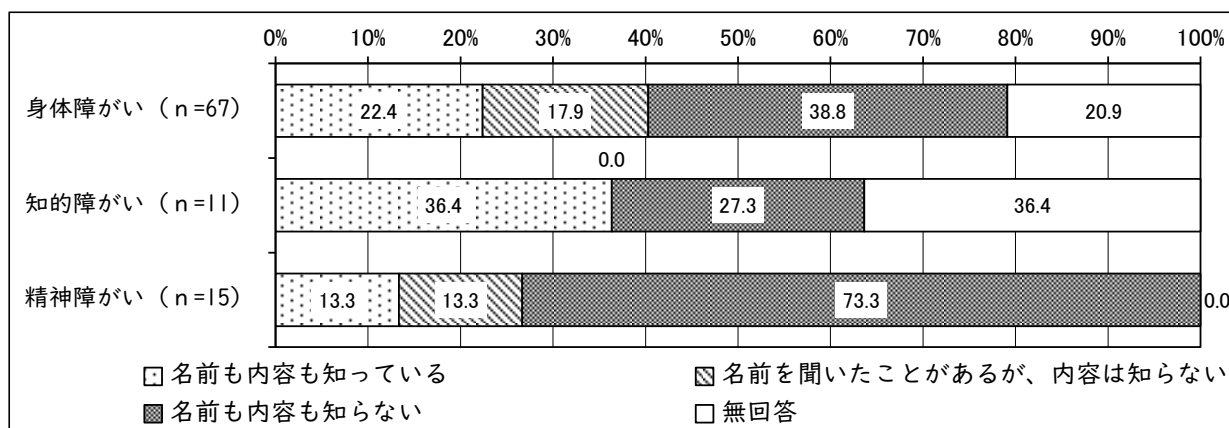


問38 成年後見制度をご存じですか。(○は1つだけ)

成年後見制度を知っているかは、「名前も内容も知らない」が42.1%、「名前も内容も知っている」が21.1%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が15.8%となっています。

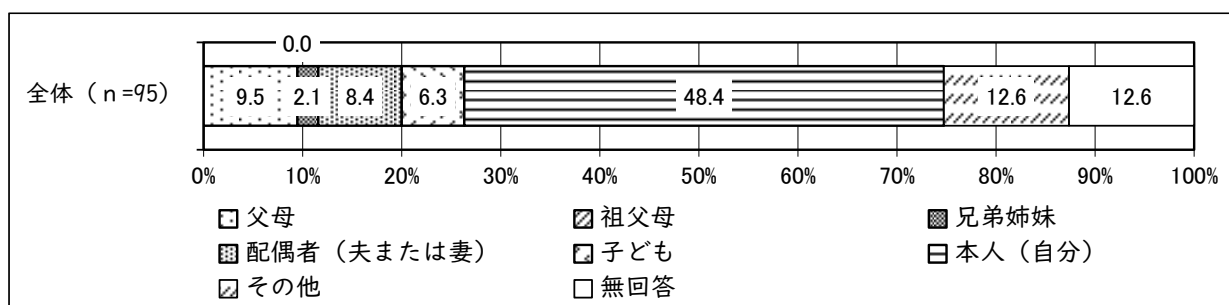


障がい別にみると、「名前も内容も知らない」は精神障がい者が73.3%と、他障がいを大きく上回っています。

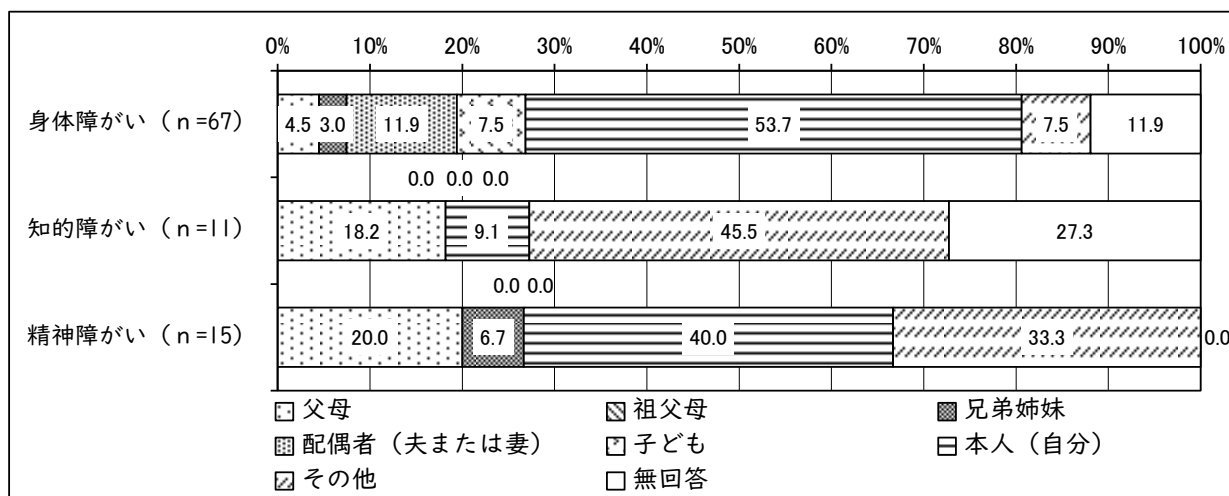


問39 自分のお金や通帳は誰が管理していますか。(○は1つだけ)

お金や通帳の管理者については、「本人(自分)」が48.4%と最も高く、以下、「父母」が9.5%、「配偶者(夫または妻)」が8.4%、「子ども」が6.3%、「兄弟姉妹」が2.1%となっています。

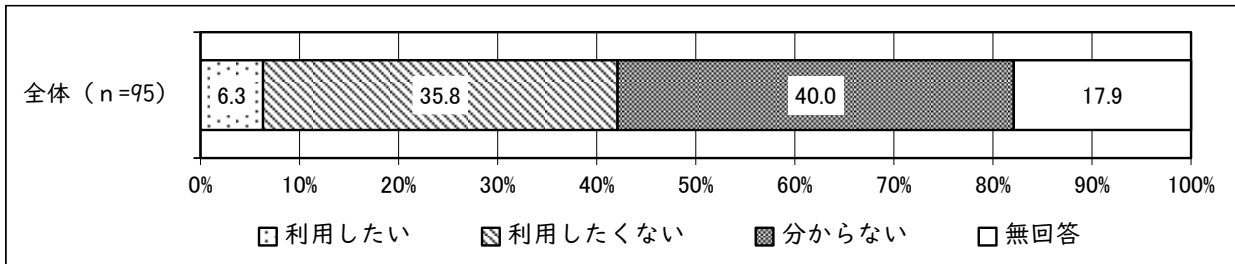


障がい別にみると、身体障がい及び精神障がいで「本人(自分)」がそれぞれ53.7%、40.0%と最も高くなっています。

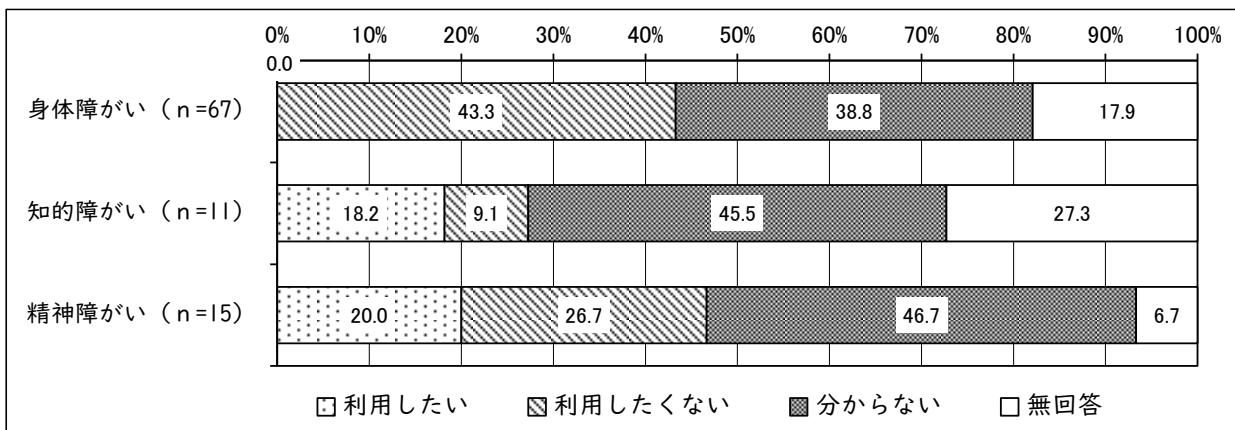


問40 今後、自分の財産を守るため成年後見制度を利用したいですか。（○は1つだけ）

今後、自分の財産を守るため成年後見制度を利用したいかは、「分からない」が40.0%、「利用したくない」が35.8%、「利用したい」が6.3%となっています。



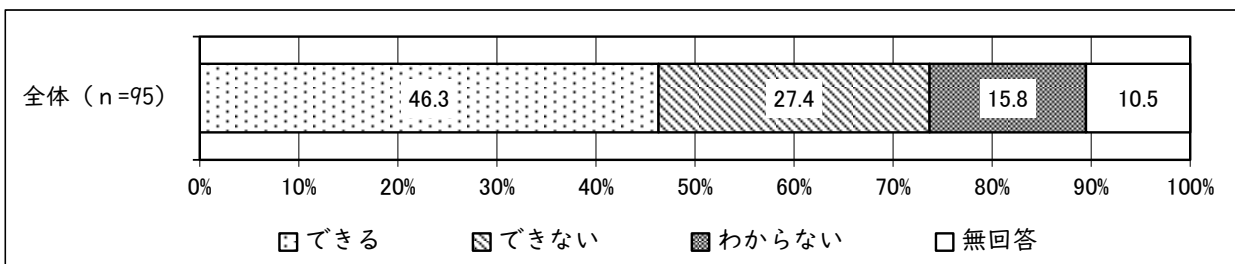
障がい別にみると、身体障がいでは「利用したい」が0.0%と、他と比較して最も低くなっています。



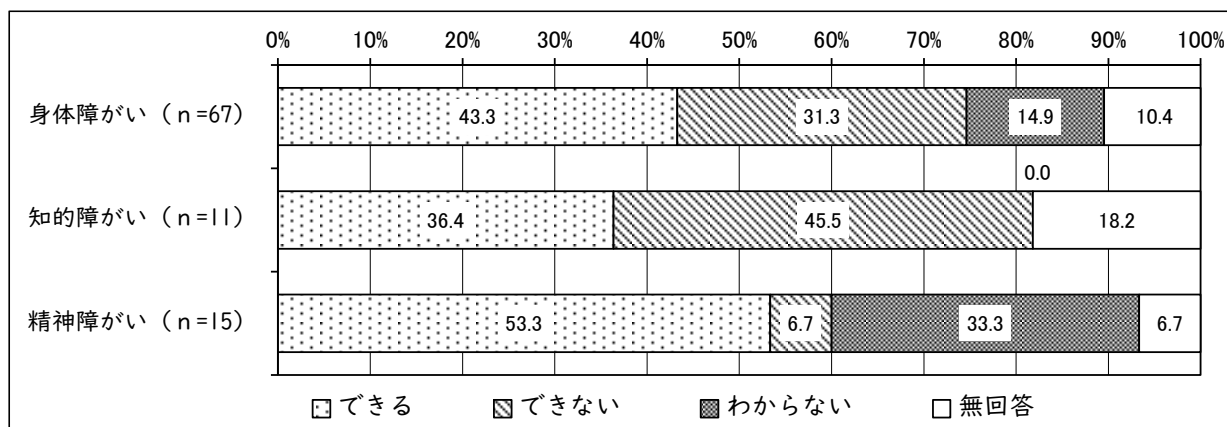
◇ 災害時の避難等について

問41 あなたは、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。（○は1つだけ）

火事や地震等の災害時に一人で避難できるかは、「できる」が46.3%、「できない」が27.4%、「わからない」が15.8%となっています。

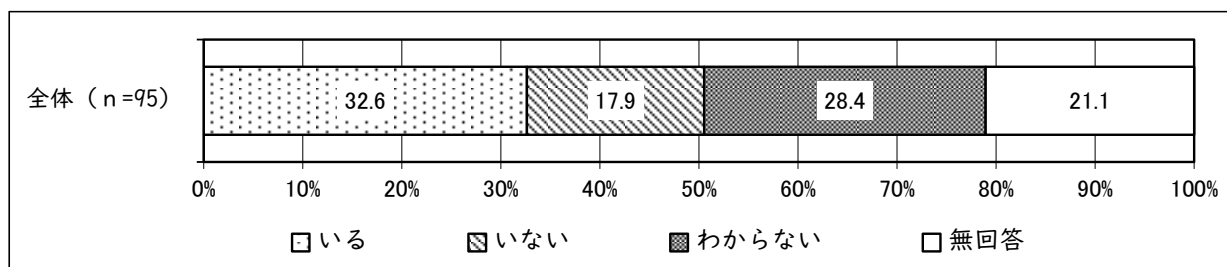


障がい別にみると、「できない」は知的障がい者が 45.5%、身体障がい者が 31.3%、精神障がい者が 6.7%となっています。

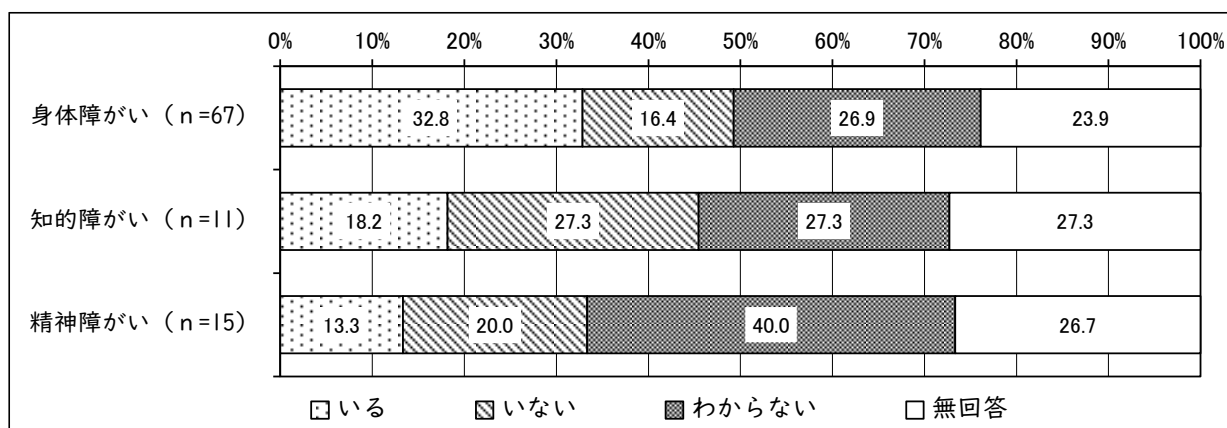


問42 一人暮らしの方の場合や家族がいても不在にしている場合、近所にあなただけを助けてくれる人はいますか。(○は1つだけ)

近所に助けてくれる人がいるかは、「いる」が 32.6%、「わからない」が 28.4%、「いない」が 17.9%となっています。

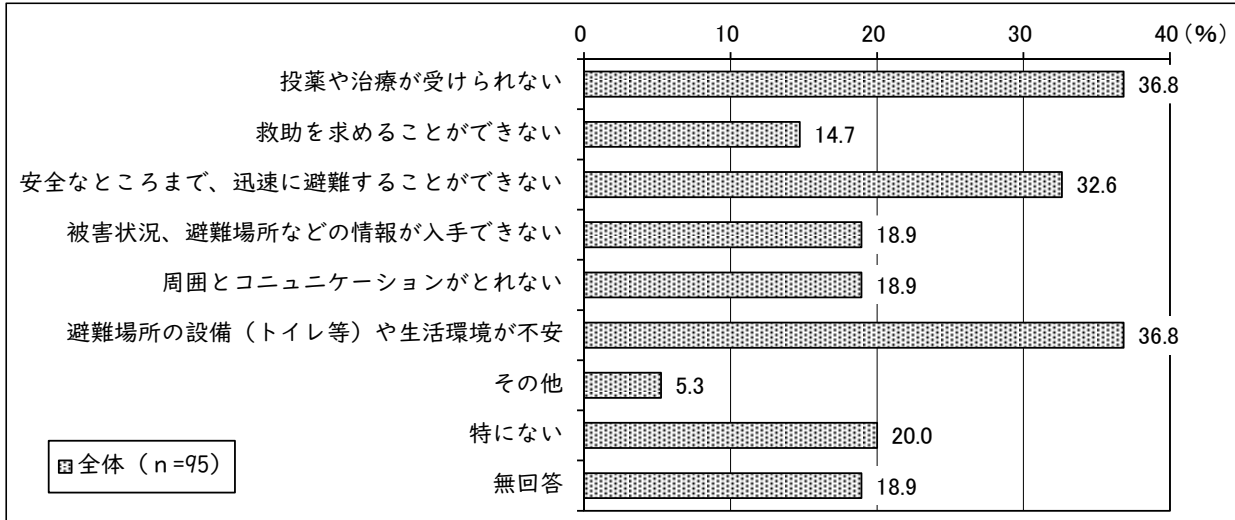


障がい別にみると、「いない」は知的障がい者が 27.3%、精神障がい者が 20.0%、身体障がい者が 16.4%となっています。

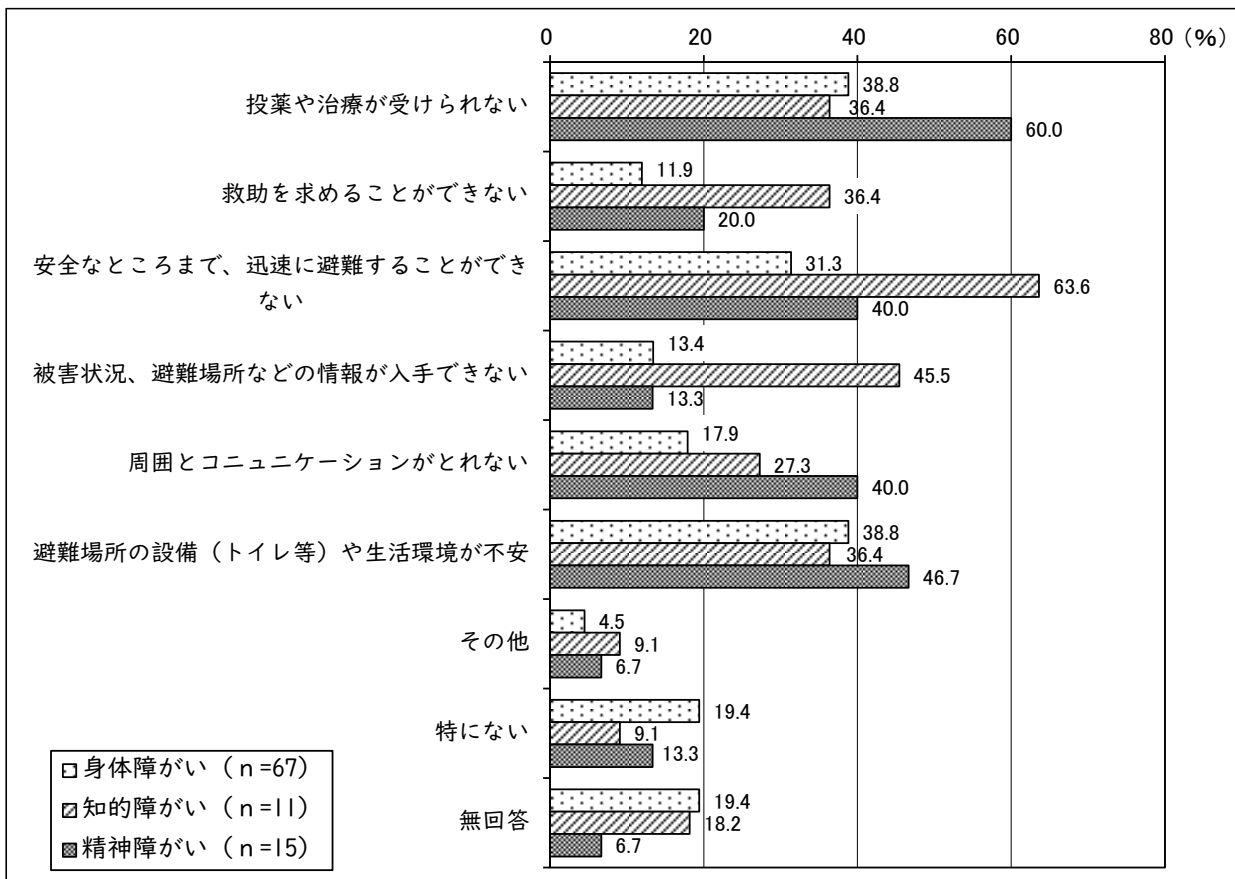


問43 火事や地震等の災害時に困ることは何ですか。(〇はいくつでも)

火事や地震等の災害時に困ることは、「投薬や治療が受けられない」及び「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」がともに36.8%と最も高く、以下、「安全なところまで、迅速に避難することができない」(32.6%)、などとなっています。なお、「特にない」は20.0%となっています。

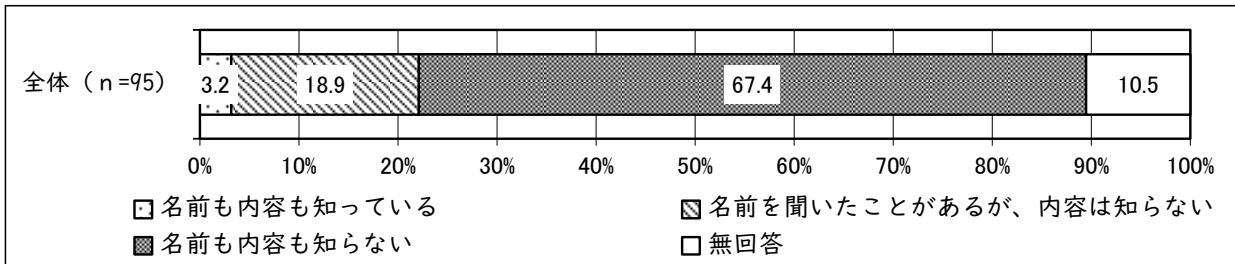


障がい別にみると、身体障がいは「投薬や治療が受けられない」及び「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」(ともに38.8%)が、知的障がいは「安全なところまで、迅速に避難することができない」(63.6%)や「被害状況、避難場所などの情報が入手できない」(45.5%)が、精神障がいは「投薬や治療が受けられない」(60.0%)や「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」(46.7%)が、それぞれ高くなっています。

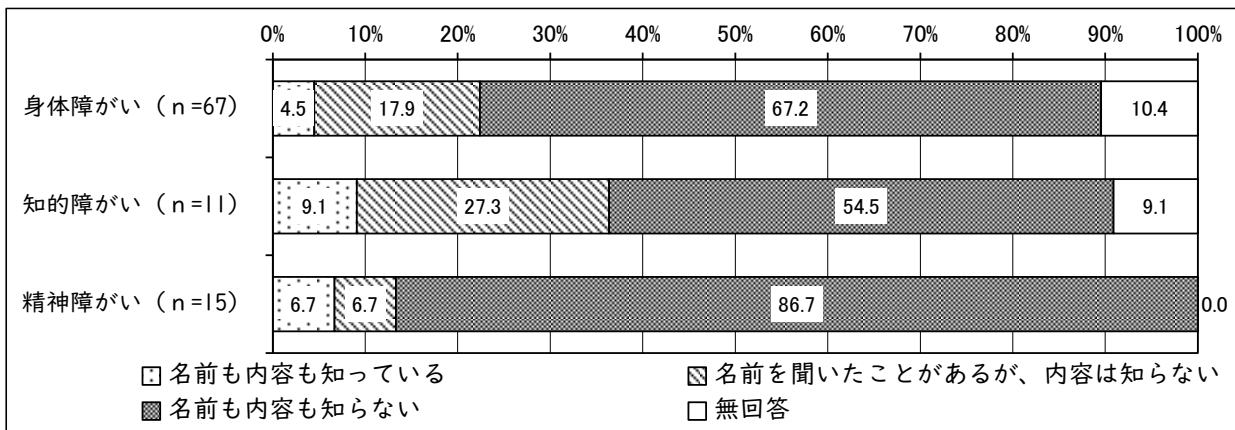


問44 避難行動要支援者制度をご存じですか。(○は1つだけ)

避難行動要支援者制度を知っているかは、「名前も内容も知らない」が67.4%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が18.9%、「名前も内容も知っている」が3.2%となっています。



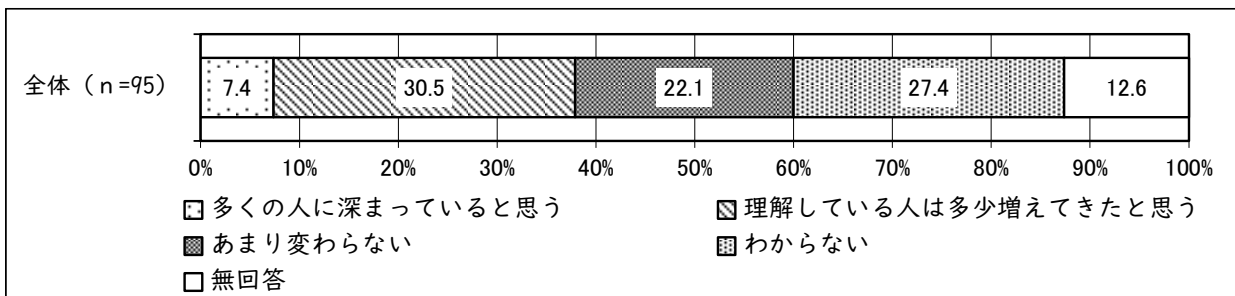
障がい別にみると、「名前も内容も知らない」は精神障がい者が86.7%と、他障がいを大きく上回っています。



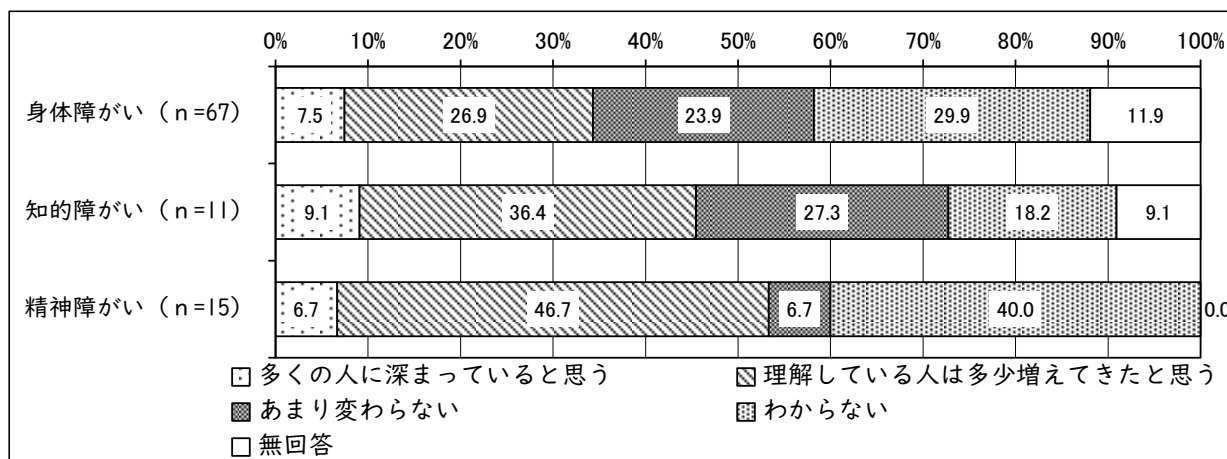
◇ 障がい者への理解について

問45 障がいのある人々が社会の一員として地域の中で共に生活が送れる社会の理解は深まっていると思いますか。(○は1つだけ)

社会の理解は深まっていると思うかについては、「理解している人は多少増えてきたと思う」が30.5%と最も高く、「わからない」が27.4%、「あまり変わらない」が22.1%、「多くの人に深まっていると思う」が7.4%となっています。

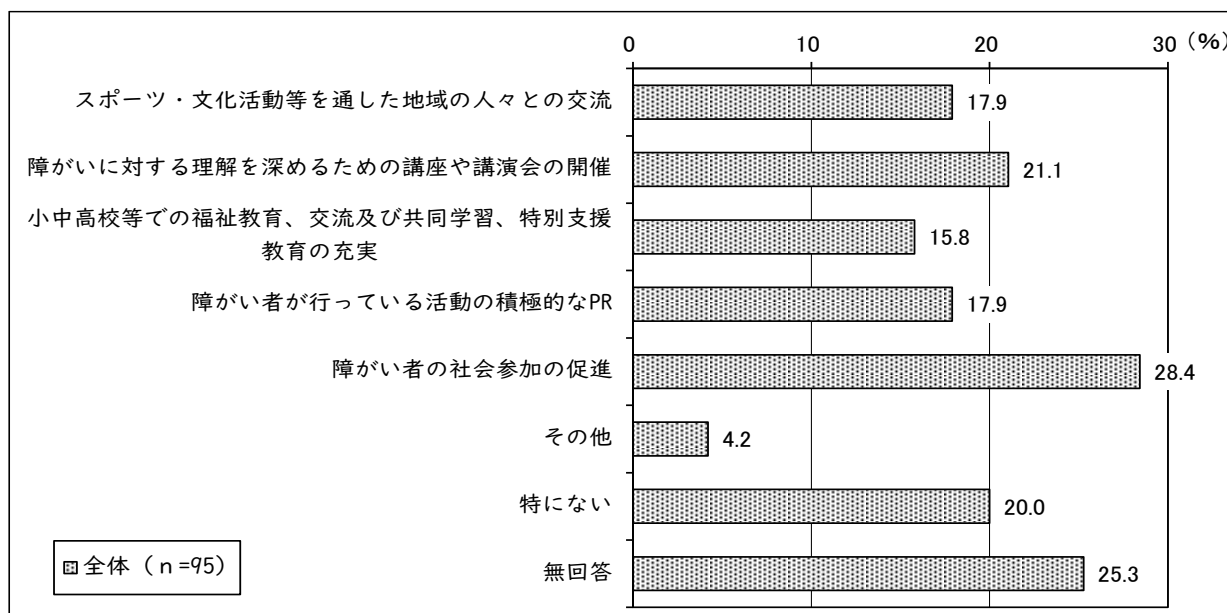


障がい別にみると、身体障がいは「わからない」(29.9%)が、精神障がい及び知的障がいは「理解している人は多少増えてきたと思う」(46.7%、36.4%)が、それぞれ最も高くなっています。

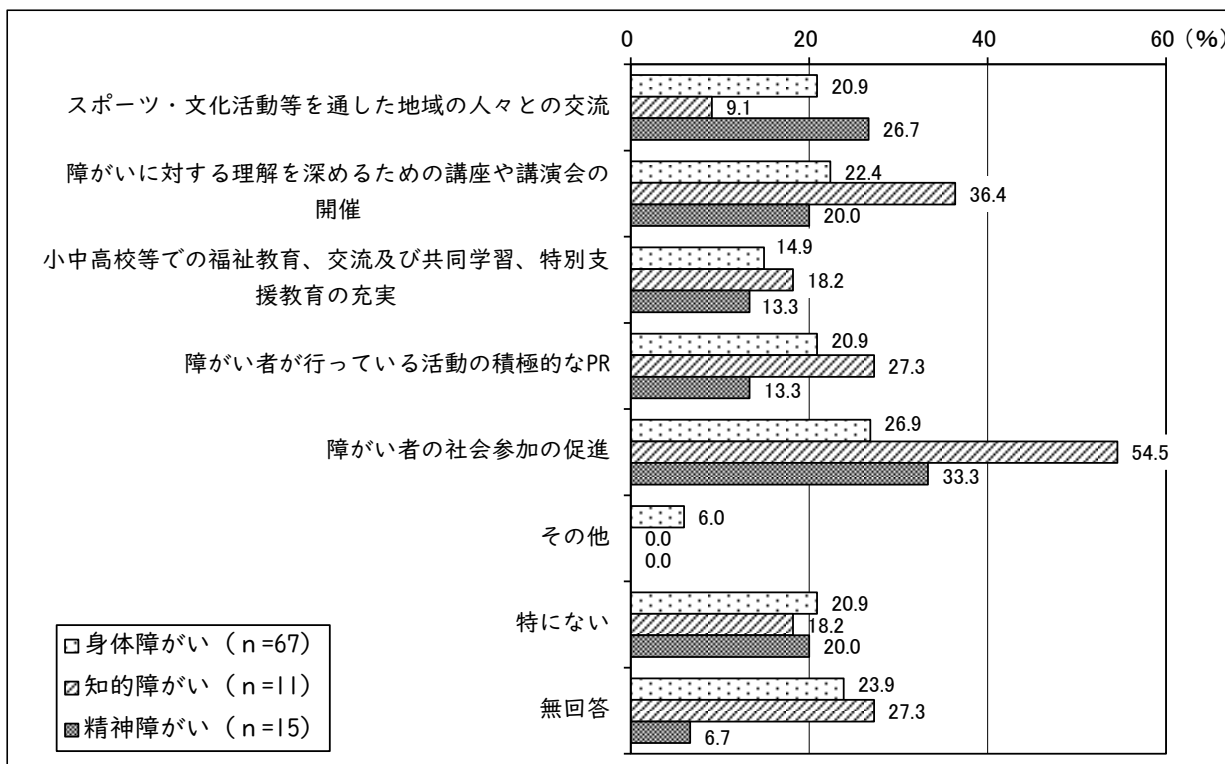


問46 障がい者への理解を深めるために力をいれるべきことは何だと思えますか。(〇は3つまで)

障がい者への理解を深めるために力をいれるべきことについては、「障がい者の社会参加の促進」が28.4%と最も高く、以下、「障がいに対する理解を深めるための講座や講演会の開催」(21.1%)、「スポーツ・文化活動等を通じた地域の人々との交流」及び「障がい者が行っている活動の積極的なPR」(ともに17.9%)、「小中高校等での福祉教育、交流及び共同学習、特別支援教育の充実」(15.8%)となっています。



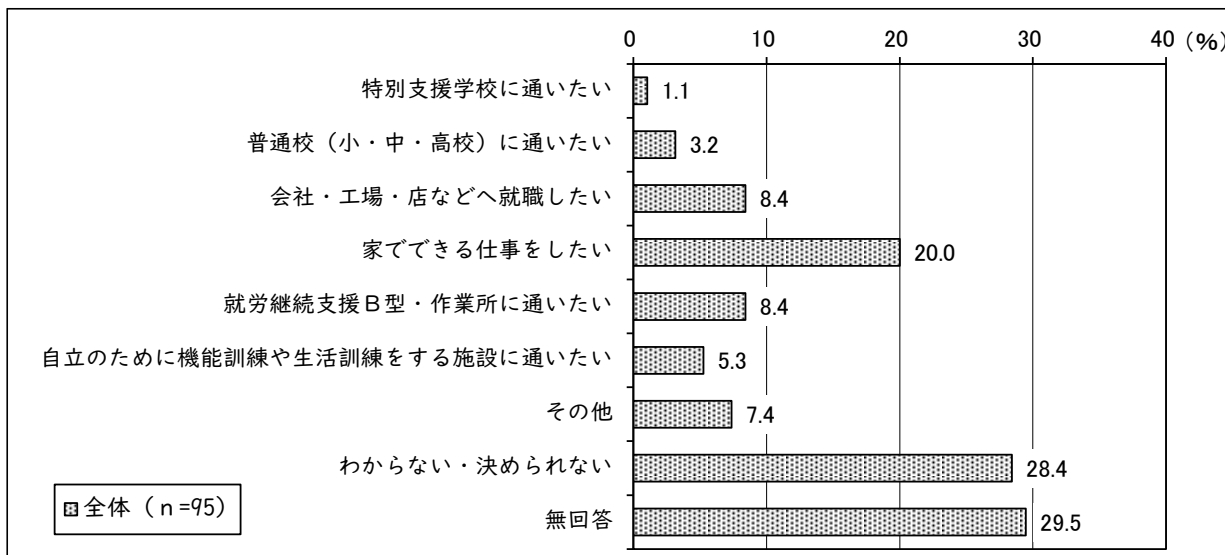
障がい別にみると、知的障がいは「障がい者の社会参加の促進」(54.5%)や「障がいに対する理解を深めるための講座や講演会の開催」(36.4%)が、他障がいを上回り高くなっています。



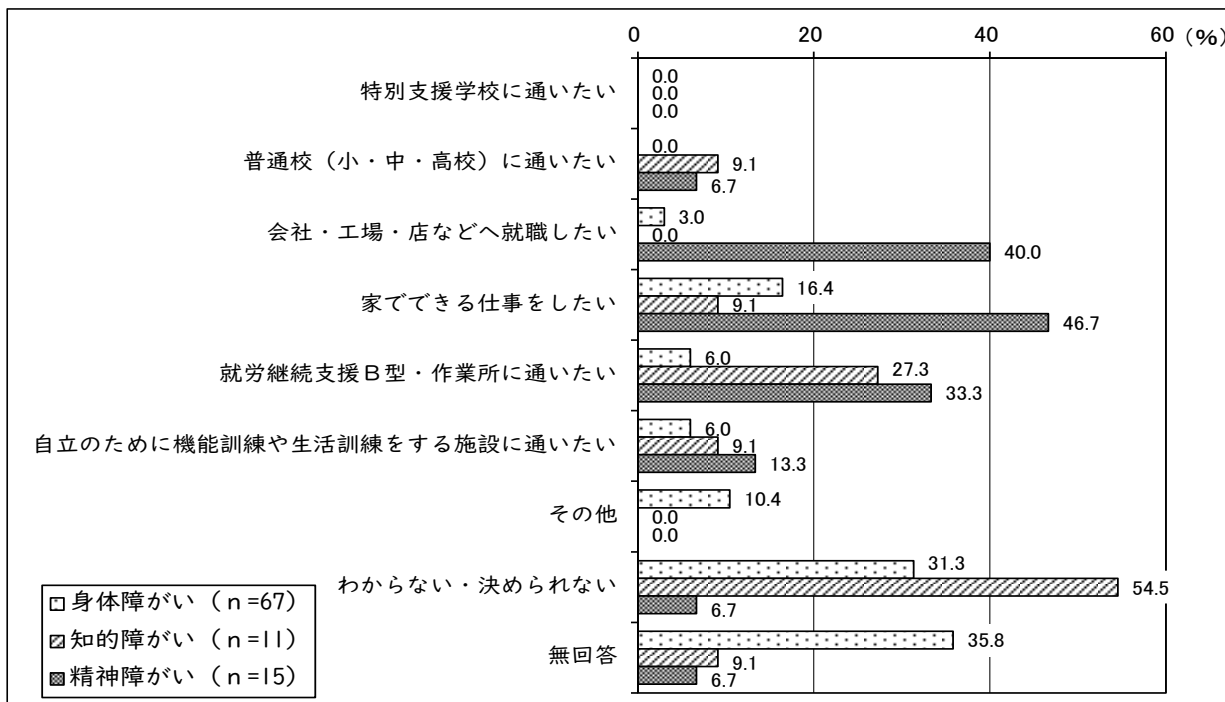
◇ 将来の暮らし方について

問47 あなたは、今後（3年後）の進路や生活設計をどのようにしたいと考えていますか。
 (○は3つまで。現在の生活を継続する場合も含める)

今後（3年後）の進路や生活設計については、「家でできる仕事をしたい」が20.0%突出しており、以下、「会社・工場・店などへ就職したい」及び「就労継続支援B型・作業所に通いたい」（ともに8.4%）などとなっています。なお、「わからない・決められない」が28.4%と最も高くなっています。

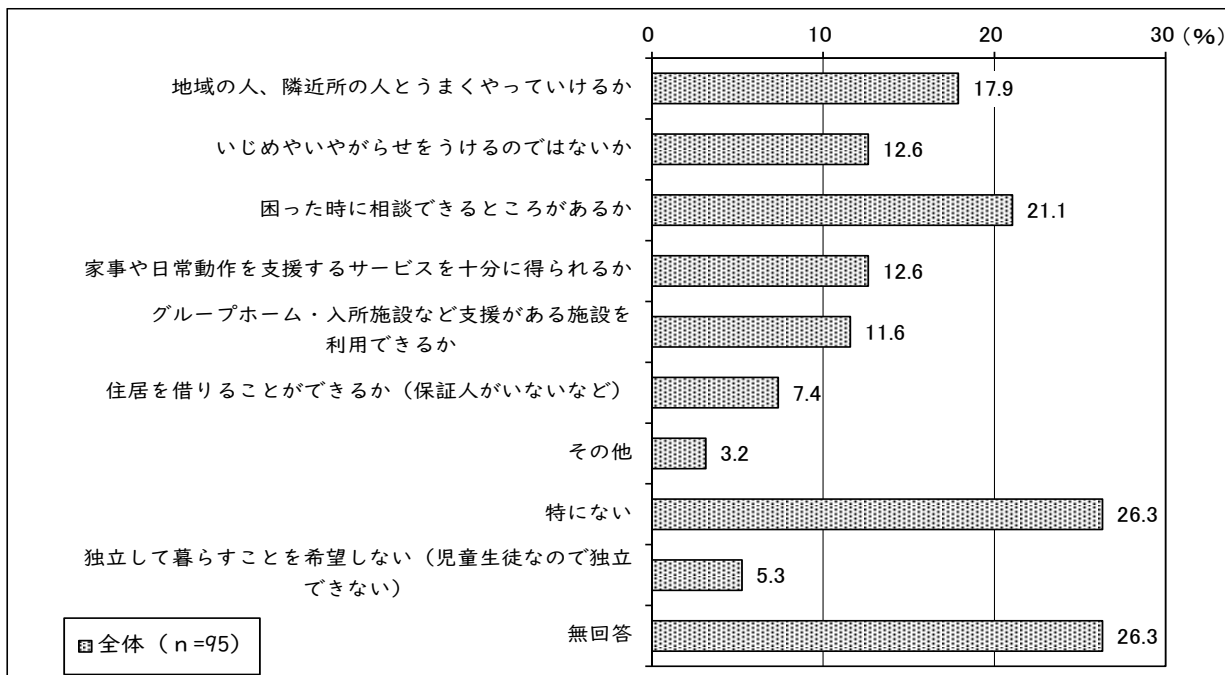


障がい別にみると、精神障がいは「家でできる仕事をしたい」(46.7%)や「会社・工場・店などへ就職したい」(40.0%)が、知的障がいは「わからない・決められない」(54.5%)が、それぞれ他障がいを上回り高くなっています。

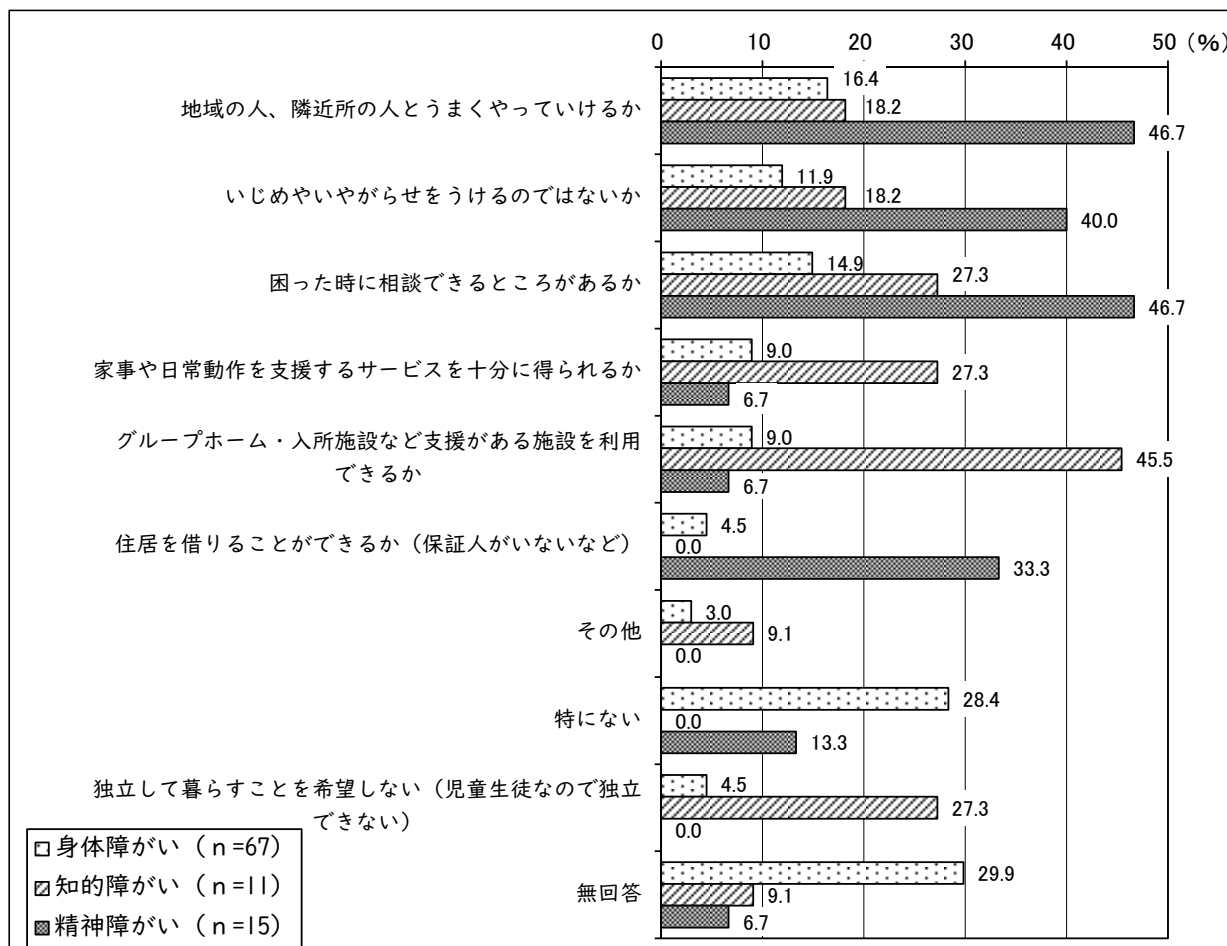


問48 あなたが、家族から独立して暮らす場合や、施設や病院から出て地域で暮らす場合に不安に思う(思った)ことをお答えください。(○は3つまで)

家族から独立して暮らす場合や、施設や病院から出て地域で暮らす場合に不安に思うことは、「困った時に相談できるところがあるか」(21.1%)、「地域の人、隣近所の人とうまくやっていけるか」(17.9%)、「いじめやいやがらせをうけるのではないか」及び「家事や日常動作を支援するサービスを十分に得られるか」(ともに12.6%)と続きます。なお、「特にない」が26.3%と最も高くなっています。

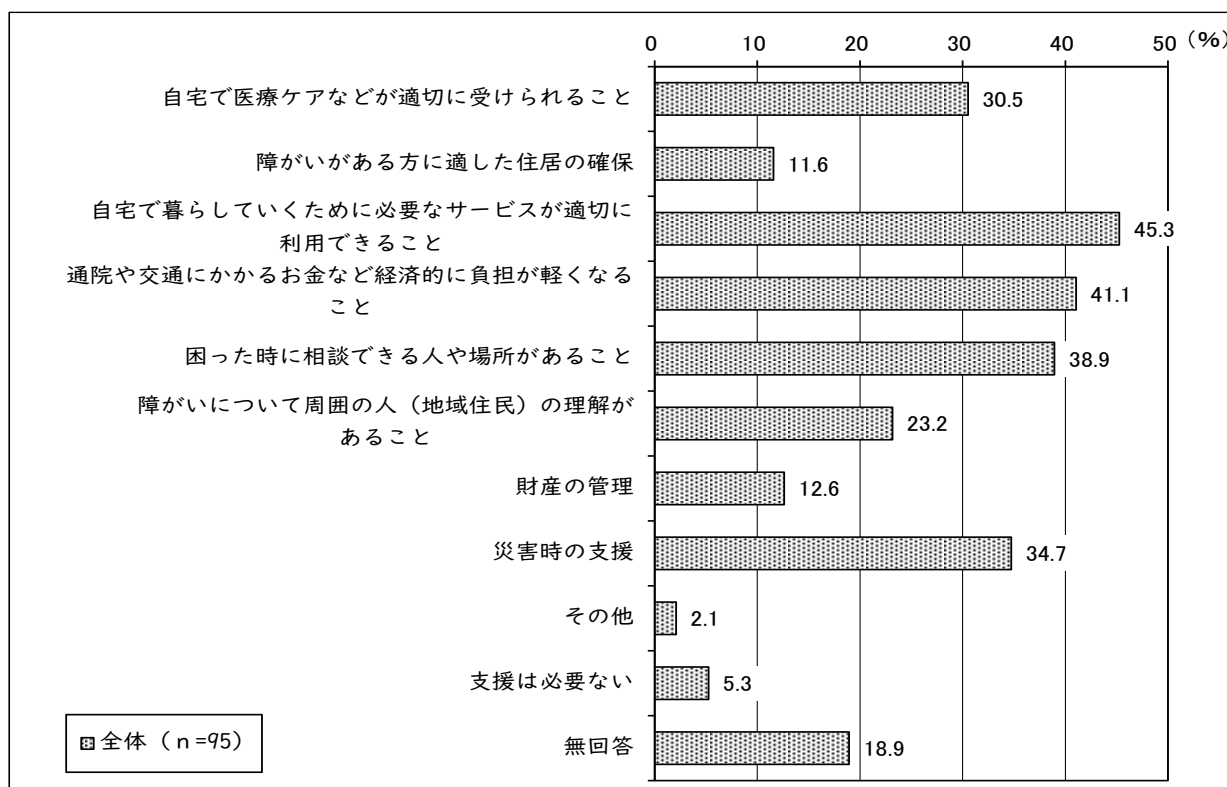


障がい別にみると、身体障がいは「特にない」(28.4%)が、知的障がいは「グループホーム・入所施設など支援がある施設を利用できるか」(45.5%)や「家事や日常動作を支援するサービスを十分に得られるか」及び「独立して暮らすことを希望しない(児童生徒なので独立できない)」(ともに27.3%)が、精神障がいは「地域の人、隣近所の人とうまくやっていけるか」及び「困った時に相談できるところがあるか」(ともに46.7%)、「いじめやいやがらせをうけるのではないか」(40.0%)、「住居を借りることができるか(保証人がいないなど)」(33.3%)が、それぞれ他障がいより高い比率となっています。

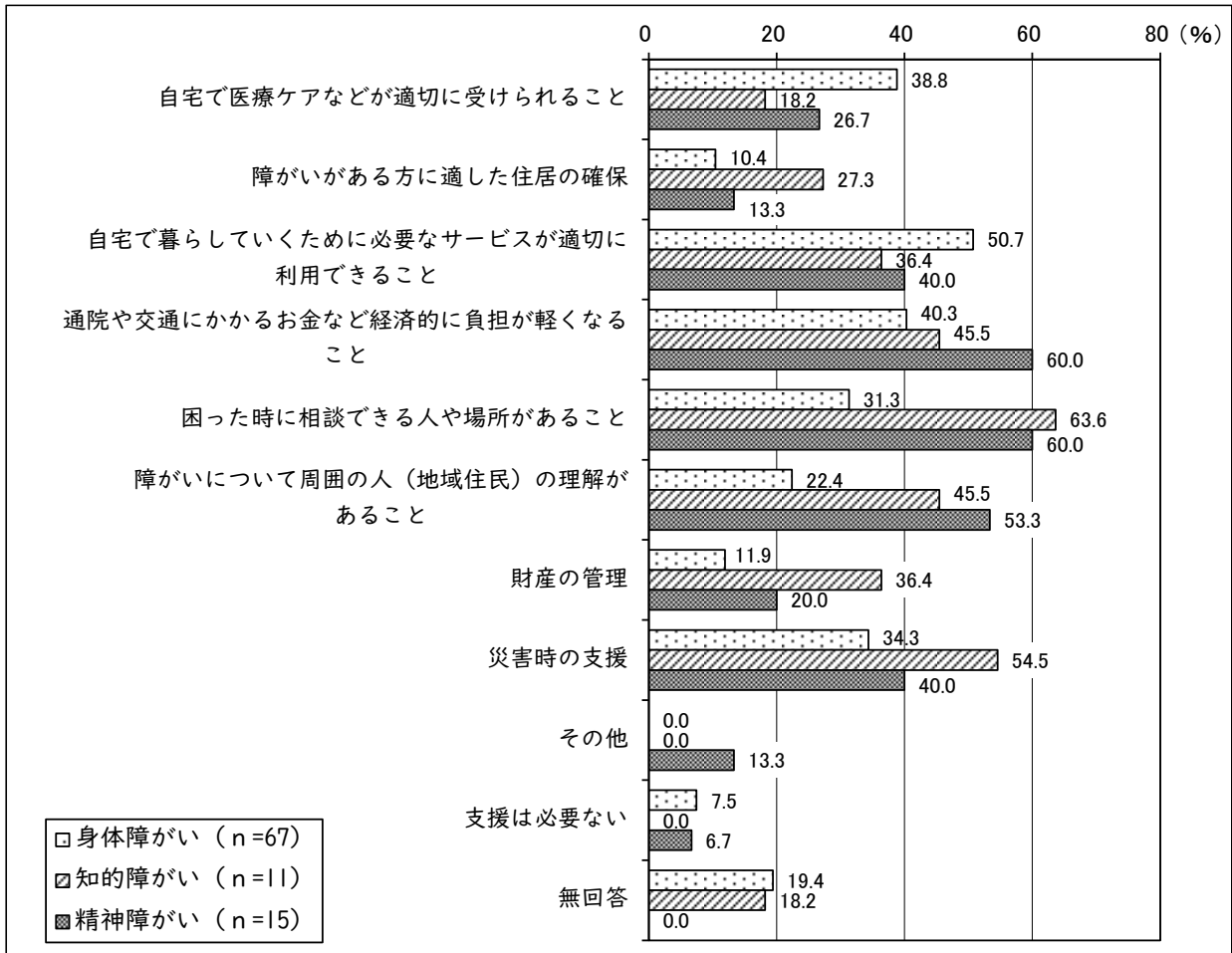


問49 あなたはこれから、どのような支援があればよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

今後どのような支援があれば良いと思うかについては、「自宅で暮らしていくために必要なサービスが適切に利用できること」が45.3%と最も高く、以下、「通院や交通にかかるお金など経済的に負担が軽くなること」(41.1%)、「困った時に相談できる人や場所があること」(38.9%)、「災害時の支援」(34.7%)、「自宅で医療ケアなどが適切に受けられること」(30.5%)などとなっています。



障がい別にみると、身体障がいは「自宅で暮らしていくために必要なサービスが適切に利用できること」(50.7%)や「自宅で医療ケアなどが適切に受けられること」(38.8%)が、知的障がいは「困った時に相談できる人や場所があること」(63.6%)や「災害時の支援」(54.5%)が、精神障がいは「通院や交通にかかるお金など経済的に負担が軽くなること」(60.0%)や「障がいについて周囲の人(地域住民)の理解があること」(53.3%)が、それぞれ他障がいより高い比率となっています。



問50 最期に障がい福祉サービスや行政の取組みについて、何かご意見がありましたらご記入ください。

下表のとおり 15人から交通や一人での生活のサポート、障がい者への理解などについてご意見をいただきました。

No.	性別	年齢	手帳の種類			自由意見
			身体	療育	精神	
1	女性	18歳以下		○		自分で、交通機関に乗る事が出来ない人を、通院や通学などで送迎する時などのガソリン代の助成が欲しい。特別支援学校に通うのが本人にとって良いとは分っているが、送迎を毎日4時間160km運転するのが、本当に大変です。なので村内でその教育が受けられることを願います。インクルーシブ教育を考えて下さい。
2	男性	30歳～39歳		○		自宅での暮らしが出来ている間は、サポートでもほぼ大丈夫だと考えられるが、その後年を重ねる毎に、一人での生活をサポートするだけでは、不十分になる。バックアップ体制が必要。ショートの利用、施設への入居など。スタッフの人手不足など。
3	女性	30歳～39歳		○		保護者記入。
4	男性	40歳～49歳			○	障がいを抱えた方がよりよく過ごせる社会とそれ以前に障がい者に対する理解がもっと社会に広がって行けば良いと思います。
5	男性	40歳～49歳			○	バス回数券を自分で購入し、お金が戻ってくるシステムが理解できない。なんの為に手帳があるのか？手帳を提示して乗り降りできるシステムにすればいいだけの事。通院の際にお金がなく、何度も苛立ちを感じた。手帳を持っている者がなぜ更に不満不便を感じなければいけないのか。今回のアンケートを機に改善を願う。
6	女性	50歳～59歳	○			在宅重度障害者対策事業給付券については、(1)のねたきり老人等の区分をもっと幅広く、常時必要な状況の方への支援も考えて欲しい。
7	女性	60歳～69歳			○	スーパー、病院、その他のようじタクシー代がかかり、年金だけではくらしにくい。物価もあがり、この先どうやって生きていけばいいのか？とても不安。村長が変わっても北塩原は何も変わらない。そして、何もかも不便。いずれは、生きる所を探すつもり。ここにはいたくない。生きてると、じかくがしない。年金の少ない人には支援してもらいたい。
8	男性	60歳～69歳	○			私は人口透析を始めて11年が過ぎました。その間は役場の方々には、大変御世話になりました。
9	男性	60歳～69歳	○			周辺に大きな病院がないために、他の地域へ通院するので交通費の支援は絶対に必要。
10	女性	60歳～69歳	○			役場本庁舎の多目的トイレに左つかまり立トイレがない。コロナワクチン接種時、トイレ行くのにダイユーエイトまで行った。人によっては、右が不自由、左が不自由があります。

No.	性別	年齢	手帳の種類			自由意見
			身 体	療 育	精 神	
11	女性	70歳以上	○			私は病院に通うにも車の運転が出来なく今は主人の車で行くのですが、その後は運転手が居なくなれば足腰が悪いため歩くのにも大変ですし、私としては交通の便を考えてほしいですネ。ある町では、年とった方達にそういう事を便利しているみたい。北塩原から喜多方～若松間は大変です。年のとった方をもっとめんどろ見て下さい。
12	女性	70歳以上	○			物価高で生活が心配である。
13	女性	70歳以上	○			私は呼吸機能障害なので、人について歩くのもままなりません。ただ自分のペース（そろりそろり）ならあるけます。だから、ゆっくりと自分の事は出来ると思ってます。自分で（ガンバレガンバレ）と思って走っています。今83才ですから今何年生きる事が出来るのかガンバルつもりです。
14	男性	70歳以上	○			職員数が少ないため、やむを得ないことかも知れないが、このようなアンケートではなく、直接本人と会い要望をきくだけでなく、実態を自分の目で視、身体で感じないと立派な計画も中味のないものになってしまう。合併しなかったメリットをもっと生かすべき。
15	男性	70歳以上				実態のハアク。

第7期北塩原村障がい福祉計画及び
第3期北塩原村障がい児福祉計画策定に係る
アンケート調査

令和6年3月

発行：北塩原村

企画・編集：北塩原村 住民課 医療福祉班
